- 設置の趣旨等を記載した書類　目次 -

１．設置の趣旨及び必要性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 2

２．学部・学科等の特色・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 6

３．大学、学部・学科等の名称及び学位の名称・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 8

４．教育課程の編成の考え方及び特色・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 9

５．教育方法，履修指導方法及び卒業要件・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 18

６．多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の

場所で履修させる場合の具体的計画・・・・・・ p. 21

７．編入学定員を設定する場合の具体的計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 23

８．実習の具体的計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 24

９．取得可能な資格・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 27

１０．入学者選抜の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 28

１１．教育研究実施組織等の編制の考え方及び特色・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 31

１２．研究の実施についての考え方，体制，取組・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 33

１３．施設・設備等の整備計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 34

１４．２以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画・・・・・・・・・・ p. 37

１５．管理運営・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 38

１６．自己点検・評価・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 40

１７．情報の公表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 42

１８．教育内容等の改善のための組織的な研修等・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 45

１９．社会的・職業的自立に関する指導等及び体制・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 47

１．設置の趣旨及び必要性

（１）設置の理由・必要性

東北工業大学（以下「本学」という。）は、昭和 39(1964)年に、「わが国、特に東北地方の産業界で指導的役割を担う高度の技術者を養成する」という建学の精神を掲げて、工学部電子工学科及び通信工学科の設置をもって開学した。「人間・環境を重視した、豊かな生活のための学問を創造し、それらの統合を目指す教育・研究により、持続可能な社会の発展に寄与する」という理念のもと、現在３学部（工学部、建築学部、ライフデザイン学部）で収容定員 3,040 名を抱える、東北地方を代表する工科系私立大学として現在に至る。

さて、近年の情報通信技術（ICT）の急速な進展は、第４次産業革命や超スマート社会（Society5.0）として、産業や社会の急速な構造変革をもたらし、工学の諸分野はもとよりあらゆる分野において、AI（人工知能）をはじめとする ICT が技術革新（DX：デジタル・トランスフォーメーション）の中心を担っている。一方、地球規模の課題である環境問題の解決に向けては、再生可能エネルギーやカーボンリサイクルなどによる脱炭素社会の構築（GX：グリーン・トランスフォーメーション）が急がれている。令和 4(2022)年にとりまとめられた教育未来創造会議による「我が国の未来をけん引する大学等と社会の在り方について（第一次提言）」でも、国民全体のデジタルリテラシーの向上や、さらに地球規模の課題解決による価値創造を推進し、Society5.0 と持続可能な開発目標(SDGs)の双方を実現する「Society5.0 for SDGs」に向けての取り組みの強化がうたわれ、デジタル・グリーン成長分野をけん引する高度専門人材の育成強化がその中心施策として打ち出されている。

このような理工系人材育成への大きな期待がある一方で、技術革新を担う人材には、従来の学問分野の枠組みを越えた分野横断的な知識や思考力が求められる。大学における工学系教育の在り方に関する検討委員会によって取りまとめられた「大学における工学系教育の在り方について（中間まとめ）(2017)」においては、これからの社会を見据えて工学教育において輩出すべき人材として、社会における工学の価値を理解し、自律的に学ぶ姿勢を具備するとともに、原理・原則を理解する力、構想力、アイデア創出能力、問題発見能力、課題設定能力、モデル化能力、課題解決･遂行能力を持つことと、スペシャリストとしての専門の深い知識と同時に、分野の多様性を理解し、他者との協調の下、異分野との融合・学際領域の推進も見据えることができるジェネラリストとしての幅広い知識・俯瞰的視野を持つことの重要性が指摘されている。工学教育には、知識集約型社会としての超スマート社会の基盤を支える重要な分野として、工学に共通する普遍的な基礎教育の強化と、旧来の分野構成の枠組みにとらわれず、分野を横断する多様で柔軟な工学教育のしくみが、各大学の個性に基づいた多様化とともに期待されている。また、「2040 年に向けた高等教育のグランドデザイン」（中央教育審議会答申（2018））では、このような予測不可能な時代にあって未知の課題を解決する人材を養成するため、従来型の教育からの質的な転換を求めており、初等教育から高等教育まで一貫して「主体的・対話的な深い学び」の視点に立つ学修者本位の教育への一大転換が図られている。大学には普遍的な知識と汎用的技能を文理横断的に理解し身に付けたうえで、時代の変化に対し積極的・主体的・自律的に、論理的思考力をもって関与する資質の育成が求められ、同時にまた産業界からの要請とも相まって、教育改革の要としての「出口」における質保証が、

大学が果たすべき社会的責任として問われている。

これらを背景として本学工学部の教育について、３つのポリシー（本学ではAEGGポリシー）に基づく教学マネジメント体制の確立と、学位プログラムレベルでの学修成果の把握・可視化のためのシステム構築を念頭に置きながら、改めて本学が提供する各教育プログラムにおいて、学生が身に付ける能力（本学では「共通学士力」と「専門学士力」として規定）を再確認し、本学にふさわしい教育研究組織体制のあり方を検討した。前述の社会変化に加えて、建学の精神に照らし地域に根ざした大学として60年にわたり培った実績と教育資産、及び地域社会・産業界からの信頼に裏打ちされた期待と要請に鑑みて、現行の４学科（電気電子工学科、情報通信工学科、都市マネジメント学科、環境応用化学科）が基盤とする学問分野を核としながら、より柔軟に分野横断型教育を提供することが、本学が掲げる理念や工学部が掲げる「養成する人材像」の実現において必要であると判断した。それを最も効果的に具現化する学部組織体制が課程制であるため、現行の工学部を廃止し、「電気電子工学課程」「情報通信工学課程」「都市工学課程」「環境応用化学課程」からなる工学部を新たに設置することとした。

（２）課程制としての教育課程の特徴

課程制の教育は、これまでの学科縦割りの教育と異なり、学士課程として必要な各課程専門分野の基礎教育を重視しつつ、既成分野の枠組みにとらわれない幅広い学びを提供する。それは、「情報」関連分野等の工学に共通する基礎科目の充実を図るとともに、「分野横断プログラム」を全課程間で相互にかつ体系的に提供する教育課程を特徴とする。分野横断の学びは社会的要請に基づくものであると同時に、学生自身の将来像の明確化に繋がり、その実現に向けての意欲を引き出す効果が期待される。教員は工学部に所属し、各課程の教育を担当する柔軟な組織体制に移行する。このように本組織改編は、幅広い工学に関する教育体制としての課程制の意義を踏まえ、その趣旨に則ったものである。

（３）養成する人材像

本学は建学の精神を踏まえ、「専門家として必要な素地、調和のとれた人格、優れた創造力と実行力を備えた人材の育成」を教育方針に掲げている。工学部は、前述のとおり今日の予測困難な社会が直面する様々な課題に対して柔軟に対応することのできる工学技術者として、「それぞれの専門分野に必要なスペシャリストとしての知識・技術と、ジェネラリストとしての幅広い知識・俯瞰的視野、及び社会・環境への影響についての洞察力に基づく倫理観を有し、地域と産業界で指導的役割を担う実践力・課題解決能力を備えた技術者」を養成し、「人間・環境を重視した工学を創造し、社会との真の融合を目指すことにより、地域に根ざした文化と産業の発展に寄与する」ことを教育研究上の目的としている。

工学部が掲げる「養成する人材像」を受け、課程ごとにも「養成する人材像」と「教育研究上の目的」を定めている。

【資料１：工学部および各課程の「養成する人材像」と「教育研究上の目的」】

（４）AEGG ポリシー（３ポリシー）と養成する人材像との整合性

本学が掲げる建学の精神と「養成する人材像」、「教育研究上の目的」を達成するために、本学は全学ならびに各課程において AEGG ポリシー[*1] を定めている。

【資料２：東北工業大学 AEGG ポリシー】

学位授与の方針では、専門分野に依らない汎用的能力として全学に共通な「共通学士力」と、各課程専門分野の「教育研究上の目的」により定める「養成する人材像」において、具体的に身に付けるべき能力として「専門学士力」を定めている。全学の教育課程編成・実施の方針により、専門学士力の各項目に対応するコア科目が定められており、コア科目を軸にカリキュラムの体系化が図られている。各課程が掲げる「養成する人材像」と「教育研究上の目的」に基づいて定められた、各課程の学位授与の方針（「共通学士力」と「専門学士力」を身に付けていること）とカリキュラムの相関関係・整合性は、カリキュラムマップとしてまとめられている。

【資料３：工学部各課程のカリキュラムマップ（履修の流れ）】

また学修成果の把握と可視化については、本学アセスメントポリシーにおいて、大学レベル、教育課程レベル、授業科目レベルの各レベルにおけるその実施方針が定められており、「教育の質保証」の仕組みを整えている。

【資料４：東北工業大学アセスメントポリシー】

入学者選抜については、工学部４課程は課程ごとに定員を定めて選抜を行うが、受け入れる学生に求める学修成果と各入試区分との対応関係は、全学の「入学者受け入れの方針」に定められている。それに基づいて工学部４課程は同一の入学者選抜方法をとるが、各課程が求める資質・能力は、課程ごとの「入学者受け入れの方針」として定められている。

【資料２：東北工業大学 AEGG ポリシー】

[*1] 注）AEGG ポリシー：

いわゆる３ポリシーの、「卒業認定・学位授与の方針」（ディプロマ・ポリシー）を Graduation Policy に、「教育課程編成・実施の方針」（カリキュラム・ポリシー）を Education Policy に言い換え、「入学者受け入れの方針」（アドミッション・ポリシー：Admission Policy）に「学生指導の方針」（Guidance Policy）を加えた４つのポリシーを本学では AEGG ポリシーとして定めている。

（５）研究対象とする中心的な学問分野

各課程が研究対象とする中心的な学問分野は以下のとおりである。

【電気電子工学課程】

電気電子工学課程の研究分野は、「電子機械・ロボット系」「医工学・バイオ系」「光・情報デバイス系」「電気・エネルギー系」の４分野で構成される。中心的な学問分野は、電気工学、電子工学であり、機械工学、ロボット工学、生体医工学、半導体工学、電力工学、エネルギー工学を含む。

【情報通信工学課程】

情報通信工学課程の研究分野は、「光量子・フォトニクス系」「電磁波・ワイヤレス系」「IoT・システム系」「AI・データサイエンス系」の４分野で構成される。中心的な学問分野は、情報工学、通信工学であり、コンピュータ工学、ネットワーク工学、ソフトウェア工学、光エレクトロニクス、電波工学を含む。

【都市工学課程】

都市工学課程の研究分野は、「構造・建設材料系」「地盤・防災技術系」「河川・環境技術系」「都市・交通計画系」の４分野で構成される。中心的な学問分野は、土木工学、都市工学であり、地盤工学、防災工学、水工学、環境工学、交通工学を含む。

【環境応用化学課程】

環境応用化学課程の研究分野は、「機能材料系」「プロセス工学系」「グリーンサステイナブルケミストリー系」「環境保全系」の４分野で構成される。中心的な学問分野は、応用化学であり、材料工学、化学工学、電気化学、環境化学、生化学、環境保全工学、応用生態学を含む。

２．学部・学科等の特色

（１）工学部の特色

本学工学部は、本学建学の精神に基づき、指導的役割を担う高度の工学技術者を育成することを目的としており、開学以来 60 年を経て、東北地方の代表的な私立大学工学部としての地位を築いている。前述の設置の趣旨で述べた背景のもと、専門分野に必要なスペシャリストとしての知識・技術と、ジェネラリストとしての幅広い知識・俯瞰的視野を持つ人材を育成するために、現行の工学部を廃止し、「電気電子工学課程」「情報通信工学課程」「都市工学課程」「環境応用化学課程」からなる工学部を新たに設置することとした。専門分野に必要なスペシャリストとしての知識・技術を得るために、従来の学科制におけるカリキュラムの多くの科目を踏襲しながらも、ジェネラリストとしての幅広い知識・俯瞰的視野を養成するために、「工学部共通専門科目」および、「分野横断プログラム」を新たに設置する。「工学部共通専門科目」は、工学に共通する普遍的な基礎教育の強化を目指した科目群であり、数学やデータサイエンスの基礎など、工学のあらゆる専門分野に共通して必要な知識や工学技術者としての心構えも学ぶ。「分野横断プログラム」は旧来の分野構成の枠組みにとらわれない学際領域の知識の修得を目指すプログラムとして、２つの課程をまたいで構成されるタイプⅠ（課程横断型）の分野横断プログラムと、他課程の学生向けに幅広い知識の修得を目指して、１つの課程のみで構成されるタイプII（課程完結型）の分野横断プログラムからなる。なお、以下の課程の特色で詳述する分野横断プログラムの例は設置当初のものであり、今後追加・変更もありうる。

【資料５：分野横断プログラム（タイプⅠ：課程横断型）】

【資料６：分野横断プログラム（タイプⅡ：課程完結型）】

（２）課程の特色

【電気電子工学課程】

電気電子工学課程の中心的な学問分野は、電気工学と電子工学であり、機械工学、ロボット工学、生体医工学、半導体工学、電力工学、エネルギー工学を含む。また、研究分野は、「電子機械・ロボット系」「医工学・バイオ系」「光・情報デバイス系」「電気・エネルギー系」の４分野で構成される。さらに、タイプⅠの分野横断プログラムとして、情報通信工学課程と「電気通信」・「IoT システム」・「IoT テクノロジー」、都市工学課程と「災害対応ロボティクス」・「建設 DX」、環境応用化学課程と「生体医工学」・「材料デバイス」・「環境エネルギー」を提供し、タイプ II の分野横断プログラムとして、「電気電子工学の魅力プログラム」を提供する。

【情報通信工学課程】

情報通信工学課程の中心的な学問分野は、情報工学と通信工学であり、コンピュータ工学、ネットワーク工学、ソフトウェア工学、光エレクトロニクス、電波工学を含む。また、研究分野は、「光量子・フォトニクス系」「電磁波・ワイヤレス系」「IoT・システム系」「AI・データサイエンス系」の４分野で構成される。さらに、タイプⅠの分野横断プログラムとして、電気電子工学課程と「電気通信」・「IoT システ

ム」・「IoT テクノロジー」、都市工学課程と「災害情報」・「プラス・セキュリティ」、環境応用化学課程と「物質データサイエンス」・「光通信デバイス」を提供し、タイプ II の分野横断プログラムとして、「C 言語プログラム」を提供する。

【都市工学課程】

都市工学課程の中心的な学問分野は、土木工学、都市工学であり、地盤工学、防災工学、水工学、環境工学、交通工学を含む。また、研究分野は、「構造・建設材料系」「地盤・防災技術系」「河川・環境技術系」「都市・交通計画系」の４分野で構成される。さらに、タイプ I の分野横断プログラムとして、電気電子工学課程と「災害対応ロボティクス」・「建設 DX」、情報通信工学課程と「災害情報」・「プラス・セキュリティ」、環境応用化学課程と「環境アセスメント」を提供し、タイプ II の分野横断プログラムとして、「都市の計画とまちづくりプログラム」・「防災・減災プログラム」を提供する。

【環境応用化学課程】

環境応用化学課程の中心的な学問分野は、応用化学であり、材料工学、化学工学、電気化学、環境化学、生化学、環境保全工学、応用生態学を含む。また、研究分野は、「機能材料系」「プロセス工学系」「グリーンサステイナブルケミストリー系」「環境保全系」の４分野で構成される。さらに、タイプ I の分野横断プログラムとして、電気電子工学課程と「生体医工学」・「材料デバイス」・「環境エネルギー」、情報通信工学課程と「物質データサイエンス」・「光通信デバイス」、都市工学課程と「環境アセスメント」を提供し、タイプ II の分野横断プログラムとして、「危険物取扱者プログラム」を提供する。

（３）本学部の設置が大学へ与える影響

これまでの工学部を母体として課程制工学部を設置するため、上位組織である大学の特色等に変更はない。今後は課程制の趣旨を全学レベルに広げ、本学ブランディング推進事業において定めた「広く学び、知をつなぐ」という本学の提供価値の実質化を、他学部及び学部間においても推進し、本学の特色とすることを計画している。

３．大学、学部・学科等の名称及び学位の名称

（１）学部・課程の名称及び学位の名称

本学部、課程の名称及び授与する学位の名称は、以下のとおりとする。

学部名称	工学部 （Faculty of Engineering）
課程名称	電気電子工学課程 （Department of Electrical and Electronic Engineering）
	情報通信工学課程 （Department of Information and Communication Engineering）
	都市工学課程 （Department of Civil Engineering）
	環境応用化学課程 （Department of Applied Chemistry and Environment）
学位名称	学士（工学） （Bachelor of Engineering）

（２）上記名称とした背景等

電気電子工学課程、情報通信工学課程、環境応用化学課程は現在の学科名称を踏襲した名称となっており、広く社会に認知された工学分野である。

都市工学課程は、現在の都市マネジメント学科を母体とし、工学における技術分野をより明確化するために、都市工学課程に名称変更する。

また、各課程における専門教育ばかりでなく、工学に関する共通教育により、工学に関する諸課題に取り組むことができる技術者としての能力を修得することを求めていることから、学位の名称を「学士（工学)」とする。

４．教育課程の編成の考え方及び特色

（１）科目区分の設定及び理由

工学部の開講科目は「教養教育科目」と「専門教育科目」に大別され、「専門教育科目」は「工学部共通専門科目」「自課程専門教育科目」「学際」「特別課外活動」から構成されている。

Educationポリシー（カリキュラム・ポリシー）では、体系的な教養教育と専門教育のカリキュラムを編成することとしており、前者に関する科目を「教養教育科目」、後者に関する科目を「専門教育科目」に設定した。さらに、前述の設置の趣旨で述べた背景のもと、「専門教育科目」について、専門分野を学ぶために必要な基礎学問やジェネラリストとしての幅広い知識・俯瞰的視野を養うための「工学部共通専門科目」、専門分野に必要なスペシャリストとしての知識・技術を得るための「自課程専門教育科目」に分類し、さらに、「学際」、「特別課外活動」を設けた。

（２）各科目区分の科目構成及び理由

１）教養教育科目

①地域・文化・社会：

現代の社会、および現代の文化（生活）や地域の諸問題を考えるための基礎的な視点や知識を身に付けることを目標としており、工学が社会や文化とも深く結び付いていることからも、専門教育科目と相互に照らし合わせながら学ぶことができるよう１年次～４年次まで科目を設定している。１～２年次は社会や文化の諸相について導入的に学ぶ期間とし、『表象文化論』『メディア文化史』『現代社会論』などの科目を配置している。３～４年次は倫理、思想、哲学といった社会や文化においてより踏み込んだ内容について学ぶ期間とし、『産業社会と倫理』『科学思想史』『現代の哲学』などといった科目を配置している。

②言葉と表現：

専門課程において要求される読解力、また社会に出てから要求される言語による自己表現と相互理解の能力を身につけることを目標としている。文章を正しく理解し、まとめる、あるいは自身で文章（言葉）をチェックするといった主体的な日本語力を養う『スタディスキル』の他、英語力を養う『英語ＩＡ／ＩＢ』『英会話Ⅰ～Ⅳ』『資格英語Ⅰ～Ⅲ』などを配置している。

③心と体の健康：

身体運動と心身の健康についての正しい知識と実践能力を修得し、コミュニケーション力、リーダーシップの向上に役立てることを目標としている。心身の健康課題と管理方法を学ぶ『健康・運動科学実習Ⅰ・Ⅱ』、スポーツ種目を実践しながら心身の健康を養う『スポーツ科学実習』を配置している。

④キャリアデザイン：

自身のキャリアをデザインすることについての意識を高め、その能力を身に付けることを目標とし、１年次に『キャリアデザインⅠ』（基礎）、２年次に『キャリアデザインⅡ』（応用）、３年次に『キャリアデザインⅢ』（発展）を配置している。

⑤AI・データサイエンス：

政府が取りまとめた「AI 戦略 2019」に対応し、全ての学部学生に数理・データサイエンス・AI のリテラシーレベル教育を必修化している。AI やデータサイエンスを日常生活や仕事等の場で使いこなすことができる基礎的素養を主体的に身に付けることを目標としており、１年次前期に『人工知能総論』（必修）、１年次後期に『人工知能入門』（選択）、３年次前期に『人工知能基礎』（選択）、３年次後期に『人工知能応用』（選択）を配置している。

⑥グリーンテクノロジー：

政府による「グリーン成長戦略」に掲げる目標の達成に寄与するため、様々な対策技術の開発は無論のこと、技術の背景となる地球環境に関する基礎的かつ体系的な教育を受けた人材を育成することを目標としている。１年次後期に『グリーンテクノロジー』（必修）、２年次前期に『サステナビリティ入門』（選択）、２年次後期に『地球環境と諸問題』（選択）を配置している。

また、上記以外でも、教育職員免許状の取得に関連する科目を配置した「教職関連」、実践的で多様な学びを可能にする『特別課外活動Ⅰ～Ⅳ』や、他大学等での開講科目を履修できる『他大学等教養科目群』も配置している。

２）工学部共通専門科目

本学の Education ポリシー（カリキュラム・ポリシー）に基づき、数学やデータサイエンスの基礎など、工学のあらゆる専門分野に共通して必要な知識を学び、専門科目を受講する能力を育成する科目として１年次に『数学基礎』『物理基礎』『化学基礎』『情報基礎』『線形代数』『物理学Ⅰ』を、２年次に『統計基礎』を配置している。さらに、幅広い工学系の知識を得るとともに、これから社会で活躍するために必要な心構えを育成する科目として１年次に『フレッシュパーソンセミナー』『工学概論』を配置している。

３）自課程専門科目

【電気電子工学課程】

①工学基礎:

電気電子工学を学ぶために必要となる主に数学、物理、化学の基礎知識を身につけることを目標とする。工学部共通専門科目９科目に加え、数学では、電気電子工学において必須となる三角関数、ベクトルと行列、微積分、ラプラス・フーリエ変換などの修得のため、１年次に『電気数学Ⅰ及び同演習』、『電気数学Ⅱ及び同演習』を必修科目として配置し、さらに２年次に選択科目『電気数学Ⅲ』を配置している。また物理においては、主に力学、波動、光、電流と磁界などの基礎力の修得のために、２年次に選択科目『物理学Ⅱ』を配置している。化学においては、主に化学結合、反応とエネルギーなどの基礎の修得のために、１年次に必修科目『無機化学』を配置し、２年次に選択科目『電気化学』を配置している。

②電気電子基礎:

電気電子工学の専門知識の基礎を身に付けることを目標とする。電気回路および電子回路についての基礎知識の修得のため、１年次に『電気回路Ⅰ及び同演習』、２年次に『電気回路Ⅱ及び同演習』『電気回路Ⅲ』を配置している。電磁気学についての基礎知識の修得のため、２年次に『電磁気学Ⅰ』『電磁気学Ⅱ』を配置している。また、電子デバイス技術についての基礎知識の修得のために必修科目『固体電子工学Ⅰ』を、論理回路についての基礎知識の修得のために『ディジタル回路』を、センシング技術の基礎を修得するために『電気電子計測』をそれぞれ２年次に配置している。これらは全て必修科目としている。

③電気電子応用:

電気電子工学のより専門的な知識について学び、卒業研究で必要となる知識・技術の修得を目標としている。そのため、電気電子基礎の各科目の内容をさらに深めることができるよう構成している。電気回路について、高周波回路や分布定数回路等のより専門な知識を修得するため、３年次に選択科目『電気回路Ⅳ』を配置している。また、発電や配電などの日常生活で使用されている技術の理解と修得のため、３年次に選択科目『電気機械工学』を配置している。電子回路については、電子機器等に応用されるダイオード、トランジスタ回路、オペアンプ回路などについての専門知識の修得のため、必修科目として３年次に『電子回路Ⅰ』『電子回路Ⅱ』を配置している。電子デバイス技術についての専門知識の修得のため、選択科目『固体電子工学Ⅱ』を３年次に、選択科目『電気電子材料』を４年次に配置しており、主に「光・情報デバイス系」の研究に応用することができるようにしている。センシング技術についての専門知識を修得するため、選択科目『センサ工学』を３年次に、選択科目『バイオ・光エレクトロニクス』を４年次に配置しており、主に「医工学・バイオ系」の研究に応用することができるようにしている。論理回路を基本とするマイクロコンピュータによる制御についての専門知識を修得するため、選択科目『制御工学』を３年次に、選択科目『ロボティクス』を４年次に配置しており、主に「電子機械・ロボット系」の研究に応用することができるようにしている。また、電力およびエネルギーについての専門知識の修得のため、３年次に選択科目『電力工学概論』、４年次に選択科目『パワーエレクトロニクス』『エネルギー変換工学』を配置しており、主に「電気・エネルギー系」の研究に応用することができるようにしている。そして、ハードウェアの専門性を身に付け、実践的なものづくりに必要な技術の修得のため、３年次に『CAD 製図』を必修科目として配置している。さらに、技術者として仕事をする上で必要となる知識の修得のため、４年次に選択科目『電気法規』『品質管理及び知的財産』を配置している。

④情報技術:

電気電子工学におけるソフトウェアについての専門性を身に付けることを目標とする。計算機に関する基礎的な知識の修得のため、『基本情報技術Ⅰ』を２年次に必修科目として配置し、さらに２年次に選択科目『基本情報技術Ⅱ』、３年次に選択科目『基本情報技術Ⅲ』を配置している。また実践的なプログラム作成能力を身につけるため、１年次に『プログラミングⅠ』『プログラミン

グⅡ』を必修科目として配置し、２年次に選択科目『アルゴリズム基礎』を配置している。そして、計算機に関する専門的な知識と応用情報技術を修得するため、２年次に選択科目『コンピュータネットワーク』『数値計算法』を配置し、３年次に選択科目『マルチメディアシステム』『情報理論』を配置している。

⑤電気電子工学総合:

電気電子工学分野のハードウェアとソフトウェアの専門性を備えた人材育成を目標とする。１年次に配置した『工学基礎実験』、２年次に配置した『電気電子工学実験Ⅰ』、３年次に配置した『電気電子工学実験Ⅱ』、『電気電子工学実験Ⅲ』の実験科目を通じて、電気電子工学の様々な現象や原理を理解するための実験を行い、能動的学びにより専門知識と技術を実学として修得する。これらはいずれも必修科目としている。また、３年次に配置した選択科目『組込システム入門』『創造開発』では、マイクロコンピュータを用いた組込みシステムの構築技術を学び、ロボットや制御機器などのものづくりを経験し、実践力を身に付ける。そして、配属研究室で実施する必修科目『卒業研修Ⅰ』『卒業研修Ⅱ』『卒業研修Ⅲ』を通じて、課題発見・解決能力とプレゼンテーション能力を身に付ける。大学院進学や就職活動に向けた指導も実施し、将来電気電子工学分野で活躍できる人材を養成する。

【情報通信工学課程】

①工学基礎：

情報通信工学を学ぶ上で必要となる、数学や物理の基礎知識を身につけることを目標とする。工学部共通専門科目９科目に加え、数学では、１年次に必修科目として『ベクトルと行列』を、２年次には選択科目『統計学』を配置している。また、物理では２年次に選択科目『物理学Ⅱ』を配置している。

②情報ネットワーク：

コンピュータハードウェア、コンピュータネットワークに関する基礎知識を身につけ、ディジタル信号処理、情報理論、セキュリティなどの理解に応用できることを目標とする。情報を使いこなすための基本的な知識を身につけるため、１年次に必修科目『情報リテラシーⅠ』『情報リテラシーⅡ』を、２年次に選択科目『基本情報技術Ⅰ』『基本情報技術Ⅱ』を、３年次に選択科目『基本情報技術Ⅲ』を配置している。コンピュータネットワークの原理や通信の仕組みを修得し、コンピュータに蓄積されてネットワーク上を流れる大量のデータの保守・管理を学ぶため、１年次に必修科目である『コンピュータネットワークⅠ』を、２年次に選択科目『コンピュータネットワークⅡ』を、３年次に選択科目『情報セキュリティ』を配置している。コンピュータの構造をハードの面から深く理解するため、２年次に必修科目である『論理回路』『計算機工学Ⅰ』を、３年次に選択科目『計算機工学Ⅱ』を配置している。さらに、情報を伝送する際に必要な基礎知識となる選択科目『情報理論』を３年次に配置している。

③情報プログラミング：

基本的なアルゴリズム、データ構造に関する基礎知識を身につけ、基本的なプログラミングができるようになり、各種アプリケーションや組込みシステムのプログラミングの理解に応用できるようになることを目標とする。１年次に必修科目『プログラミング入門』『アルゴリズムとデータ構造及び同演習』を配置し、２年次にはより高度な選択科目である『プログラミング実践』『ソフトウェア設計』『コンピュータ数値解析』を配置し、３年～４年次には応用となる選択科目『アプリケーション開発』『ディジタル信号処理』『コンピュータグラフィックス技術』『組込みシステム設計』『音響工学』を配置している。さらに高度なデータ解析や大規模データを扱えるようになることを目指し、２年次に選択科目『データベース』、４年次に選択科目『データ分析』を配置している。

④通信システム：

通信システムの基礎知識を身につけ、光通信システム、無線通信システムなど各種通信システムの理解に応用できることを目標とする。２年次以降の専門科目を受講する上で基礎となる必修科目『情報通信工学入門』『解析Ⅰ』『解析Ⅱ及び同演習』を１年次に配置し、さらに高度な内容を学ぶため、２年次には選択科目『解析Ⅲ』『電気数学』『電磁気学Ⅰ』を配置している。情報通信ネットワークを構成する無線通信システム、光通信システムの基礎知識を修得することを目指し、３年次に必修科目『通信工学Ⅰ』と選択科目『通信工学Ⅱ』『電磁気学Ⅱ』『電波工学』を、４年次に選択科目『光通信工学』『電気通信法規』を配置している。

⑤通信デバイス：

電気回路、電子回路の基礎知識を身につけ、光ファイバ、レーザ、アンテナなどの各種通信デバイスを理解に応用できることを目標とする。２年次以降の専門科目を受講する上で基礎となる必修科目『電気回路入門』を１年次に配置し、さらに高度な内容を学ぶため、２年次には必修科目『電気回路Ⅰ及び同演習』『電子回路Ⅰ及び同演習』と選択科目『電気回路Ⅱ及び同演習』を配置し、３年次には選択科目『電気回路Ⅲ』『半導体デバイス』『電子回路Ⅱ』『電気・電子計測』を配置している。応用となる選択科目として４年次に『電力工学』を配置している。

⑥情報通信工学総合：

将来の情報通信分野を担う技術者育成を目標としている。３年次前期に配置した必修科目『情報通信工学セミナー』では、研究室への配属や卒業後の進路を考えるための準備として、各研究室の研究紹介、大学院進学および就職活動に関する指導を実施する。３年次後期から配置する必修科目『卒業研修Ⅰ』『卒業研修Ⅱ』『卒業研修Ⅲ』では、情報通信工学科の教育方針である「堅固な専門基礎力」と「柔軟で個性的な応用力」の総合教育のために各研究室の方針により研修を行い、情報通信技術分野でのプロフェッショナルとして最低必要なノウハウを養う。また、レポート作成や学術的、技術的文書作成の基本技能を修得するため、２年次に必修科目『アカデミックスキル』を配置している。アナログ回路やディジタル回路の測定など通信系の実験、コンピュータを用いた情報の取り扱いなどの情報系の実験を通して、実験過程と結果を適切に記録・整理し、内容の理解と考察を行い、レポートにまとめることを学ぶため、２年次～３年次に必修科目『情報通信工学実験Ⅰ』『情報通信工学実験Ⅱ』と選択科目『情報通信工学実験Ⅲ』を配置している。

【都市工学課程】

①工学基礎：

都市工学の専門科目修得に必要な主に数学、物理、化学の基礎知識を得ることを目標とする。工学部共通専門科目９科目に加え、数学では、１年次に必修科目『微分積分』、２年次に必修科目『応用数学』、３年次に選択科目『統計解析』を配置している。化学では、１年次に必修科目『化学』を配置する。さらに大規模かつ高度なデータ処理やCAD技術を扱えるようになることを目指して、１年次に必修科目『プログラミング入門』『CAD』、２年次に選択科目『プログラミング演習』を配置している。

②土木材料・構造工学：

コンクリートや鋼に代表される土木材料の基本的な知識、ならびに工学において普遍的な構造の力や変形、破壊に関する知識や感覚を力学に基づいて学び、構造物の設計、施工、維持管理等に必要となる構造工学の基礎が理解できることを目標とする。コンクリートでは、１年次に必修科目『コンクリート』、２年次に必修科目『鉄筋コンクリートⅠ』とより高度な選択科目『鉄筋コンクリートⅡ』を配置している。また、３年次にはアスファルトコンクリートも扱う選択科目『道路工学』を配置している。鋼では、２年次に必修科目『構造力学基礎I』『構造力学基礎Ⅱおよび同演習』を配置し、３年次にはより高度な選択科目『構造力学応用』、４年次には応用となる選択科目『鋼構造学』を配置している

③地盤工学：

土という粒の集合体である特殊な材料について基本的な知識を身につけ、そのふるまいを有効応力の原理に基づき理解し、圧密、土圧や支持力・斜面安定等の諸問題について理解できることを目標とする。１年次に日本に固有の地盤災害と密接に関連した『地震工学』を必修科目として配置し、学習のモチベーションとし、２年次に安全な設計を理解する基礎となる『基礎地盤工学』と『応用地盤工学』を配置する。３年次には、より広範囲な地盤災害事例とその原因と対応策を教える『地盤防災工学』を配置している。

④水工学・土木環境システム：

水工学では水の流れや河川・海岸の状況および洪水や災害などの基本的な知識と思考力を身につけ、環境では環境保全や持続可能な社会の創出等の社会問題について自主的・継続的に学び続けることができることを目標とする。水工学では、２年次に必修科目『水理学基礎Ⅰ』『水理学基礎Ⅱ』を配置し、３年次にはより高度な選択科目『水理学応用Ⅰ』『水理学応用Ⅱ』『河川工学』『水文学』を配置している。環境では、１年次に必修科目『環境防災工学』を配置し、２年次にはより高度な選択科目『環境システム』を配置し、３年次には必修科目『上下水道工学』と応用となる選択科目『都市環境工学』を配置している。

⑤土木計画学・建設マネジメント：

都市や交通の計画に必要となる基礎的な知識と思考力を身につけるとともに、建設事業の理解と課題解決に向けた取り組み、建設プロジェクトの管理に必要となる知識と応用力を養うことを目標

とする。１年次には選択科目『人間行動と心理』『都市と観光』を配置し、２年次に必修科目『社会的計画論』と選択科目『数理的計画論および同演習』『都市政策入門』『経済学通論』を配置し、３年次にはより高度な選択科目『都市計画』『都市交通計画』を配置している。さらに、建設プロジェクトの管理に必要となる知識と応用力を養うため、３年次に必修科目『社会基盤マネジメント』を配置し、４年次に選択科目『プロジェクトマネジメント』を配置している。

⑥都市工学総合：

将来の都市工学分野を担う高い倫理観・広い国際的視野を持った技術者育成を目標とする。さらに都市工学は社会との接点が極めて多いという特徴からもコミュニケーション能力を備えるため、１年次から２年次に配置される必修科目『都市工学セミナーⅠ』『都市工学セミナーⅡ』『都市工学セミナーⅢ』『都市工学セミナーⅣ』において技術者倫理およびプレゼンテーションやコミュニケーション力に関する指導を実施する。また３年次後期に配置する必修科目『都市工学セミナーⅤ』では、研究室への配属や卒業後の進路を考えるための準備として、各研究分野の研究事例紹介、大学院進学および就職活動に関する指導を実施する。３年次後期から配置する必修科目『卒業研修Ⅰ』『卒業研修Ⅱ』『卒業研修Ⅲ』では、解決すべき研究課題について自主的・継続的に考え、専門知識を活用して科学的かつ論理的な卒業論文の作成ができ、その内容を適切にプレゼンテーションできる、都市工学分野でのプロフェッショナルとしての能力を養う。また、精度の高い空間位置情報に必要となる測量の基礎理論と、位置情報の取得にかかわる基本技能を修得するため、２年次に必修科目『空間測量Ⅰ』『空間測量実習』、３年次に必修科目『空間測量Ⅱ』と選択科目『地理情報システム』を配置する。さらにこれまでに学んだ理論を実現象として理解した上で、現象を適切に記録・整理し、考察を加えながらレポートにまとめることを学ぶため、３年次に必修科目『都市工学実験Ⅰ』『エンジニアリングデザイン』、４年次に必修科目『都市工学実験Ⅱ』を配置する。

【環境応用化学課程】

①工学基礎：

環境学並びに応用化学を学ぶ上での工学基礎を身に付けることを目標として、工学部共通専門科目８科目を必修とするほかに、１年次に『微分積分学Ⅰ』を必修とし、２年次の『微分積分学Ⅱ』と３年次の選択科目『応用数学』を配置することにより、化学系で必要とされる数学力を養成している。２年次には選択科目『生化学基礎』や『物理学Ⅱ』を配置しており、幅広い理系科目を修得することにより視野の拡大に努めている。更に化学系独自の基礎教育として１年次に必修科目『科学リテラシー』を配置し、化学物質の取り扱いや科学的思考法・技術者倫理を学ぶ。

②化学基礎：

環境学並びに応用化学の理解に必要な基礎となる化学分野の基礎知識を身に付けることを目指し、工学部共通専門科目『化学基礎』を必修とするほかに、１年次には化学系の教育で必要不可欠な『有機化学Ⅰ』『物理化学Ⅰ』『分析化学』を必修科目としている。さらに２年次には必修科目

『無機化学』『有機化学Ⅱ』、『熱力学』と選択科目『物理化学Ⅱ』を配置し、化学の基礎の体系的な理解を通して、化学技術者としての基礎を修得する。

③化学応用：

より専門的な知識を身に付けることを目的に、２年次後期から３年次にかけて幅広い化学系分野について学ぶ。環境および分析については、必修科目『機器分析Ⅰ』と『環境化学』『機器分析Ⅱ』『錯体化学』『生化学』『放射化学』を学ぶ。材料については『高分子化学』『表面化学』『電気化学』『固体・光化学』『触媒化学』『機能材料』『有機・無機材料』を学び、化学系で必要とされる化学の応用分野を網羅する。また、必修科目『化学工学』『化学数学Ⅰ』『化学数学Ⅱ及び同演習』により、実務上で必要とされる計算能力を身に付け、具体的な現象や問題に対し、化学的な視点で自ら論理的に理解し説明することを目標とする。さらに、応用となる『CAD 技術入門』を４年次に配置している。

④環境学：

持続可能な社会づくりに向けた循環型社会・低炭素化社会・自然共生社会の仕組みや対応技術、法制度や環境管理の基礎を身に付けるために１年次に『循環型社会系形成論』『環境マネジメント』、２年次に『地球環境とエネルギー』を配置している。さらに環境汚染や汚染を招く諸成分の挙動と生物応答については２年次の『地域環境調査法及び同演習』などを通して理解し、大気質・水質・土壌質・循環資源などの制御技術や影響評価手法を学ぶため２年次から３年次に『大気環境工学』『水環境工学』『土壌環境工学』『緑地環境工学』を配置し、さらに『資源循環とライフサイクルアセスメント』を配置し、具体的な環境問題解決能力の習得を目指す。また、環境中の化学物質や生物応答を探るための『地域環境調査実習』を３年次に配置している。これらの科目は全て選択科目である。

⑤環境応用化学総合：

化学用ガラス機器の名称や使用方法を学び、分光計などの分析機器や蒸留装置などと組み合わせて様々な物質の合成、分析、物性の解析原理と方法を理解するための実験科目として２年次に『分析化学実験』『物理化学実験』を、３年次に『応用化学実験』を配置している。セミナーと研修では、指導教員のもとで、少人数で能動的な学習を行いコミュニケーション能力、問題発見・解決能力、プレゼンテーション能力、データ解析能力などを身につけるために、３年後期に『卒業研修Ⅰ』、４年次に『卒業研修Ⅱ』『卒業研修Ⅲ』を配置している。これらの科目は全て必修科目である。

（３）設置の趣旨等を実現するための科目の対応関係

本学部では、設置の趣旨を踏まえてＧ１ポリシー（Graduation ポリシー／ディプロマ・ポリシー）を定めるとともに，このＧ１ポリシーを細分化した学修成果（到達目標）を設定している。前節で詳述した科目は、いずれも学修成果（到達目標）と対応付けられており、科目同士の関連を考慮しながら目標ごとに配置されている。その詳細は各課程の**【資料３：工学部各課程のカリキュラムマップ**

（履修の流れ）】に示す通りである。目標ごとに必修科目や選択科目を配当することで、学修成果（到達目標）及び関連するG1ポリシーが達成できるようになっている。

（４）必修科目・選択科目の構成及び理由

本学部では、学修成果（到達目標）の達成に強く関与する科目を「必修科目」に設定している。また、特定の科目グループから指定された単位数を修得することで学修成果（到達目標）の達成に寄与する科目を「選択必修科目」に設定しており、その他、履修者の関心や必要性に応じて自主的に選択する科目を「選択科目」として設定している。各科目の詳細については、「教育課程等の概要」資料に記載している。

（５）履修順序（配当年次）の考え方

本学部の設置趣旨で述べた教育プログラムを実現するためには、自身の専門分野に関する基礎学力を固めたうえで、より高度な専門性や応用展開能力を育成する学修へと進むカリキュラムが必要である。したがって、学年進行に伴い基礎科目から発展的科目へ展開することを履修順序の方針としている。詳細については、**【資料３：工学部各課程のカリキュラムマップ（履修の流れ）】**に示す通りである。

（６）科目の設定単位数の考え方

大学設置基準第21条の定めに基づき、本学学則第10条において「１単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することとし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果・授業時間外に必要な学修等を考慮して」、以下のとおり単位数を設定している。

①講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲の授業をもって１単位とする。

②実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲の授業をもって１単位とする。

（７）主要授業科目として設定する考え方

上記（４）で述べたとおり、本学部では、学修成果（到達目標）の達成に強く関連する科目は必修科目としており、つまりは学生に学位を取得させるに当たり、当該学位のレベルと分野に応じて達成すべき能力を育成するために必要な科目が必修科目と言えることから、原則、必修科目をそのまま主要授業科目として設定した。なお、工学部共通基礎科目群の科目については、自課程専門教育科目との関係等により、課程によっては選択科目としている課程もあるが、これらは工学教育の基礎となる科目であることから、必修・選択の別を問わず、主要授業科目として設定した。

５．教育方法，履修指導方法及び卒業要件

（１）授業内容に応じた授業の方法、学生数の設定、配当年次について

本学部では、学生の個性を重んじるとともに、進路の自己設計力と、G1 ポリシー（Graduation ポリシー／ディプロマ・ポリシー）に掲げる学士力を身に付けさせるため、授業内容に適した授業方法を設定している。さらに、複数教員による授業、ティーチング・アシスタントを活用した授業なども取り入れることで、実質的な担当学生数が過度に多くならないよう工夫している。

なお、配当年次に関しては、授業内容が基礎から応用へと円滑に接続することを考慮して決定している。

（２）卒業要件について

本学部の卒業要件は課程毎に定める。各課程の学生は、各科目系列につき少なくとも以下に定める単位数を取得した上で 124 単位以上を修得しなければならない。

【電気電子工学課程】

◎卒業に要する最低修得単位数

区　　分	内　　容	備　　考
教養教育科目	24 単位（必修 8 単位を含むこと）	
専門教育科目	100 単位（必修 68 単位を含むこと）	
計	124 単位	

【情報通信工学課程】

◎卒業に要する最低修得単位数

区　　分	内　　容	備　　考
教養教育科目	24 単位（必修 8 単位を含むこと）	
専門教育科目	100 単位（必修 60 単位を含むこと）	
計	124 単位	

【都市工学課程】

◎卒業に要する最低修得単位数

区　　分	内　　容	備　　考
教養教育科目	24 単位（必修 12 単位を含むこと）	
専門教育科目	100 単位（必修 73 単位を含むこと）	
計	124 単位	

【環境応用化学課程】

◎卒業に要する最低修得単位数

区　　分	内　　容	備　　考
教養教育科目	24 単位（必修 8 単位を含むこと）	
専門教育科目	100 単位（必修 53 単位を含むこと）	選択科目のうち、微分積分学Ⅱ、物理学Ⅱ、環境化学、表面化学、高分子化学、熱力学、機器分析Ⅱ、錯体化学、固体・光化学、電気化学、放射化学、生化学、機能材料、触媒化学、有機・無機材料、CAD 技術入門の 16 科目から、合計 12 単位以上を必ず修得すること
計	124 単位	

（３）卒業研修への単位付与について

学生は、指導教員と相談して設定したテーマに沿いながら卒業研修を実施し、卒業論文を完成させ、最終発表を行うことが求められる。学生はこの過程で情報収集、課題発見、対策の立案、計画、実行、検証、発表・討論等の様々な能力を身に付けることを求められる。また必要に合わせて、英語での専門書・論文の講読や、教員が遂行している産学官連携にも触れながら、研究と実社会との接点についても学ぶ。

本学部では、上記の学びの内容を質と量を勘案し、３年次後期の「卒業研修Ⅰ」に１単位、４年次前期の「卒業研修Ⅱ」に２単位、４年次後期の「卒業研修Ⅲ」に４単位を認定し、卒業研修全体として合計７単位を認定する。

（４）履修モデル

本学部は、課程毎に養成する人材像を定めていることから、それぞれの人材を育成するための代表的な履修モデルを、課程毎に作成した。**【資料７：工学部各課程の履修モデル】**を参照されたい。

【資料７：工学部各課程の履修モデル】

（５）ＣＡＰ制について

学生の主体的な学びの時間の確保のため、また各授業の事前・事後学修の時間を考慮し、年間 48 単位（半期では 24 単位）の履修上限を設ける。ただし、前セメスターの成績が GPA2.6 以上で、かつ 15 単位以上修得した学生は、所定の申請を行ったうえで、当該セメスターの履修上限単位（24 単位）を超えて２単位まで追加で履修登録することができる。

（６）他課程における授業科目の履修について

学科制から課程制に移行することで、一つの専門分野に捉われない幅広い学びを提供することを目的として、「分野横断プログラム」を創設する。工学部各課程の専門科目を特定のテーマでグルーピングしたプログラムを、学生は自らのニーズに合わせて選択し、履修することができる。プログラムは、課程を跨いで科目が提供される「タイプⅠ：課程横断型プログラム」と、一つの課程でのみ構成される「タイプⅡ：課程完結型プログラム」に分類され、プログラムを構成する全ての科目を修得し、プログラムが完成した場合には､12 単位を上限として卒業に必要な総単位数 124 単位に含めることができる。また、卒業時にはプログラムの履修証明を行うこととし、成績証明書への掲載や卒業時に全学生に配布している「ディプロマ・サプリメント」にその旨を記載するなどを予定している。

【資料５：分野横断プログラム（タイプⅠ：課程横断型)】

【資料６：分野横断プログラム（タイプⅡ：課程完結型)】

（７）他大学における授業科目の履修等について

本学学則第 15 条において、「本学において教育上有益と認めるときは、学生が国内外の他の大学又は短期大学において履修した授業科目について修得した単位を、本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる」と定めており、その上限は 60 単位を超えないものとしている。一方、修得した当該単位は、「他大学等教養科目群」（教養科目)、「他大学開講科目群」（専門科目）として認定することとし、それぞれ４単位までを進級・卒業に要する単位として算入することができる。なお、本学は「学都仙台単位互換ネットワーク」に参加しており、加盟する各大学が提供する科目は、当該ネットワーク協定に基づく特別聴講学生として受講できる。

６．多様なメディアを高度に利用して，授業を教室以外の場所で履修させる場合の具体的計画

本学工学部では、多様なメディアを高度に利用して、授業を教室以外の場所で履修させる科目として、教養教育科目の AI・データサイエンス科目群（『人工知能総論』『人工知能入門』『人工知能基礎』『人工知能応用』）およびグリーンテクノロジー科目群（『グリーンテクノロジー』『サステナビリティ入門』『地球環境と諸問題』）を計画している。これらの科目は、学生が自由に受講また復習等にも活用できるよう、原則オンデマンド形式で開講し、LMS（Learning Management System）を活用して理解度テストや課題提出、質疑応答、意見交換等を行うこととする。受講場所も学内外を問わず、決められた期限内（例えば公開日から７日以内など）に動画を視聴し、理解度テストの受講や課題提出を行う形を基本とする。

（１）規程等の整備

多様なメディアを高度に利用して授業を教室以外の場所で履修できることと、それによる卒業要件等は、本学学則で以下のように定めている。

【東北工業大学学則】

第９条（授業科目及び授業方法）

本学において開設する授業科目、単位数、授業時間数及びその配置等は、別に定める教育課程表のとおりとする。

２ 授業は、講義、演習、実験、実習若しくは実技のいずれかにより又はこれらの併用により行うものとする。

３ 前項の授業は、文部科学大臣が別に定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

第 17 条（卒業要件及び学位）

卒業の要件は、本学に４年以上在学し、教育課程表に定められた授業科目を履修し、所定の単位を修得することとする。

（中略）

５ 第１項の規定による卒業に必要な単位のうち、第９条の３項に規定する授業方法により修得する単位数は、60 単位を限度とする。

なお、学則第９条の３を行い、また第 17 条の５で上限を定める単位数を管理できるようにするため、令和 4(2022)年 11 月 15 日の教授会にて、「東北工業大学における遠隔授業実施に関する要綱」が審議・承認されている。これに基づいてメディア授業科目として実施を申請した科目は、年度ごとに適切な実施方法であるかを、教務委員会ならびに教授会で審議し、承認された場合に、当該方法による開講を認めている。合わせて出張等での休講により学生の受講計画を乱さないよう、十分な実施方法であることを申請内容によって事前確認した授業回についても、メディア授業として実施するための「出張時等にメディア

授業を用いる場合の方針」(同教授会承認の後、令和 5(2023)年 11 月 9 日教務委員会審議を経て、一部改定)を設けている。

（２）メディア授業の種類と要件についての学内周知など

多様なメディアを高度に利用した授業とは、「大学設置基準第二十五条第二項の規定に基づき、大学が履修させることができる授業等について定める件（平成 13 年文部科学省告示第 51 号および平成 19 年文部科学省告示第 114 号による一部改正）」（メディア授業告示）に従うこととしている。

特にその区分ならびに成立要件として「メディア授業告示第 1 号」(同時双方向型)と「メディア授業告示第 2 号」(オンデマンド型)について、上記の実施に関する要項審議の際に「平成 30 年 9 月 7 日　制度・教育改革ワーキンググループ（第 18 回）資料 6　大学における多様なメディアを高度に利用した授業について」を一部引用して、学内への説明を行っており、メディア授業の申請があった際は、逐次当該実施方法が告示の要件を満たしているかどうかを確認している。

７．編入学定員を設定する場合の具体的計画

本学ではすべての課程・学科において編入学定員は設定していないが、募集要項を定め、若干名の受け入れを行っている。選抜方法は書類審査、筆記試験、面接試験により、合格した場合の配当年次は原則３年次としている。

既修得単位の認定方法については、合格決定後、当該学科の教務委員が中心となり科目振替を検討し、教務委員会で審議、教授会にて報告する。振替の考え方としては、シラバス内容が一致している科目のみならず、科目のＭＲ（ミニマム・リクワイアメント）が達成できていると判断できる科目も振り替えるなど、より柔軟に対応し、編入学生が入学後、学修に専念できる環境を整えることとしている。また、履修指導についても、課程・学科の教務委員が個別に面談を行い丁寧に指導するなど、教育上の配慮を行っている。

８．実習の具体的計画

本学部では、高等学校教諭一種免許状が取得可能であり、その教科種別は、電気電子工学課程および情報通信工学課程においては「工業」と「情報」、都市工学課程および環境応用化学課程においては「工業」となっている。教育実習の具体的な計画は下記のとおりである。

（１）実習の目的

教育実践に関わることを通して、学校の課題と生徒の実態、学校運営の在り方などについて理解することを目的とする。さらには授業参観と教材研究を通して、授業の在り方を学び、実践のための指導案を作成して、授業の準備につなげることを目指す。また、授業後の反省を担当教員の指導助言のもとに行うことで、授業力の向上にも活かす。

なお、本学では、学生が身に付けるべき「共通学士力」として「①情報収集・分析力」「②論理的思考力」「③課題発見・解決力」「④コミュニケーション力」「⑤セルフマネジメント力」の５つを定めており、これらの学士力を身に付けさせるための具体的な方針として、下記のとおり AEGG（エーエッグ）ポリシーを制定している。

Ａ：入学（Admission）ポリシー
Ｅ：教育（Education）ポリシー
Ｇ１：卒業（Graduation）ポリシー
Ｇ２：指導（Guidance）ポリシー

このうち、G１ポリシー（Graduation ポリシー）が学位授与方針を定めたものであり、具体的には、本学が定める教育目的及び教育方針に基づき、各課程・学科所定の卒業要件単位を修得することを通じて「共通学士力」および「専門学士力」を身に付けた学生に対し、卒業を認定し「学士」の学位を授与する、としているが、教育実習は、上述した５つの共通学士力を養うための一助となっており、学位授与方針はもとより、本学が定める AEGG ポリシーに合致したものとなっている。

（２）実習先の確保の状況

実施前年度、学生自身が実習先を探して教育実習の申し込みを行い、内諾を得られたのち正式に本学から受入依頼書を各学校宛に送付している。自身での実習先確保が難しい場合は、本学と同一法人の高校や県内の工業高校などを中心に、受入れを要請している。（下記参照）

主な実習校			
学校名	仙台城南高等学校 （宮城県仙台市太白区八木山松波町 5-1）	学級数 ：30	生徒数 ：834 人
教員数	70 人　（内訳）教諭 53 人、実習助手 5 人、講師 11 人、養護教諭 1 人		
学校名	宮城県工業高等学校 （宮城県仙台市青葉区米ケ袋三丁目 2-1）	学級数 ：24	生徒数 ：830 人
教員数	83 人　（内訳）教諭 67 人、実習講師・助手 15 人、養護教諭 1 人		

学校名	仙台市立仙台工業高等学校 （宮城県仙台市宮城野区東宮城野 3-1）	学級数 ：18	生徒数 ：583 人
教員数	61 人　（内訳）教諭 48 人、実習教諭・助手 10 人、講師 2 人、養護教諭 1 人		
学校名	宮城県白石工業高等学校 （宮城県白石市郡山字鹿野 43）	学級数 ：18	生徒数 ：596 人
教員数	62 人　（内訳）教諭 49 人、実習教諭・講師・助手 12 人、養護教諭 1 人		
学校名	宮城県石巻工業高等学校 （宮城県石巻市貞山五丁目 1-1）	学級数 ：15	生徒数 ：530 人
教員数	54 人　（内訳）教諭 42 人、実習講師・助手 11 人、養護教諭 1 人		
学校名	宮城県古川工業高等学校 （宮城県大崎市古川北町四丁目 7-1）	学級数 ：18	生徒数 ：698 人
教員数	68 人　（内訳）教諭 54 人、実習教諭・講師・助手 13 人、養護教諭 1 人		

（令和 5 年 3 月時点）

（３）実習先との契約内容

受入先へ本学より受入依頼書を送付し、先方より承諾書を提出していただいている。また、実習生へは、実習期間中に知り得た個人情報等の取扱いに関する守秘義務等について、事前の指導を徹底して行っている。

（４）実習水準の確保の方策

教育実習は、次の要件を充足し、教員養成審議委員会において履修適格者と認定された者だけが対象となる。（令和 5 年度入学生より適用）

① ３年次終了時までに下記の科目をすべて修得していること。

・教育の基礎的理解に関する科目等及びその他関連科目

区分	教育の基礎的理解に関する科目
	道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導・教育相談に関する科目

・教科及び教科の指導法に関する科目

区分	各教科の指導法（情報通信技術の活用を含む。）

② ２年次後期終了時までの全履修科目の累積 GPA 値が 2.3 以上であること。

（５）実習先との連携体制

総合教育センターの教育実習担当教員及び教務学生課の教職課程担当の事務職員が窓口となり、実習先や実習生との連携を行う。先方より依頼がある場合には「教育実習実施要項」を事前に送付するとともに、実習日誌への貼付を行い実習先の指導教員が指導方針や連絡先を、常に確認できるようにしている。

（６）実習前の準備状況（感染予防対策・保険等の加入状況）

本学では、すべての学生を対象に毎年度、定期健康診断を実施している。また、麻疹の罹患状況等について、実習校からの要望に応じて回答し、必要な場合は学生へ医療機関の受診を勧めている。なお、大学が保険料を負担し、学研災付帯賠償責任保険への加入を義務付けている。

実習上知り得た個人情報等の取扱いや、ＳＮＳ等の利用に関する注意点等についても、実習前のガイダンスにおいて文書による資料配付および口頭による指導を行い、周知徹底している。

（７）事前・事後における指導計画

『教育実習事前・事後指導』科目を、３年次後期から４年次前・後期にかけて実施する。

３年次後期には教育実習の意義と目的、内容とその留意点等の教育実習についての概要説明と、学習指導案の作成と模擬授業を行う。また、学校現場での一日体験実習を行い、現職教諭からの講話や授業観察、授業実践を経験させる。４年次の教育実習前には、これまでに学んできたことの確認を行い、実習後には、教育実習の振り返りを促す指導を行う。

（８）教員及び助手の配置並びに巡回指導計画

総合教育センターに所属する教職課程担当の専任教員のうち、実習担当教員が分担して県外を含むすべての実習校を巡回指導するが、日程が重複する場合は他の総合教育センター教員も巡回指導を行う。学生が担当する授業の参観と指導教諭との情報交換を行い、実習生に対して授業をはじめとする実習全般の指導を行う。巡回指導の日程調整については、原則として実習生を介して行い、研究授業が行われる日を目安に依頼を行う。

（９）実習施設における指導者の配置計画

実習先においては、校長、教頭、教務担当教諭の計画をもとに学校現場での実務経験が豊富な指導教諭を配置していただいている。

（１０）成績評価体制及び単位認定方法

実習校からの成績評価、実習日誌の記載内容、巡回指導担当教員からの評価を総合的に判断して評価する。

なお、教育実習ガイダンスの際に学生へ配付している「教育実習実施要項」を資料として添付する。

【資料８：教育実習実施要項】

９．取得可能な資格

本学工学部の各課程において取得可能な主な資格とその取得要件等は、以下のとおりである。

課程	資格・免許の種類	取得条件等 （ア：国家資格若しくは民間資格　イ：資格取得可能若しくは受験資格取得可能　ウ：取得の要件）
電気電子工学課程	高等学校教諭一種免許状 （工業・情報）	ア）国家資格　　イ）資格取得可能 ウ）卒業要件単位に含まれる科目の他、教職関連科目の履修が必要
	電気通信主任技術者	ア）国家資格　　イ）一部試験免除 ウ）指定の科目の修得が必要
	施工管理技士 ・電気工事(1 級・2 級) ・電気通信工事(1 級・2 級) ・管工事(1 級・2 級)	ア）国家資格　　イ）実務経験短縮
情報通信工学課程	高等学校教諭一種免許状 （工業・情報）	ア）国家資格　　イ）資格取得可能 ウ）卒業要件単位に含まれる科目の他、教職関連科目の履修が必要
	電気通信主任技術者	ア）国家資格　　イ）一部試験免除 ウ）指定の科目の修得が必要
	第一級陸上無線技術士	ア）国家資格　　イ）一部試験免除 ウ）指定の科目の修得が必要
都市工学課程	高等学校教諭一種免許状 （工業）	ア）国家資格　　イ）資格取得可能 ウ）卒業要件単位に含まれる科目の他、教職関連科目の履修が必要
	技術士補	ア）国家資格　　イ）資格取得可能
	測量士補	ア）国家資格　　イ）資格取得可能 ウ）指定の科目の修得が必要
環境応用化学課程	高等学校教諭一種免許状 （工業）	ア）国家資格　　イ）資格取得可能 ウ）卒業要件単位に含まれる科目の他、教職関連科目の履修が必要
	危険物取扱者（甲種）	ア）国家資格　　イ）受験資格取得
	毒物劇物取扱者	ア）国家資格　　イ）資格取得可能

１０．入学者選抜の概要

現代社会の急速な変化に対応し、社会の要請に応えられる人材を育成すべく、工学部は入学後の成長が期待される人材としてアドミッション・ポリシーを以下のように定め、これに基づき入学者選抜を実施する。

（１）アドミッション・ポリシーについて

工学部は、それぞれの専門分野に必要なスペシャリストとしての知識・技術と、ジェネラリストとしての幅広い知識・俯瞰的視野、および社会・環境への影響についての洞察力に基づく倫理観を有し、地域と産業界で指導的役割を担う実践力・課題解決力を備えた技術者の養成を教育理念としている。社会で活躍する強い意志と高い意欲を持つ人材の育成を目指しているため、アドミッション・ポリシーとして求める学生の人材像と、入学までに習得することが望ましい達成目標を下記の通り定める。

【求める人材像】

１．本学において、学修および研究を行うことを強く希望し、専門家として必要な素地、調和のとれた人格、優れた創造力と実行力を身につけ、自己実現を果たすことを強く望んでいる者

２．本学の学問分野に強い興味関心を持ち、将来、この学問の学びを通じて得た、自らの専門知識と技術で、持続可能な社会の発展に寄与しようとする気概を強く持っている者

【入学までに習得することが望ましい達成目標】

１．本学で学ぶ上での基本となる基礎学力（数学・理科・国語・英語など、高等学校で学ぶ全ての教科・科目）と総合的な判断力

２．専門分野に秀でた能力

３．意欲的で明確な目的意識

４．多様な活動実績や一芸に秀でた能力

（２）選抜方法

アドミッション・ポリシーに基づき、以下の入学選抜試験を行い、入試区分別の達成目標を満たしているかを評価し、多様な学生を受け入れる。工学部では、① 一般選抜（大学入学共通テストを含む）、② 総合型選抜、③ 学校推薦型選抜の３タイプを柱として学生の選抜を行う。

１）一般選抜

一般選抜は

① A 日程および B 日程選抜

② 大学入学共通テスト利用選抜（１期および２期）

に分けられる。

① A 日程選抜および B 日程選抜

本学独自の試験として、2月初旬（A 日程）と 3 月初旬（B 日程）に実施する入試である。工学部では、A 日程は 4 教科（必須教科：数学・理科、選択教科：国語・外国語）のうち 3 教科の得点により選抜する。理科は物理・化学から 1 科目を選択する。

B 日程は 4 教科（必須教科：数学、選択教科：国語・外国語・理科）のうち 2 教科の得点により選抜する。理科については物理・化学から 1 科目を選択する。

② 大学入学共通テスト利用選抜

個別試験は課さないで、大学入学共通テストの得点を利用する入試である。工学部では、1 期については 3 教科（必須教科：数学、選択教科：国語、地理歴史・公民、理科、外国語のうち得点の高い 2 教科 2 科目）により選抜する。2 期は 2 教科（必須教科：数学、選択教科：国語、地理歴史・公民、理科、外国語のうち得点の高い 1 教科 1 科目）の得点に加えて、「調査書」に記載されている志望理由の内容を点数化し、教科・科目の得点と合計して選抜する。

2）総合型選抜・学校推薦型選抜

これらの選抜は、一般選抜では評価が難しい生徒の能力や適性を多面的に評価し選抜するもので、

① AOVA 選抜（総合型選抜）

② 指定校推薦型選抜（学校推薦型選抜）

③ 専門学科・総合学科選抜（総合型選抜）

④ 公募制推薦型選抜・公募制推薦型女子特別選抜（学校推薦型選抜）

がある。

AOVA 選抜は、課程毎に実施する模擬講義を受講し、講義内容の要約と課題について論述する論述型試験を行う。その内容に加えて、「調査書」および「面接」により評価する。

指定校推薦型選抜においては、「推薦書類等」「面接」により評価する。面接時に、各課程のテーマに沿ったプレゼンテーションを課す。

専門学科・総合学科選抜では、各課程のテーマに沿った小論文試験を実施する。本選抜においては、知識だけでなく、思考力・判断力・表現力を多面的に評価できるような出題とする。

公募制推薦型選抜および公募制推薦型女子特別選抜では、「調査書」「小論文」「面接」により評価する。公募制推薦型女子特別選抜は、工学分野に強い関心と意欲を持ち、高校在学中の学業成績、特に理数分野に秀でた能力に加え、論述力・表現力等を兼ね備え、明確な目的意欲を持つ者を対象に選抜するものである。

3）特別入学試験

特別入学試験は、一般選抜では評価が難しい志願者の能力や適性を多面的に評価し選抜するものである。

特別入学試験には

① 社会人特別選抜

② 外国人留学生特別選抜

③ 編入学選抜

に分けられ、それぞれ若干名を募集・選抜する。

社会人特別選抜および外国人留学生特別選抜については、「書類審査」と「小論文」、「面接」により評価する。編入学選抜については、「書類審査」「筆記試験」「面接」により評価する。筆記試験は、専門科目・外国語・数学の３教科とする。

なお、社会人特別選抜の出願資格は、下記のとおりである。

満 25 歳以上で、次の要件を充たす者

- 高等学校を卒業した者、通常の課程による 12 年の学校教育を修了した者、または学校教育法施行規則第 150 条の規定により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認められる者
- 職業を有する者、または現に職業に従事している者

（３）選抜体制

工学部各課程の入学定員および上述の入学選抜試験別の募集人数（目安）については以下に示すとおりとする。

課程名※1	定員	一般入学試験					推薦入学試験				
		A 日程		B 日程	大学入学共通テスト利用選抜		AOVA 選抜	指定校推薦型選抜	専門学科・総合学科選抜	公募制推薦型選抜	公募制推薦型女子特別選抜
		学部課程併願型	学部課程指定型		1 期	2 期					
E	120	17	22	4	17	5	18	25	2	5	5
T	120	17	22	4	17	5	18	25	2	5	5
C	80	9	12	3	11	3	15	18	2	3	4
K	65	8	10	2	9	2	12	15	2	2	3
合計	385	51	66	13	54	15	63	83	8	15	17

※1　E：電気電子工学課程／T：情報通信工学課程／C：都市工学課程／K：環境応用化学課程

（４）正規学生以外の受け入れについて

科目等履修生、研究生等、正規の学生以外の者については、本学学則に沿って若干名受け入れることがある。

１１．教育研究実施組織等の編制の考え方及び特色

学科に代えて課程を置く工学部として、学部単位で大学設置基準が定める必要な基幹教員数や教授数を満たすように教員組織を編成していることは当然ながら、各課程の教育プログラムを担当する教員を割り当てるに際しては各課程で定める専門学士力、AEGG ポリシー等を踏まえ、各課程の専門教育を体系的に実施していくために十分な教員を配置している。

個々の科目の担当教員については、各科目の関連分野において十分な専門知識、研究業績を持つ基幹教員を中心に配置している。特にカリキュラムの中核となる科目には必ず基幹教員を配置している。

基幹教員の年齢構成は、年齢バランスを考慮し、教育研究水準の維持向上に支障がない構成としている。具体的な年齢構成は教員名簿（別記様式第３号（その２の１））に示すとおりである。なお、本学に勤務する教職員の定年は 65 歳であるが、本法人の嘱託職員任用規程に基づき、本人の希望により満 67 歳に達した日の属する年度の末日まで、また、同規程及び特命教員任用規程に基づき、教育・研究又は組織運営上余人をもって代えがたいと認められるときは、満 70 歳に達した日の属する年度の末日まで雇用することができる、とされている。新設する工学部においても定年を延長する予定の基幹教員が複数いるが、現在今後の工学部の教員人事のあり方についても検討を進めており、単なる後任補充という観点のみならず、社会が求める人材ニーズに沿った分野を見定め、強化すべき分野の人材を補強するなどの観点も含め、総合的に判断することとしているため、教育研究の継続性は十分確保できる。

【資料９：学校法人東北工業大学教職員の定年に関する規程】

【資料１０：学校法人東北工業大学嘱託職員任用規程】

【資料１１：東北工業大学特命教員任用規程】

《 課程ごとの主な研究分野 》

・電気電子工学課程

機械工学・ロボット工学を中心的学問分野とする「電子機械・ロボット系」、生体医工学を中心的学問分野とする「医工学・バイオ系」、光学・半導体工学を中心的学問分野とする「光・情報デバイス系」、電力工学・エネルギー工学を中心的学問分野とする「電気・エネルギー系」の４分野で構成される。

・情報通信工学課程

光エレクトロニクスを中心的学問分野とする「光量子・フォトニクス系」、電波工学を中心的学問分野とする「電磁波・ワイヤレス系」、ネットワーク工学を中心的学問分野とする「IoT・システム系」、コンピュータ工学・ソフトウェア工学を中心的学問分野とする「AI・データサイエンス系」の４分野で構成される。

・都市工学課程

構造工学を中心的学問分野とする「構造・建設材料系」、地盤工学・防災工学を中心的学問分野とする「地盤・防災技術系」、水工学・環境工学を中心的学問分野とする「河川・環境技術系」、都市計画工学・交通工学を中心的学問分野とする「都市・交通計画系」の４分野で構成される。

・環境応用化学課程

材料工学を中心的学問分野とする「機能材料系」、化学工学・電気化学を中心的学問分野とする「プロセス工学系」、環境化学・生化学を中心的学問分野とする「グリーンサステイナブルケミストリー系」、環境保全工学・応用生態学を中心的学問分野とする「環境保全系」の４分野で構成される。

基幹教員は、上記のいずれかの研究分野に対応する系に属する構成としているが、課程制導入後は分野横断を推進し、研究室間の交流を強化し、学際領域の発展にも寄与できる研究体制を構築していくこととする。

１２．研究の実施についての考え方，体制，取組

本学では、文部科学省の「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」および「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」に基づき、「東北工業大学における研究活動の不正行為等の防止に関する規程」を定め、要綱、不正防止計画を策定し、その実施状況を公表している。さらに「東北工業大学研究倫理規程」および「東北工業大学動物実験等に関する規程」を定めている。そこでは、本学の教員が工学的、医学的、生物学的、心理学的研究等のヒトまたは動物を直接対象とした研究のうち、倫理上の問題が生じる可能性がある研究及び研究成果の公表を行う場合の留意事項および手続き等を定め、人権擁護や動物愛護を行うとともに本学における研究の円滑な推進に資することを目的としている。本学部においても、これらの規程に従って研究を実施することとする。

研究実施体制については前述「１１．教育研究実施組織等の編制の考え方及び特色」、環境整備については後述「１３．施設・設備等の整備計画」に示すとおりである。

研究活動をサポートする技術職員の有無については、本学では技術支援センターに所属する技術系職員と研究支援センターが研究活動のサポートにあたる。研究支援センターには、URA スキル認定機構に認定された URA を 1 名配置（常勤、兼務）している。「東北工業大学研究支援センター運営規程」にて、URA は、研究活動の分析、推進、管理、支援および利活用等の業務を行うと定めている。

【資料１２：東北工業大学研究支援センター運営規程】

１３．施設・設備等の整備計画

（１）校地，運動場の整備計画

本学は、宮城県仙台市太白区八木山香澄町 35 番 1 号に位置する八木山キャンパス（校地面積：46,805 ㎡）と、宮城県仙台市太白区二ツ沢 6 番に位置する長町キャンパス（校地面積：189,014 ㎡（借地面積 85 ㎡含めず））の２つのキャンパスを有し、八木山キャンパスは主に工学部・工学研究科・建築学部・建築学研究科、長町キャンパスは主にライフデザイン学部・ライフデザイン学研究科の教育研究の拠点となっている。この度新設する工学部は、既存の工学部（４学科）を改組再編し、４課程からなる新たな工学部として設置するものであることから、引き続き八木山キャンパスを教育研究の拠点とする。

八木山キャンパスには、事務機能や役員室、大教室等を有する１号館、主に講義室を備えた９号館をはじめ、工学部・建築学部の各課程・学科が入る専門棟など、合わせて 10 号館までの建物棟が存在する他、令和 4(2022)年度には、これまで各建物に分散していた各学科の実験室や実験設備を集約した、「実験・教育棟（愛称：Tech-Lab（てくらぼ））」が新たに竣工し、後期より供用を開始した。学問分野を超えた知識と人の交流を促す最先端の設備と環境を備えた施設となっており、まさに課程制の意義である「他分野との融合、学問分野を超えた学び」が実現できる教育研究の場となっている。

【資料１３：Tech-Lab（てくらぼ）紹介リーフレット】

学生の交流、休息その他に利用するのに適当な空地については、八木山キャンパスにおいては１号館１Ｆには tohtech ラウンジ（PC 設置・談話スペース）、同館２Ｆにはカフェ等で使用されるような安らげる椅子や机を配置したフリースペース、10 号館１Ｆには tohtech フォーラム（自習・談話スペース）、４号館Ｂ１Ｆには学生食堂（座席数 600 席）などを整備しており、必要十分な環境が整っている。その他、課外活動クラブ専用の「八木山キャンパスクラブ棟」が平成 26(2014)年に完成し、シャワー室等も完備した充実した施設となっている。長町キャンパスにも同様に、必要十分な学生食堂や談話スペース、クラブ棟が整備されている。

運動場施設については、八木山キャンパスには体育館、長町キャンパスには体育館、天然素材人工芝フットサル場２面、野球場、屋内野球練習場、テニスコート５面、多目的グラウンド、陸上競技用の全天候走路（タータン）、武道場・剣道場、弓道場、アーチェリー場などを備えており、体育系科目で利用するほか、学生の課外活動でも積極的に利用しており、既に十分な環境が整っているため、今後新たな運動施設の整備を行う予定は無い。

なお、八木山キャンパスでは現在、老朽化した建物の建替を中心とした、キャンパス整備基本計画を策定しており、実験・教育棟（てくらぼ）の建設に次ぐ第２弾として建設予定の新棟２期棟（令和 9(2027)年 6 月竣工予定）には、新たに最上階に食堂も整備する予定であり、さらなる学生の厚生施設の充実が見込まれる。

（２）校舎等施設の整備計画

前述のように、本学では現在、八木山キャンパスのキャンパス整備計画が進んでおり、その第１弾と

して、令和 4(2022)年９月に実験・教育棟の Tech-Lab（てくらぼ）が竣工、後期より供用を開始した。さらに、令和 6(2024)年７月より、築 50 年を経過した既存の５号館の解体工事が始まり、その後、令和 7(2025)年 10 月より、当該５号館の跡地に新棟２期棟を建設予定である。この５号館は、主に建築学部の教育研究の拠点であるため、今般新設する工学部については大きな影響は生じないが、新たな食堂や図書館（閲覧室）、大教室等も完備する予定であるため、建築学部の学生のみならず、全学部の学生が利用可能な新棟となる予定である。

教員の研究室・教員室については、それぞれ必要十分な広さの部屋を用意しており、研究室に配属された３・４年次、大学院生等とともに、研究活動を行う。

教養教育科目および専門教育科目の座学講義については、１号館・４号館・６号館・９号館にある様々なサイズの教室を、履修学生数に応じて割り当てて行う。各教室の収容定員は**【資料１５：教室（講義室）の収容定員一覧】**に示すとおりであり、**【資料１４：工学部授業時間割（案)】**の作成などを通じて、学生数に対して十分な施設・設備を有していることを確認している。また、多くの教室で可動式の椅子・机を配置しており、アクティブラーニング形式の講義にも対応が可能である。

専門教育科目の実験・演習系科目については、前述した実験・教育棟 Tech-Lab（てくらぼ）の他、８号館・９号館にも PC を完備した演習室を設けており、それらの施設を主に使用する。なお、全ての教室および学生ラウンジや学生ホール等には wi-fi 環境が整備されており、快適に ICT を利活用した学修が出来る環境が整っている。

【資料１４：工学部授業時間割（案)】

【資料１５：教室（講義室）の収容定員一覧】

【資料１６：八木山キャンパス新棟２期工事スケジュール】

（３）図書等の資料及び図書館の整備計画

本学の図書館は、八木山キャンパスの本館と長町キャンパスの分館で構成され、各キャンパスの特色に応じた資料を収集している。各図書館は、ネットワークにより情報を共有し、学内外からの相互利用を可能にしている。

工学部が開設される八木山キャンパス本館は、附属図書館棟として独立しており、図書資料の閲覧を行う「閲覧室」と学習スペースである「コモン・ラウンジ」によって構成される。コモン・ラウンジはアクティブラーニングスペースも兼ねており、本学の学修支援の一環として学生に広く活用されている。なお、先に示した八木山キャンパス整備計画により、令和 9(2027)年 6 月竣工予定（供用開始は同年 10 月を予定）の新棟２期棟にも新たに図書館（開架書架：316.18 ㎡）が整備される予定であるが、既存の附属図書館棟は解体せず、当該建物は主に蔵書庫として活用する予定である。

八木山キャンパス本館の蔵書は、理工学に関連する図書を中心に約 25 万冊（内外国図書は約 5 万 6 千冊）を所蔵し、雑誌も約 2 千種（内外国雑誌は約 1 千種）を所蔵している。

また、冊子体から電子体への媒体変化も進めており、電子書籍の購入や既設資料の買い替えを始め、電子ジャーナル・データベースの拡充を行なっている。

閲覧席は270席を揃えており、閲覧室、コモン・ラウンジにはwi-fiを整備し、可動式の椅子や机、ホワイトボード、プロジェクターなどを備え、学修の支援体制を整えている。

今後の整備計画については、既存の工学部（４学科）をそのまま課程制に移行する計画であり、学問分野も変わらないことから、基本的には現存の図書等資産を活用しつつ、通常の年次計画に沿って、拡充を図っていくこととする。

他大学図書館との協力についても、相互利用サービスの一環として「学都仙台単位互換ネットワーク」制度による単位互換学生への図書館相互協力を行うと伴に、「学都仙台OPAC」に参加している。さらには、「東北地区大学図書館協議会」加盟校の学生・院生・研究者に対する図書館資料の閲覧や提供も行っている。

１４．２以上の校地において教育研究を行う場合の具体的計画

「１３.施設・設備等の整備計画」にも記載のとおり、本学は、八木山キャンパス（仙台市太白区八木山香澄町 35 番 1 号）および長町キャンパス（仙台市太白区二ツ沢 6 番）の２つのキャンパスを有し、八木山キャンパスは主に工学部・建築学部の教育研究、長町キャンパスは主にライフデザイン学部の教育研究の拠点となっている。

この度設置する工学部（４課程）は、従来の工学部（４学科）を発展的に改組・再編するものであることから、教育研究の拠点も引き続き八木山キャンパスとする。

したがって、工学部の基幹教員の全てが八木山キャンパスに教員室・研究室を有することとなり、基幹教員のキャンパス間の移動は基本的に発生しない。

しかしながら、1・2 年次において、一部の教養教育科目について長町キャンパスでの開講を予定しており、学生は週に 1 日程度長町キャンパスで講義を受けることとなる。特に運動場等の施設は長町キャンパスを中心に整備されていることから、体育科目については長町キャンパスでの開講が必須となる。

本学では八木山キャンパスと長町キャンパス、同一法人の高等学校（仙台城南高等学校)、および最寄りの地下鉄東西線八木山動物公園駅を結ぶ無料のシャトルバスを計３台で定期運航しており、多くの学生がこのシャトルバスを利用してキャンパス間の移動をしている。移動時間はいずれも 10 分程度となっており、シャトルバスの他、自動二輪車（バイク）や自転車で移動する学生も多い。

また、時間割の編成にあたっては、長町キャンパスで開講する講義を同じ曜日に集め、基本的に同日に学生がキャンパス間の移動をする必要が無いよう配慮している。

【資料１４：工学部授業時間割（案)】

なお、それぞれの校地における学生の収容定員は、以下のとおりである

キャンパス	学　部	収容定員	合　計
八木山キャンパス	工学部	1,540 人	2,080 人
	建築学部	540 人	
長町キャンパス	ライフデザイン学部	960 人	960 人
合　計		3,040 人	3,040 人

教員の配置については、工学部・建築学部の基幹教員は八木山キャンパスに、ライフデザイン学部の基幹教員は長町キャンパスにそれぞれ教員室・研究室を配置し教育研究にあたっている。

１５．管理運営

（１）教学面における管理運営体制について

本学における教育研究に関わる事項については、代議員会および教授会において審議・決定する。代議員会は、本学における企画とその調整、教授会及び大学院教授会から付託された事項を審議する（代議員会規程第３条）こととしており、学長が議長となって原則毎月１回定例に開催している。構成員は、学長、副学長の他、学部長、学科長（今後は課程長も含む。以下同じ。）、大学院の研究科長及び専攻長、各附属施設の長、各委員会の委員長など、学内全部局の長（代議員）である。

教授会は、学校教育法第 93 条および本学学則第 45 条に基づき設置され、学長がこれを招集し、その議長となる。定例教授会の開催日は学長が予め定めて年度当初に周知しており、教授会規程第５条には、「第４条及び前条に規定する事項（＝審議事項）を代議員会の議決をもって教授会の議決事項にすることができる」と定められていることから、教授会を開催しない月については、代議員会の議決でもってこれを教授会構成員に報告（資料共有）することとしている。教授会は本学の学長、副学長、学部長、教授、准教授、講師、助教及び学長が必要と認めたその他職員をもって組織しており、構成員の過半数の出席が教授会の成立要件となっている。

教授会の審議事項は、教授会規程第４条に

（１）学生の入学、卒業に関する事項

（２）学位の授与に関する事項

（３）前二号に掲げるもののほか、教育研究に関する重要な事項で、教授会の意見を聴くことが必要なものとして学長が別に定める事項

と定められており、上記第３号に定める審議事項として、

①教員の教育研究業績の審査に関する事項

②教育の改善に関する事項

③学則及び教育課程に関する事項

④学生の入学・卒業を除く身分に関する事項

⑤学生の学業成績に関する事項

⑥学生団体・学生活動及び学生生活に関する事項

⑦学生の賞罰に関する事項

以上の７項目を、学長裁定として定めている。

（２）関連する委員会の役割について

本学の使命・目的および教育目的を達成するため、また、大学の業務を円滑に運営するため、代議員会・教授会の下部組織として、全学部横断的に次の委員会を設置し、学長の諮問に応じてそれぞれの事項について審議している。（東北工業大学組織規程第 12 条）

１）入学試験委員会（入試委員会）

①入学者選抜の方針及び実施に関する事項

②学生募集の方針及び実施に関する事項

③その他入学及び募集に必要な事項

２）教務委員会

①教育方針及び教育方法に関する事項

②教育課程に関する事項

③授業に関する事項

④試験に関する事項

⑤学籍（異動を含む。）に関する事項

⑥その他教務に関し必要と認められる事項

３）学生委員会

①育英、奨学に関する事項

②学生の課外活動に関する事項

③学生相談および助言に関する事項

④学生の福利厚生に関する事項

⑤その他、学生生活に関し必要と認められる事項

４）就職委員会

①就職業務の計画に関すること

②各学科就職業務の分担範囲に関すること

③学生の就職指導に関すること

④学生の就職斡旋に関すること

⑤推薦学生の選考に関すること

⑥就職先の開拓に関すること

⑦各学科就職業務に必要な経費の使用方針に関すること

⑧その他就職に関し必要と認められる事項

５）広報委員会

①本学における後方施策に係る事項

②「工大広報」発行に係る編集方針並びに発行計画に係る事項

③Web サイト運用に係る事項

④学内外広報に関する恒常的な点検・評価及び効果的な各種広報施策の立案・検討

⑤その他必要事項

１６．自己点検・評価

（１）実施方法

本学では、教育研究水準の不断の向上を図るとともに、大学運営全般の継続的改善に資することを目的とした自己点検・評価と、その自己点検・評価に学外者の意見を反映させ、客観性および妥当性を得ることを目的とした外部評価を、毎年度実施している。

また、本学は令和 2(2020)年度に公益財団法人日本高等教育評価機構による大学機関別認証評価を受審し、令和 3(2021)年 3 月に同機構が定める大学評価基準に適合していると認定された。

（２）実施体制

自己点検・評価を行う体制の基本規程として、「東北工業大学の大学評価に関する規程」を設けており、次の 3 つの委員会の設置並びに各委員会の役割を規定している。

① 大学評価総括委員会

本学における大学評価全般に関する事項を掌理するため、理事会の下に設置される理事長を委員長とする委員会であり、自己点検・評価、外部評価、認証評価の実施に関する事項を審議する。

② 大学自己評価委員会

自己点検・評価の実動機関として、大学評価総括委員会の下に設置される学長を委員長とする委員会である。効率的に自己点検・評価を行うため、本委員会の下に大学、大学院、法人の３部門を置いている。

③ 外部評価委員会

大学が行う自己点検・評価に学外者の意見を反映させ、客観性及び妥当性を得ることを目的として、大学評価総括委員会の下に設置される委員会であり、外部評価委員には、経済界・マスコミ・私立大学・国立大学・同窓会の各分野から選出された外部有識者５名が就任し、大学の自己点検・評価について、第三者の立場から評価し、大学としての質の保証に資す提言を行う。

【資料１７：東北工業大学の大学評価に関する規程】

（３）結果の活用・公表

自己点検・評価の結果は、「自己点検・評価報告書」として本学 Web サイト上に掲載し、外部へ公表するとともに、大学内でも結果を共有し、各部局運営の改善に活用している。

また、外部評価を含む自己点検・評価の結果は、大学評価総括委員会に報告され、指摘事項がある場合の具体的な改善策は、内部質保証推進委員会が検討している。

（４）評価項目

本学の自己点検・評価は、大学自己評価委員会規程第 2 条において、「文部科学大臣が認証した評価機関が示す点検・評価項目の中から、年度毎に大学評価総括委員会が指定する項目に沿って」行うことと規定されており、基本的に、３年の周期で全ての項目を点検・評価することとしている。なお、本学が認証

評価を受審しているのは「日本高等教育評価機構」であるため、同機構の評価基準（①使命・目的等、②学生、③教育課程、④教員・職員、⑤経営・管理と財務、⑥内部質保証）に沿って行っている。

【資料１８：大学自己評価委員会規程】

１７．情報の公表

本学は、学校法人としての公共性に鑑み、社会的説明責任を果たし、公正かつ透明性の高い運営を実現することを目的として、本学 Web サイト（ホームページ）及び各種出版物等を通じ、教育・研究・社会貢献活動等の状況並びに大学の自己点検・評価の結果等についての情報公表を行っている。

本学の教育研究活動等の情報を公表している Web サイト（ホームページ）アドレスは以下のとおりである。

ア	大学の教育研究上の目的及び 3 つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）に関すること https://www.tohtech.ac.jp/outline/philosophy/ （ホーム＞大学概要＞建学の精神・教育理念）
イ	教育研究上の基本組織に関すること https://www.tohtech.ac.jp/outline/disclosure/ （ホーム＞大学概要＞情報公開＞公表データ＞教育研究上の基礎的な組織に関する情報）
ウ	教育研究実施組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること https://www.tohtech.ac.jp/outline/disclosure/ （ホーム＞大学概要＞情報公開＞公表データ＞教員組織並びに各教員に関する情報）
エ	① 入学者に関する受入れ方針 https://www.tohtech.ac.jp/admission/policy/ （ホーム＞入試情報＞アドミッション・ポリシー）
	② 入学者の数 https://www.tohtech.ac.jp/outline/disclosure/student_change/ （ホーム＞大学概要＞情報公開＞公表データ＞入学者数（推移含む））
	③ 収容定員及び在学する学生の数 https://www.tohtech.ac.jp/outline/number/index.html#syuyou （ホーム＞大学概要＞学生・教職員数）
	④ 卒業又は終了した者の数並びに進学者数及び就職者数 https://www.tohtech.ac.jp/outline/disclosure/graduate/ （ホーム＞大学概要＞情報公開＞公表データ＞卒業（終了）者数）
	⑤ その他進学及び就職等の状況に関すること https://www.tohtech.ac.jp/outline/disclosure/career/ （ホーム＞大学概要＞情報公開＞公表データ＞就職・進路状況）

オ	授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること 【工学部】 https://www.tohtech.ac.jp/dept/undergraduate/eng/ （ホーム＞学部・大学院＞学部＞工学部） 【建築学部】 https://www.tohtech.ac.jp/dept/undergraduate/arc/ （ホーム＞学部・大学院＞学部＞建築学部） 【ライフデザイン学部】 https://www.tohtech.ac.jp/dept/undergraduate/life/ （ホーム＞学部・大学院＞学部＞ライフデザイン学部） 【工学研究科】 https://www.tohtech.ac.jp/dept/graduate/eng/ （ホーム＞学部・大学院＞大学院＞大学院［工学研究科］） 【建築学研究科】 https://www.tohtech.ac.jp/dept/graduate/arc/ （ホーム＞学部・大学院＞大学院＞大学院［建築学研究科］） 【ライフデザイン学研究科】 https://www.tohtech.ac.jp/dept/graduate/life/ （ホーム＞学部・大学院＞大学院＞大学院［ライフデザイン学研究科］）
カ	学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること https://www.tohtech.ac.jp/outline/disclosure/ （ホーム＞大学概要＞情報公開＞公表データ＞教育課程・学修の成果に係る評価及び卒業（修了）の認定に関する情報）
キ	校地・校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること https://www.tohtech.ac.jp/outline/disclosure/ （ホーム＞大学概要＞情報公開＞公表データ＞学習環境に関する情報）
ク	授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること https://www.tohtech.ac.jp/outline/disclosure/ （ホーム＞大学概要＞情報公開＞公表データ＞学生納付金に関する情報）
ケ	大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること https://www.tohtech.ac.jp/outline/disclosure/ （ホーム＞大学概要＞情報公開＞公表データ＞学生支援と奨学金に関する情報）
コ	① 教育上の目的に応じ学生が修得すべき知識及び能力に関する情報 https://www.tohtech.ac.jp/outline/philosophy/ （ホーム＞大学概要＞建学の精神・教育理念＞本学の学生が身につけるべき学士力）

	② 学則等各種規程 https://www.tohtech.ac.jp/outline/information/ （ホーム＞大学概要＞情報公開＞大学学則・大学院学則）
	③ 設置認可申請書、設置届出書、設置計画履行状況等報告書 https://www.tohtech.ac.jp/outline/secchininka/ （ホーム＞大学概要＞情報公開＞設置届出書・設置認可申請書・履行状況報告書）
	④ 自己点検・評価報告書 https://www.tohtech.ac.jp/outline/evaluation/ （ホーム＞大学概要＞情報公開＞自己点検評価）
	⑤ 認証評価の結果 https://www.tohtech.ac.jp/outline/juaa_25/ （ホーム＞大学概要＞情報公開＞大学認証評価）

また、学校教育法施行規則第 172 条の２第３項及び大学院設置基準第 14 条の２第２項に規定する学位論文に係る評価にあたっての基準は、下記により公表している。

・https://www.tohtech.ac.jp/outline/disclosure/images/gakuironbun_hyouka.pdf

（ホーム＞大学概要＞情報公開＞公表データ＞教育課程・学修の成果に係る評価及び卒業（修了）の認定に関する情報）

１８．教育内容等の改善のための組織的な研修等

（１）授業の内容及び方法の改善を図るための取組（FD）

全学的な実施体制として、これまで「FD 委員会」および同委員会の下に「FD 企画部会」を設置し、授業内容および方法の改善を図るための議論や研修会等を企画・運営してきたが、令和 4(2022)年度より、内部質保証推進体制の一層の強化を図るため、「FD 委員会」を全学の「内部質保証推進委員会」に併合するとともに、従来の「FD 企画部会」と「IR 推進部会」を統合した「FD・IR 企画部会」を同委員会の下に新設し、FD に関する企画立案・運営を行っている。

FD の具体的な内容としては、都度上記の企画部会並びに委員会にて検討・決定しているが、主な内容は以下のとおりである。

・授業評価アンケートの実施並びにそれに対する授業改善検討対応
・学生からの意見・要望等を直接吸い上げるための学生懇談会の実施
・教員相互の授業参観（オンラインシステム等も活用）
・授業技術や教材開発等に関するグッドプラクティスの共有（事例発表会の開催）
・学修成果の可視化に向けた各種取組の実施

これらの FD 活動については、全教職員を対象としており、特に各種の研修会については、オンラインや録画動画等も活用し、必ず対象者全員が受講できるような環境を整えている。

また、新任教員に対しては、入職時に「新任教員説明会」を開催し、本学の教育方針や学内の各種体制等について説明し、理解を求めている。

なお、ＴＡ（ティーチング・アシスタント）やＳＡ（スチューデント・アシスタント）に対しても任用前に研修会の受講を必須とし、確認テストへの合格を以って受講完了、業務従事可としている。

（２）大学職員の能力及び資質の向上のための取組（SD）

本学事務系職員の能力及び資質を向上させるための研修は、「学校法人東北工業大学事務研修に関する要綱」に基づき実施している。研修は、以下の３つ（学内研修、学外研修、自己啓発研修）の体系に分かれており、それぞれの研修プログラムを通じて、事務職員の能力及び資質向上に努めている。

①学内研修として、管理職研修会、課長補佐研修会、事務職員勉強会の３つの階層別研修会の他、新規採用事務職員研修会、課内研修（OJT）を開催している。
特に、事務主任以下（若手～中堅層）を対象とした事務職員勉強会については重点的に取り組んでおり、コロナ禍以降はオンラインも活用しながら、定期的に外部講師による講演や職員間でのディスカッション等を行っている。これらを通じて、事務職員の業務遂行能力の向上を図るとともに、職員間のコミュニケーションや目的意識の共有、職員の意識改革を図っている。

②学外研修として、日本私立大学協会、日本私立学校振興・共済事業団、私学経営研究会、私立大学情報教育協会、労働調査会等が主催する各種研修会、セミナー等にできるだけ多くの事務職員を参加させ、新たな知識獲得とスキルアップにつなげている。このほか、他大学との人事交流も実施しており、毎年１名ずつ相互に事務職員の派遣・受入れを行っている。

（新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、令和 2(2020)年度～令和 5(2023)年度は中止。）

③自己啓発研修として、各種資格の取得や研修会への参加を推奨している他、高度な専門的力量を持った事務職員の養成のため、桜美林大学大学院の大学アドミニストレーション研究科（通信教育課程）に事務職員を派遣している。

１９．社会的・職業的自立に関する指導等及び体制

卒業後の社会的・職業的自立を目指して、教職員が個々の学生の個別進路相談に応えるきめ細やかな進路指導、ならびに社会情勢の変化や企業の採用動向に対応し、学生一人ひとりが適職に就けるように就職活動を指導・支援する体制を整え、その強化と内容の充実を図っている。特に企業・団体等からの求人に対し、学科の特色と個々の学生の特性を生かし、ミスマッチ防止を考慮した就職活動指導を行っている。

（１）教育課程内の取組について

教育課程内では、G2 ポリシー（Guidance ポリシー）を踏まえた、本学の学生が身に付けるべき「共通学士力」（①情報収集・分析力、②論理的思考力、③課題発見・解決力、④コミュニケーション力、⑤セルフマネジメント力）の向上を目的として、初年次から一貫性のある教育を実施する『キャリアデザインⅠ』（１年次前期)、『キャリアデザインⅡ』（２年次前期)、『キャリアデザインⅢ』（３年次前期）を令和 3(2021)年度カリキュラムより教養教育科目（必修科目）として配置している。各々の授業は、「キャリアデザイン力の養成」「ベーシックスキルの向上」「共通学士力の理解」を達成目標とし、１年次では基礎、２年次では応用、３年次ではそれらを実践できるように構成している。『キャリアデザインⅠ』において、座学では、在学中に身に付けるべき「共通学士力」の内容、実践では、ＰＢＬ（課題解決型学習）を導入し、チームを組んで課題に取り組んでいる。『キャリアデザインⅡ』において、座学では、『キャリアデザインⅠ』で学んだ基本的な知識の再確認、社会で求められる力（社会人基礎力）の把握、実践では、ＰＢＬを通じて、チームに主体的に貢献する力、本質的解決策を考え抜く力、プレゼンテーション力を養成している。『キャリアデザインⅢ』では、『キャリアデザインⅠ・Ⅱ』で身につけた知識を再確認するとともに、自己を客観的に分析・評価し、自身の特性を把握させている。さらに、社会に出るための本格的な準備作業、具体的な進路選択や業界研究も含めた就職活動に関わる座学・実践を行っている。加えて、３年次には『ビジネスマナー』（教養教育科目（選択科目））を配置し、社会人として活躍するうえで重要な基本的なマナーやコミュニケーション力、考え方などを養成している。

【資料２：東北工業大学 AEGG ポリシー】

【資料１９：『キャリアデザインⅠ・Ⅱ・Ⅲ』『ビジネスマナー』シラバス】

また、専門教育科目では、卒業研修系科目を通して職業教育や就職支援等のキャリアガイダンスを展開している。その他、教養教育科目『特別課外活動Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ』では、単位認定対象活動に「資格取得または検定等の合格」も項目に含めており、学生のキャリア形成を積極的に奨励している。

（２）教育課程外の取組について

教育課程外の取組としては、まず、学生が一定期間企業や官公庁などで就業体験を積む、「インターンシップ」の支援を行っている。一定の条件（就業体験内容・期間等）を満たすインターンシップに参加した学生は、教養教育科目の『特別課外活動Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ』（各１～２単位）として申請をすることができ、単位の認定を受けることができる。

また、就活支援講座（３年生・大学院１年生対象）や模擬面接（３年生・大学院１年生対象)、民間就職試験・公務員試験対策講座（全学年対象、有料)、本学合同企業研究セミナー（３年生・大学院１年生対象）などを実施している。さらには、社会人基礎力・汎用的能力の向上を目的としたアセスメントテスト（全学年対象）の実施や就職活動に向けた低学年次からの心構え、意識醸成を目的とした就職活動早期準備講座（１・２年生対象）なども行っており、これらは全てキャリアサポート課が中心となって企画・立案し、各学科（今後は課程も含む。以下同じ。）の協力を得ながら、全学的な体制で取り組んでいる。

【資料２０：就職支援事業年間計画（令和５年度版)】

なお、各年次学生への指導・支援は、以下のように実施している。

Ａ．学部１・２年生に対する支援

① キャリアアドバイザーによる進路相談と個別面談を実施
② インターンシップへの参加奨励
③ キャリア教育関連の正課科目を実施
④ アセスメントテストを実施
⑤ 公務員説明会を開催
⑥ 就職試験対策講座を開催(公務員・民間企業)
⑦ 学生保護者への進路・就職支援の啓発(就職啓発文書の発送)
⑧ 企業見学会を開催
⑨ 就職活動早期準備講座を開催

Ｂ．学部３年生・大学院博士前期課程１年生対象

① キャリアアドバイザーによる進路相談と個別面談を実施
② 就職ガイダンスを実施
③ インターンシップへの参加奨励
④ キャリア教育関連の正課科目を実施
⑤ アセスメントテストを実施
⑥ 公務員説明会を開催
⑦ 就職試験対策講座を開催(公務員・民間企業)
⑧ 就活支援講座を開催
⑨ 就職模擬面接を開催

⑩　学生保護者への進路・就職支援の啓発(就職啓発文書の発送)

⑪　企業見学会を開催

⑫　求人企業情報を開示

⑬　学内合同企業研究セミナーを開催

⑭　「就活ガイドブック」を配付

C．学部４年生・大学院博士前期課程２年生に対する支援

①　求人企業の情報提供と斡旋

②　キャリアアドバイザーによる進路相談と個別面談を実施

③　学内合同企業説明会を開催、個別企業説明会の支援

④　アセスメントテストを実施

（３）適切な体制の整備について

本学の就職支援体制は、教学側の「就職委員会」と事務側の「キャリアサポート課」からなり、教員と職員が一体となって全学的な進路・就職支援事業を推進している。

「就職委員会」は、就職委員長、副委員長、各学科から１名ずつ選出された就職委員などにより組織され、就職業務の計画に関することや学生の就職指導に関すること等を審議する場として、毎月１回定期的に開催している。

また、全８学科に「就職支援委員会」が設けられ、学科毎の特色と個々の学生の特性を生かした就職支援事業を展開している。「就職支援委員会」のメンバーは、各学科の学科長を委員長として就職委員を中心に数名の教員からなる。

学生の就職に関する相談は、日常的に学科の全教員、キャリアサポート課の職員（八木山キャンパス）あるいは長町校舎事務室のキャリア支援担当職員（長町キャンパス）で行っており、日頃から情報共有等を行いながら、教員と職員が一体となった支援体制を整えている。また、両キャンパスに「就職活動なんでも相談」室を設置し、専門の資格を有するキャリアアドバイザーを配置して１対１の個別相談も常時行えるよう配慮している。

【資料２１：東北工業大学就職支援体制】

本学では、一連の体制を前提として、G2 ポリシーに基づき「就職指導も教育の一環である」という考えのもと、１年次から徹底したキャリア教育を行っている。

たとえば、入学後から継続的に「アセスメントテスト」を実施することで、時間をかけて自己を見直すことができ、それが有意義な学生生活にもつながり、就職活動の準備にもなる。前述したキャリアドバイザーによる「個別指導」や、企業でのインターンシップも１年次から可能となり、早期に進路への不安を払拭し、就業体験を積むことで、将来の目標を明確にしていける体制が整えられている。

- 設置の趣旨等を記載した書類　資料目次 -

【資料１】工学部および各課程の「養成する人材像」と「教育研究上の目的」・・・・ p. 2

【資料２】東北工業大学ＡＥＧＧポリシー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 4

【資料３】工学部各課程のカリキュラムマップ（履修の流れ）・・・・・・・・・・・・・ p. 10

【資料４】東北工業大学アセスメントポリシー ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 15

【資料５】分野横断プログラム（タイプⅠ：課程横断型）・・・・・・・・・・・・・・・ p. 19

【資料６】分野横断プログラム（タイプⅡ：課程完結型）・・・・・・・・・・・・・・・ p. 21

【資料７】工学部各課程の履修モデル ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 22

【資料８】教育実習実施要項 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 26

【資料９】学校法人東北工業大学教職員の定年に関する規程 ・・・・・・・・・・・・・ p. 27

【資料１０】学校法人東北工業大学嘱託職員任用規程 ・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 28

【資料１１】東北工業大学特命教員任用規程 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 29

【資料１２】東北工業大学研究支援センター運営規程 ・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 30

【資料１３】Tech-Lab（てくらぼ）紹介リーフレット ・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 32

【資料１４】工学部授業時間割（案）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 34

【資料１５】教室（講義室）の収容定員一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 50

【資料１６】八木山キャンパス新棟２期工事スケジュール ・・・・・・・・・・・・・・ p. 51

【資料１７】東北工業大学の大学評価に関する規程 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 52

【資料１８】大学自己評価委員会規程 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 53

【資料１９】『キャリアデザインⅠ・Ⅱ・Ⅲ』『ビジネスマナー』シラバス ・・・・・ p. 55

【資料２０】就職支援事業年間計画（令和５年度版）・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 59

【資料２１】東北工業大学就職支援体制 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ p. 60

工学部および各課程の「養成する人材像」と「教育研究上の目的」

【工学部】

（養成する人材像）

それぞれの専門分野に必要なスペシャリストとしての知識・技術と、ジェネラリストとしての幅広い知識・俯瞰的視野、及び社会・環境への影響についての洞察力に基づく倫理観を有し、地域と産業界で指導的役割を担う実践力・課題解決能力を備えた技術者を養成する。

（教育研究上の目的）

人間・環境を重視した工学を創造し、社会との真の融合を目指すことにより、地域に根ざした文化と産業の発展に寄与することを目的とする。

【電気電子工学課程】

（養成する人材像）

ハードウェア、ソフトウェア両技術に柔軟に対応し、幅広い知識・俯瞰的視野を有すると共に、地域や産業界が求める創造力を持つ電気技術者、電子技術者を育成する。

（教育研究上の目的）

電気工学と電子工学を基盤として、システム、センシング、デバイスについて研究を行うと共に、学生が専門分野の知識と技術、さらには異分野との融合・学際領域も含む幅広い知識を修得し、俯瞰的視野を養う実践的教育を行うことを目的とする。

【情報通信工学課程】

（養成する人材像）

ソフトウェアとハードウェアの両方の専門知識を有し、さらに幅広い知識・俯瞰的視野も有する、高い倫理観を持った情報処理技術者、通信技術者を育成する。

（教育研究上の目的）

21 世紀の豊かな人間社会を創る上で重要な技術基盤である情報通信技術をソフトウェア、ハードウェアの双方に関し深く教育・研究すると共に、異分野との融合・学際領域も含む幅広い知識を修得し、俯瞰的視野を養うことを目的とする。

【都市工学課程】

（養成する人材像）

建設技術に関する学術を広く教育・研究すると共に、社会の要請に十分対応できる専門的知識及び科学的知識を身に付け、かつ事業あるいは技術のマネジメント能力を有し、異分野との融合・学際領域も含む幅広い知識・俯瞰的視野及び良識と倫理観をもち、地域社会において実践的な課題を解決する能力を備えた土木・建設技術者を育成する。

（教育研究上の目的）

社会基盤の計画と建設および維持管理の専門知識、地域社会の歴史や文化を知り将来を創造するデザイン力、都市や地域の構想を実現させ、マネジメントとコミュニケーションの能力を養うと共に、異分野との融合・学際領域も含む幅広い知識を修得し、俯 瞰的視野を養うことを目的とする。

【環境応用化学課程】

（養成する人材像）

応用化学および環境学の体系的教育を基礎として、材料開発とその管理・製造技術と、環境影響評価と管理、エネルギーおよび 環境保全技術について学び、専門分野の知識・技術と幅広い知識・俯瞰的視野を修得し、もって持続可能な社会の実現および 地域社会の発展をめざして創造的に活躍することのできる化学技術者・環境保全技術者を育成する。

（教育研究上の目的）

化学を基幹分野としながらも、化学反応プロセスや装置設計に関する工学の基礎、さらにその応用として環境･エネルギー問題の 評価や解決のための技術を修得すると共に、異分野との融合・学際領域も含む幅広い知識を修得し、俯瞰的視野を養う体系的な教育を行う。

東北工業大学の使命・目的と教育方針

■建学の精神

わが国、特に東北地方の産業界で指導的役割を担う高度の技術者を養成する

■大学の理念

人間・環境を重視した、豊かな生活のための学問を創造し、それらの統合を目指す教育・研究により、持続可能な社会の発展に寄与する

■ブランドスローガン

未来のエスキースを描く。

■教育方針

専門家として必要な素地、調和のとれた人格、優れた創造力と実行力を備えた人材の育成

■本学の学生が身に付けるべき「共通学士力」

創造力	培った知識・技能を用いて、積極的・主体的にチャレンジし、学問・技術・環境・製品・サービス等、社会に役立つ新たな価値を創造することができる。	①情報収集・分析力 ②論理的思考力	課題発見・解決に必要な情報を見定め、適切な手段を用いて収集・調査することができ、それらの情報を論理的かつ多角的に分析して、現状を正しく把握することができる。
統合力	創造したものを応用して、社会や人類のために正しく役立てることができるとともに、異文化、異分野、考えの異なるモノや人、多様な物事を組み合わせる柔軟な発想ができ、他者や地域との連携・協力・共創により、社会に貢献することができる。	③課題発見・解決力	現象や事実の中に隠れている問題点とその要因を発見して、解決すべき課題を設定することができ、さまざまな条件を考慮して解決策を具体化し、実行に移すことができる。
		④コミュニケーション力	自らの考えをまとめ、的確な方法・表現で主張することができ、多様な文化・分野の価値観の違いを理解し、他者と協調することができる。
		⑤セルフマネジメント力	向上心を持って学びを継続し、職業人としての意識を高めるとともに、修得した技術や知識を、社会の一員として主体的に地域の持続的発展のため役立てることができる。

■AEGG ポリシー

POLICY G1 【学位授与方針】（Graduation Policy／Diploma Policy）

本学は、本学が定める教育目的及び教育方針に基づき、各学科所定の卒業要件単位を修得することを通して以下の学士力を身に付けた学生に対し、卒業を認定し「学士」の学位を授与する。

１．「共通学士力」を身に付けている。
２．各専門分野（学部・学科）における「専門学士力」を身に付けている。

POLICY G2 【学生の指導方針】（Guidance Policy）

本学学生の個性を重んじ、その成長と進路の自己設計のため、また、G1 ポリシーに掲げる学士力を身に付けさせるため、以下の方針で学生の指導を行う。

１．学内外の多様な正課外活動の体験を通して、社会の一員としての意識を醸成するための指導を行う。
２．キャリア教育並びに専門教育科目、研修等を通して、職業人としての意識を醸成するための指導を行う。

POLICY E 【教育課程表の編成・実施の方針】（Education Policy／Curriculum Policy）

G1 ポリシーに掲げる学士力を身に付けさせるため、以下の方針で教育を行う。

１．幅広い知識と理解力を養うとともに、共通学士力と専門学士力を身に付けさせるため、体系的な教養教育と専門教育のカリキュラムを編成する。
２．学士力の向上を意識して学修させるため、各科目と学士力の対応関係を明示するとともに、科目間の繋がりを明確にしたモデルカリキュラムを示す。
３．学士力の達成度を常に把握し、個々の学生に応じたきめ細かな教育を施すため、初年次から卒業までの継続的な少人数教育並びに個別的学修支援を行う。
４．科目ごとの成績評価と、身に付けるべき学士力との対応関係に基づき、学修成果（学士力到達度）を明示する。

POLICY A 【入学者受入の方針（抜粋版）】（Admission Policy）

本学の人材育成の目標達成のため、入学後の成長が期待される人材として、高等学校等において身につけておくべき資質・能力を、以下に示します。

【入学までに身につけておくべき資質・能力】

１．本学で学ぶ上での基本となる基礎学力（数学・理科・国語・英語など、高等学校で学ぶ全ての教科・科目）と総合的な判断力
２．専門分野に秀でた能力
３．意欲的で明確な目的意識
４．多様な活動実績や一芸に秀でた能力

各選抜において、上記【入学までに身につけておくべき資質・能力】の１～４のうち、いずれかを評価して入学生を受け入れます。

※全文はこちら

【入学者受入の方針（全文）】（Admission Policy）

東北工業大学は、「建学の精神」（わが国、特に東北地方の産業界で指導的役割を担う高度の技術者を養成する）に基づき、「大学の理念」（人間・環境を重視した、豊かな生活のための学問を創造し、それらの統合を目指す教育・研究により、持続可能な社会の発展に寄与する）の実現を目指し、「専門家として必要な素地、調和のとれた人格、優れた創造力と実行力を備えた人材の育成」を「教育方針」に掲げています。

本学が求める人物像を、以下に示します。

【求める人物像】

1．本学において、学修および研究を行うことを強く希望し、専門家として必要な素地、調和のとれた人格、優れた創造力と実行力を身につけ、自己実現を果たすことを強く望んでいる者

2．本学の学問分野に強い興味関心を持ち、将来、この学問の学びを通じて得た、自らの専門知識と技術で、持続可能な社会の発展に寄与しようとする気概を強く持っている者

本学の人材育成の目標達成のため、入学後の成長が期待される人材として、高等学校等において身につけておくべき資質・能力を、以下に示します。

【入学までに身につけておくべき資質・能力】

1．本学で学ぶ上での基本となる基礎学力（数学・理科・国語・英語など、高等学校で学ぶ全ての教科・科目）と総合的な判断力

2．専門分野に秀でた能力

3．意欲的で明確な目的意識

4．多様な活動実績や一芸に秀でた能力

各選抜において、上記【入学までに身につけておくべき資質・能力】の１～４のうち、いずれかを評価して入学生を受け入れます。

【各選抜における評価方法】

《 》内は、各選抜方式で主に評価する【入学までに身につけておくべき資質・能力】

選抜方式	評価方法
ＡＯＶＡ選抜（活動記録重視型）	《３・４》「書類審査」（調査書または活動記録報告書、志望理由書）、「論述試験」「面接」により、工学、建築学、ライフデザイン学に関する専門知識や関連資格の取得、課外活動などの実績を積極的に評価します。
ＡＯＶＡ選抜（総合評価型）	《３・４》「書類審査」（調査書、志望理由書）、「論述試験」「面接」により、本学への興味、関心、意欲、熱意など、本学で学びたいという強い意志を多面的・総合的に評価します。
指定校推薦型選抜	《１・３・４》本学を専願し、本学の指定した高等学校の学校長から推薦された者について、「書類審査」（調査書、学校長の推薦書、志望理由書）、「プレゼンテーション・面接」により、本学の学修に対する基礎学力、適正、目的意識などを総合的に評価します。
専門学科・総合学科選抜	《２・３》「書類審査」（調査書、志望理由書）、「学科専門適性を問う小論文」「面接」により、深い専門的な知識と技術を修得したいという明確な目的意識を総合的に評価します。
公募制推薦型選抜	《１・３・４》「書類審査」（調査書、学校長の推薦書、志望理由書）、「小論文」「面接」により、本学への興味、関心、意欲、熱意など、本学で学びたいという強い意志を総合的に評価します。
公募制推薦型女子特別選抜	《１・３・４》本学を専願し、工学分野への関心・意欲を持つ女子生徒について、「書類審査」（「調査書、学校長の推薦書、志望理由書）、「小論文」「面接」により、本学の学修に対する基礎学力、適正、目的意識などを総合的に評価します。
大学入学共通テスト利用選抜（１期）	《１》大学入学共通テストを利用し、本学で学ぶ上での基本となる基礎学力を評価します。
大学入学共通テスト利用選抜（２期）	《１・３》大学入学共通テストを利用し、本学で学ぶ上での基本となる基礎学力を評価します。合格予定者のボーダー付近の者は「書類審査」（調査書、出願書類）により、主体性も評価します。
一般選抜（A 日程）	《１》個別学力試験により、本学で学ぶ上での基本となる基礎学力を評価します。
一般選抜（B 日程）	《１》個別学力試験により、本学で学ぶ上での基本となる基礎学力を評価します。

■電気電子工学課程 AEGG ポリシー

POLICY G1

【学位授与方針】　（Graduation Policy／Diploma Policy）

工学部 電気電子工学課程は、全学の学位授与方針（G1 ポリシー）に基づき、所定の卒業要件単位を修得することを通して、本学の「共通学士力」並びに本課程の「専門学士力」を身に付けた学生に対し、卒業を認定し、「学士（工学）」の学位を授与する。

POLICY G2

【学生の指導方針】　（Guidance Policy）

電気電子、医療、電力、自動車産業の分野で指導的役割を担って活躍する電気電子技術者を育成するため、以下の方針で指導する。

1．学内外の多様な正課外活動や研究成果発表の場への参加を積極的に奨励し、社会の一員としての自覚を醸成する。
2．職業意識の醸成、適性検査、OB 講演会、職種研究、面接練習等を、入学時から段階を踏んで就職指導を行う。
3．重点キャリア資格に関しては、資格取得のための対策講座を開講して積極的に支援する。

POLICY E

【教育課程表の編成・実施の方針】　（Education Policy／Curriculum Policy）

電気電子工学分野のハードウェアとソフトウェアの専門性を備えた人材育成を目標に、教育・研究指導を行う。

1．個の尊重と実践教育を方針として、基礎科目では習熟度別学修に取組み、また演習・実験・卒業研修等の能動的学びにより専門知識と技術を実学として教育する。
2．1, 2 年次では、一般（基礎）、電気電子工学（基礎）、情報（基礎）から構成される専門基礎科目を設定する。
3．3, 4 年次では、一般（応用）、電子機械・ロボット，医工学・バイオ，光・情報デバイス，電気・エネルギーの分野に関する電気電子工学（応用）、情報（応用）から構成される専門応用科目を設定する。
4．卒業研修により、課題発見・解決能力とプレゼンテーション能力を修得するように指導する。

POLICY A

【入学者受入の方針】　（Admission Policy）

本学で定める入学条件に加え、以下の条件を満たす人の入学を強く希望する。

1．電気電子工学に興味を持ち、この分野に関して自ら学び・自ら考え、さらに新しいことに自ら挑もうとする強い意志のある人
2．今日の高度情報化社会における電気電子、医療、電力、自動車産業の分野で活躍し、自らの専門知識と技術で社会の役に立ちたいと考えている積極性のある人

■情報通信工学課程 AEGG ポリシー

POLICY G1

【学位授与方針】　（Graduation Policy／Diploma Policy）

工学部 情報通信工学課程は、全学の学位授与方針（G1 ポリシー）に基づき、所定の卒業要件単位を修得することを通して、本学の「共通学士力」並びに本課程の「専門学士力」を身に付けた学生に対し、卒業を認定し、「学士（工学）」の学位を授与する。

POLICY G2

【学生の指導方針】　（Guidance Policy）

・社会に役立つ情報処理技術者、通信技術者を育成するため、セミナー系科目全体を通したキャリアガイダンスの実施により、学生が自身の適性を発見することを促す。
・進路指導員を全学生に割り当て、個人面談を定期的に実施して学生のキャリア形成を支援する。
・資格取得を積極的に支援し、卒業後の学生の活躍に役立てる。

POLICY E

【教育課程表の編成・実施の方針】　（Education Policy／Curriculum Policy）

・情報処理技術者、通信技術者を育成するため、情報処理技術と通信技術、これらを融合した技術を体系的に学べるようカリキュラムを編成する。
・１年次では情報処理技術と通信技術の両方の基礎となる科目を配置し、専門を学ぶ力を付けさせる。
・２年次から３年次では、情報処理技術と通信技術、および両者の融合分野の専門科目を配置し、高度な専門知識・技術を学べるようにする。
・４年次では卒業研修科目を配置し、勉学の集大成としての卒業研究を通して技術者として必要な能力を身に付けさせる。また、通信コースと情報コースのモデルカリキュラムを提供し、深く専門を学べるよう配慮する。

POLICY A

【入学者受入の方針】　（Admission Policy）

高度情報化社会を支えている情報通信分野に関心を抱き、将来この分野で活躍したいとの意欲と目的を持ち、基礎学力を身に付け総合的な判断力を有する者、あるいは情報通信分野に秀でた能力を有する者、多様な活動実績等を有する者を求める。

■都市工学課程 AEGG ポリシー

POLICY G1

【学位授与方針】　（Graduation Policy／Diploma Policy）

工学部 都市工学課程は、全学の学位授与方針（G1 ポリシー）並びに学習・教育到達目標に基づき、所定の卒業要件単位を修得することを通して、本学の「共通学士力」並びに本課程の「専門学士力」を身に付けた学生に対し、卒業を認定し、「学士（工学）」の学位を授与する。

POLICY G2

【学生の指導方針】　（Guidance Policy）

本課程 G1 ポリシーに基づき、以下の方針で学生指導を行う。

・学内外の様々な正課外活動を推奨し、マネジメント能力やコミュニケーション能力の醸成を図る。

・現場見学会、インターンシップ、プランナー研修など、課程で認めた活動に参加して規定のポイントを獲得した場合には単位を認定することや、課程が指定した資格を取得した場合には受験料を支給することなどにより、学生の自主的な活動を支援する。

・CE 進路セミナーにより、倫理に関する講話・指導、卒業生による講話、現場見学、就職試験模試を実施し倫理教育、キャリア教育を行う。

POLICY E

【教育課程表の編成・実施の方針】　（Education Policy／Curriculum Policy）

本課程の G1 ポリシーに基づき、以下の方針で教育を行う。

・シラバスでは、各科目のカリキュラム中での位置づけを、学習内容の関連性の流れを主眼とした「履修の流れ」として図示する。

・さらに、シラバスには、各科目の授業内容・方法(授業の概要、授業計画など)、到達目標(達成目標)、成績の評価方法・評価基準はもちろんのこと、学習・教育到達目標と学習・教育到達目標(A)～(F)との関係の強さを「%」表示で示す。

POLICY A

【入学者受入の方針】　（Admission Policy）

社会基盤の計画と建設および維持管理に関心を持ち、土木分野におけるリーダーまたはプロフェッショナルとして、地域の歴史や風土を生かした未来をデザインし、心豊かに暮らせる個性的で良質な地域社会を創り出そうとする、その意欲と能力のある人を求める。

■環境応用化学課程 AEGG ポリシー

POLICY G1

【学位授与方針】　（Graduation Policy／Diploma Policy）

工学部 環境応用化学課程は、全学の学位授与方針（G1 ポリシー）に基づき、所定の卒業要件単位を修得することを通して、本学の「共通学士力」並びに本課程の「専門学士力」を身に付けた学生に対し、卒業を認定し、「学士（工学）」の学位を授与する。

POLICY G2

【学生の指導方針】　（Guidance Policy）

・持続可能な社会づくりに寄与する応用化学技術者・環境保全技術者を育成するため、指導教員が中心となり学生の特性を理解し、個々にきめ細かく成長を助け、自身の進路の選択を通し自己を確立していくことができるよう指導を行う。
・そのために定期的な個人面談やキャリアガイダンスの実施を行い学生のキャリア形成の支援を行う。
・さらに、関連する資格取得対策講座を開講するなど、キャリア形成を積極的に支援する。

POLICY E

【教育課程表の編成・実施の方針】　（Education Policy／Curriculum Policy）

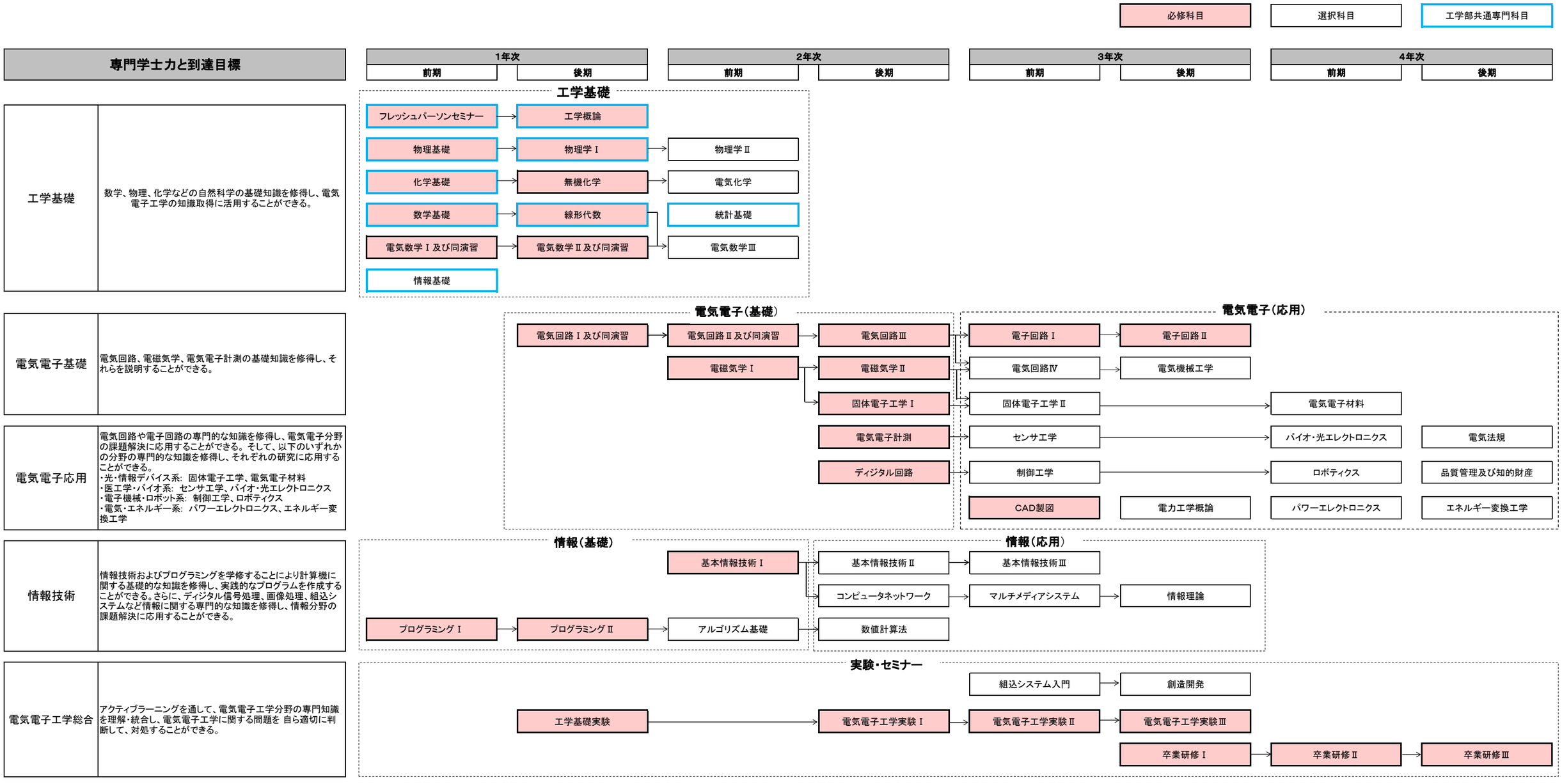
・応用化学と環境学の体系的な専門教育と技術者倫理など一般教養教育を基礎として、応用化学および環境保全技術者の育成を目標に教育・研究指導を行う。
・１年次に取り組む一般科目では専門の基礎知識としての工学・環境基礎、リテラシーの科目を設定する。
・２年次から３年次では、応用化学分野では化学の基礎から開発・製造技術、環境学分野では環境分析・調査技術などの専門科目を設定する。
・また演習および実験科目を設定し、講義と有機的に結合した高い専門性を持った知識と技術を習得するようにする。
・３、４年次に取り組む卒業研修では、持続可能な社会を支える知識と問題発見能力・解決能力・コミュニケーション能力を持った人材を育成する。

POLICY A

【入学者受入の方針】　（Admission Policy）

材料・素材開発などの応用化学やそれを工業化するための化学工学技術、化学物質による人体・生態系への影響評価と公害防止などの環境保全技術に関心を持ち、基礎学力と高い倫理観を身に付け、持続可能な社会を実現していくための工学に根ざした専門能力を築き上げる意欲を持つ人を求める。

電気電子工学課程　専門教育科目の履修の流れ

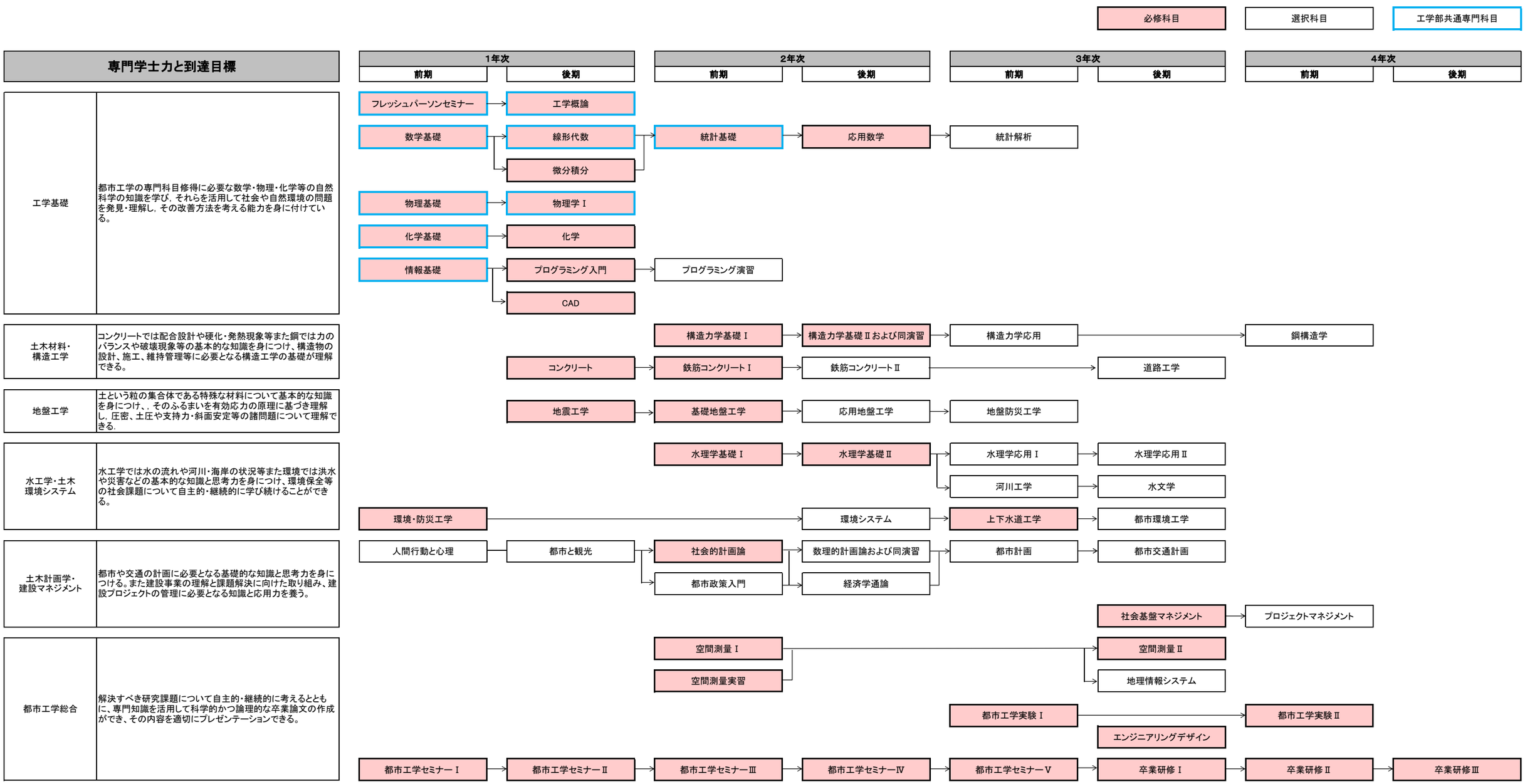


情報通信工学課程　専門教育科目の履修の流れ

必修科目　選択科目　工学部共通専門科目

専門学士力と到達目標		1年次 前期	1年次 後期	2年次 前期	2年次 後期	3年次 前期	3年次 後期	4年次 前期	4年次 後期
工学基礎	数学や物理の基礎知識などを身に付け、情報通信工学の知識修得に応用することができる。	フレッシュパーソンセミナー	工学概論						
		ベクトルと行列	線形代数	統計基礎	統計学				
		数学基礎							
		物理基礎	物理学Ⅰ	物理学Ⅱ					
		化学基礎							
		情報基礎							
情報ネットワーク	コンピュータハードウェア、コンピュータネットワークに関する基礎知識を身に付け、ディジタル信号処理、情報理論、セキュリティなどの理解に応用することができる	情報リテラシーⅠ	情報リテラシーⅡ	基本情報技術Ⅰ	基本情報技術Ⅱ	基本情報技術Ⅲ			
			コンピュータネットワークⅠ	コンピュータネットワークⅡ		情報セキュリティ			
				論理回路	計算機工学Ⅰ	計算機工学Ⅱ	情報理論		
情報プログラミング	基本的なアルゴリズム、データ構造に関する基礎知識を身に付け、基本的なプログラミングができるようになり、各種アプリケーションや組込みシステムのプログラミングの理解に応用することができる。	プログラミング入門	アルゴリズムとデータ構造及び同演習	プログラミング実践	ソフトウェア設計	アプリケーション開発			
					コンピュータ数値解析		ディジタル信号処理	音響工学	
						コンピュータグラフィックス技術	組込みシステム設計		
					データベース			データ分析	
通信システム	通信システムの基礎知識を身に付け、光通信システム、無線通信システムなど各種通信システムの理解に応用することができる。	情報通信工学入門				通信工学Ⅰ	通信工学Ⅱ	光通信工学	電気通信法規
		解析Ⅰ	解析Ⅱ及び同演習	解析Ⅲ					
				電気数学	電磁気学Ⅰ	電磁気学Ⅱ	電波工学		
通信デバイス	電気回路、電子回路の基礎知識を身に付け、光ファイバ、レーザ、アンテナなど各種通信デバイスの理解に応用することができる。		電気回路入門	電気回路Ⅰ及び同演習	電気回路Ⅱ及び同演習	電気回路Ⅲ			電力工学
					電子回路Ⅰ及び同演習	半導体デバイス	電子回路Ⅱ		
							電気・電子計測		
情報通信工学総合	情報通信工学に関する基礎実験や卒業研修を通じて、情報通信工学に関する課題を解決する能力を身に付け、様々な課題への対処に応用することができる。			アカデミックスキル	情報通信工学実験Ⅰ	情報通信工学実験Ⅱ	情報通信工学実験Ⅲ		
						情報通信工学セミナー	卒業研修Ⅰ	卒業研修Ⅱ	卒業研修Ⅲ

都市工学課程　専門教育科目の履修の流れ

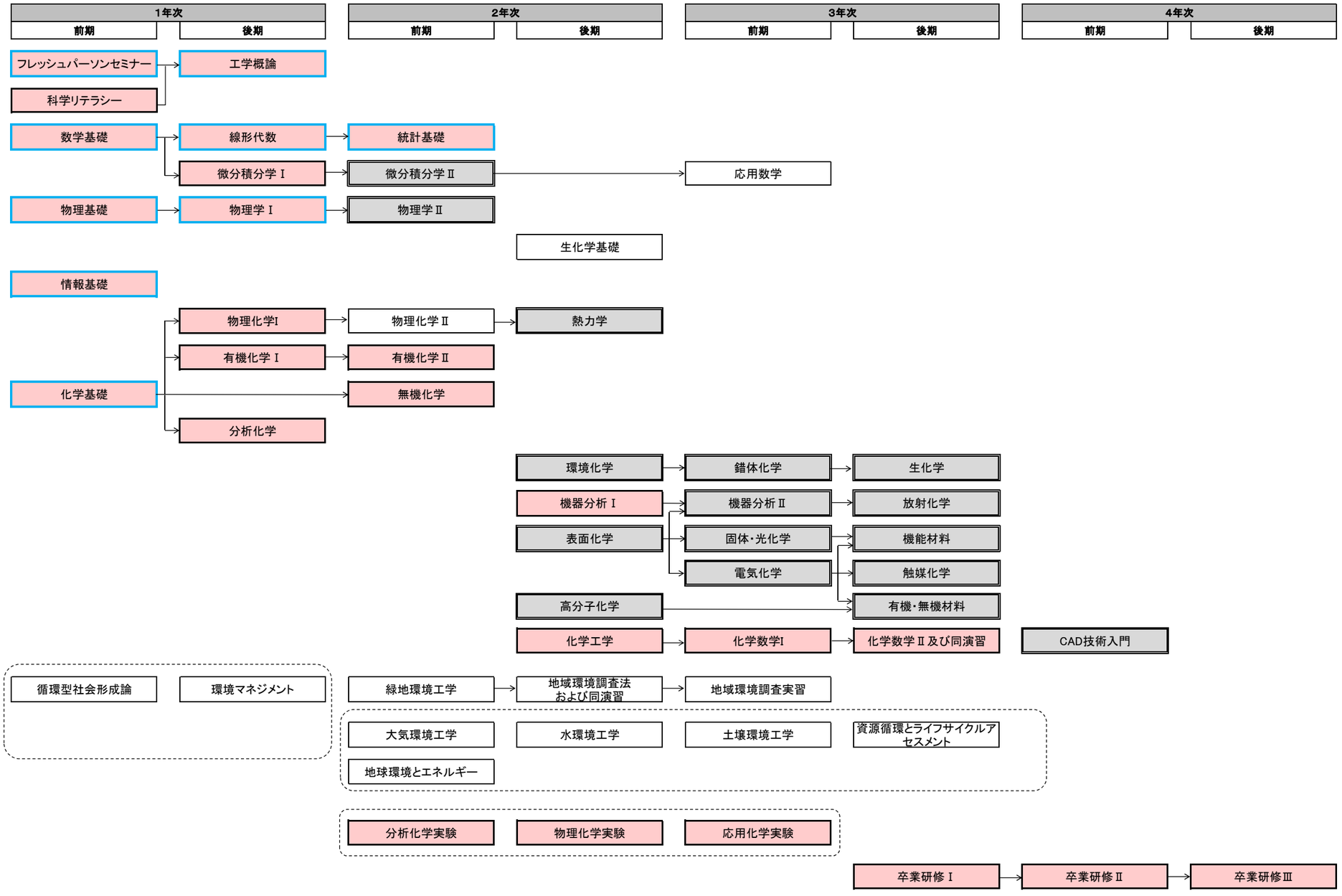


環境応用化学課程　専門教育科目の履修の流れ

必修科目　選択必修科目　選択科目　工学部共通専門科目

※ 選択必修科目の中から合計12単位以上を必ず修得すること

専門学士力と到達目標	
工学基礎	数学（微分積分学Ⅰ）、物理学（物理学Ⅰ）の基礎的知識を身に付け、環境応用化学の知識習得に応用することができる。
化学（基礎）	環境と化学の理解に必要な基盤となる化学分野（無機化学，有機化学Ⅰ，分析化学）の基礎知識を身に付け、それを説明することができる。
化学（応用）	環境と化学の理解に必要な応用化学分野（機器分析Ⅰ，化学工学）の知識を身に付け、それを説明することができる。
環境学	環境保全・環境影響評価にかかわる環境学分野（循環型社会形成論）の知識を身に付け、それを説明することができる。
環境応用化学総合	1～4の専門学士力にかかわる技術と知識を内包・総合して環境応用化学分野の専門知識を理解・統合し、卒業研修に取り組み、卒業論文として発表することができる。



教養教育科目の履修の流れ
（工学部）

必修科目　選択科目

科目群の学習・教育目標	
地域・文化・社会	現代の社会、および現代の文化（生活）や地域の諸問題を考えるための基礎的な視点や知識を身につける。
言葉と表現	専門課程において要求される言語の読解力、また社会に出てから要求される言語による自己表現力と相互理解力を身につける。
心と体の健康	身体運動と心身の健康についての正しい知識と実践能力を修得する。またコミュニケーション、リーダーシップの向上に役立てる。
キャリアデザイン	自身の能力や適性を理解するとともに、キャリア形成に必要な能力を向上させるスキルを修得する。また、自身の特性や社会情勢等を踏まえて、現実的なキャリアプランを考えることができる。
AI・データサイエンス	社会における様々な分野の課題解決に活用できる数理・データサイエンス・AIの知識や技術を身につける。
グリーン・テクノロジー	地球環境及び対策技術「グリーンテクノロジー」について意識させるところからはじまり、「持続可能な開発目標」（SDGs）の背景にある生態学的・システム論的な視点を身につけ、地球環境問題の解決に取り組める素養を身につける。
教職関連	教員に必要な資質能力を身につけるとともに、現代の社会諸問題を考えるための基礎的な視点や知識を身につける。

	1年次		2年次		3年次		4年次	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
地域・文化・社会		表象文化論	現代社会論	暮らしと心理学	産業社会と心理学	情報社会の経済	現代の哲学	
		メディア文化史	東北文化史		科学思想史	フランスの文化と言葉		
				市民と法	日本国憲法	韓国の文化と言葉		
					産業社会と倫理 ※都市工学課程のみ必修	中国の文化と言葉		
					ビジネスマナー	異文化理解		
言葉と表現	スタディスキル							
	英語ⅠA	英語ⅠB	英語ⅡA ※都市工学課程のみ必修	英語ⅡB ※都市工学課程のみ必修				
	英会話Ⅰ	英会話Ⅱ	英会話Ⅲ	英会話Ⅳ				
			資格英語Ⅰ	資格英語Ⅱ	資格英語Ⅲ			
心と体の健康	健康・運動科学実習Ⅰ	健康・運動科学実習Ⅱ	スポーツ科学実習					
キャリアデザイン	キャリアデザインⅠ		キャリアデザインⅡ		キャリアデザインⅢ			
AI・データサイエンス	人工知能総論	人工知能入門			人工知能基礎	人工知能応用		
グリーン・テクノロジー		グリーンテクノロジー	サステナビリティ入門	地球環境と諸問題				
教職関連					職業指導（工業）	情報と職業 ※教職概論単位修得者のみ		
					工業概論 ※教職概論単位修得者のみ			
					情報社会とモラル			

東北工業大学　アセスメントポリシー

本学は、大学全体（機関）レベル・教育課程（学位プログラム）レベル・授業科目レベルの各段階において、AEGG ポリシーの実現の度合い、AEGG ポリシーに基づく諸活動の効果および学修成果を、それぞれ以下の方法で検証します。

１．大学全体（機関）レベルのアセスメントポリシー

- 全学の AEGG ポリシーの実現度並びに学修成果の達成状況については、卒業要件充足状況、成績、外部アセスメントテスト結果等の直接的な方法による他、卒業生や卒業生の就職先企業など、外部ステークホルダーによる評価結果も踏まえて検証します。

２．教育課程（学位プログラム）レベルのアセスメントポリシー

- 教育課程の特性を踏まえて各学部等において定めた AEGG ポリシーに基づく学修成果の達成状況については、単位修得状況、GPA、外部アセスメントテスト、学生調査等の結果から検証します。
- 学位プログラムが基盤とする分野において、最低限備えているべき資質・能力（※ＭＲ）（とくに重要な資質・能力であり、網羅的である必要はない）を具体的かつ明確な修得目標として設定し、その到達度及び最低基準を満たしていることを測定・評価（アセスメント）することで、学位プログラムとして「出口」における質保証を行い、改善に繋げます。

  ※：MR：ミニマム・リクワイアメント（Minimum　Requirement）の略

３．授業科目レベルのアセスメントポリシー

- 科目ごとに、「何を学び、身に付けることができるのか」具体的な到達目標とともに最低限身に付けるべき能力を MR として明示します。
- 各授業科目における到達目標の達成状況は、学修成果・教育成果の把握・可視化における最も基本的な情報、いわば「出発点」であり、個々の授業科目において到達目標に照らしてできるだけ定量的又は定性的に達成水準を明らかにし、厳格に成績評価し点数に反映します。（すべての科目でルーブリック評価する必要はないが、MR を満たした場合 60 点とします）。
- 個々の授業科目の学修成果の達成状況や成績評価の妥当性については、授業評価アンケート等の結果を用いて検証し、改善に繋げます。

４．アセスメントの方法

上記１～３の具体的な検証を行うため、主として「別表１・２」に掲げる各種データ等を使用します。

特に、上記２のアセスメントは、以下の方法により行います。

① 各専門学士力に対応するコア科目を選定し、コア科目の中から当該学位プログラムとしてのアセスメント対象科目を設定します（必ずしもすべての専門学士力・コア科目をアセスメント対象とする必要はない）。

② ＭＲとして設定された「知識・技能」について、その定着を確認テストにより評価します。

具体的には、

・アセスメント科目の授業で用いた演習問題や試験問題、あるいはその分野で重視されている資格・検定試験などの過去問題からＭＲの内容を問う問題を精選し、確認テストを作成する。

・合格（MR をクリアする水準を６０点とする）するまで受験（WebClass 等を利用）と学習を繰り返すことにより、その定着を図ることを目的とする。

・３年次の研修、またはセミナー等の期間を通じて実施する。

③　確認テストによる測定になじまない MR については、アセスメント対象科目の授業の中で、または授業とは別に「理解し、実践し、応用できる」ことをルーブリックにより評価します。
具体的には、コア科目の授業全体（14 週）またはその一部、あるいはセミナーや研修等において当該専門学士力の到達度をルーブリック評価する。

④　卒業研修を特別なアセスメント科目として位置付け、ルーブリックにより学科毎のディプロマ・ポリシー（DP: 学位授与方針）の到達度を評価します。

⑤　共通学士力については、外部アセスメントテスト（PROG テスト等）のスコアを用います。

５．学生の学修成果の可視化方針

本学学生の学修成果は、本学の DP 到達度として、共通学士力と専門学士力の区分ごとに以下の方法で表し、「別表３」に掲げる項目と併せて、卒業時に学修成果補助証明書として発行する「ディプロマサプリメント」（「別紙様式１」）に記載します。

本学学生の学修成果の可視化にあたっては、「個々の学生の入学時からの成長の度合い」を示すことを特に重視し、学生にとって理解しやすい形で表します。

（１）学科 DP 到達度の可視化方法

・卒業研修テーマおよび成績評価点数を表示します。
・上記４－④（卒業研修）のルーブリックスコアを、評価項目ごとにレーダーチャートで表示します。

（２）共通学士力の可視化方法

・共通学士力の各区分の内容に相当する外部アセスメントテストの項目のスコアを組み合わせて集計し、その集計値を、当該区分の共通学士力の到達度として表示します。
・共通学士力の最終的な到達度（学修成果）は、第 8 セメスター（4 年次後期）に受検した外部アセスメントテストのスコアを使用します。

（３）専門学士力の可視化方法

・各学科専門教育課程表における各専門科目と専門学士力の各区分との対応表に基づき、対応する専門教育科目の範囲で算出した GPA を、当該専門学士力項目の到達度として表示します。
・専門学士力の最終的な到達度（学修成果）は、卒業時点の成績（GPA）を使用します。

【改定履歴】

１．2019 年 12 月 17 日　制定（代議員会承認）
２．2021 年 10 月 12 日　改定（内部質保証推進委員会・代議員幹事会承認）
３．2022 年 11 月　8日　改定（内部質保証推進委員会・代議員幹事会承認）

【別表１】 検証に用いるデータ等

レベル	Admission Policy	Education Policy Guidance Policy : G2 （Curriculum Policy）	Graduation Policy : G1 （Diploma Policy）
	入学時／入学生	在学中／在学生	卒業時・卒業生
	【AP の適切性及び AP を満たす人材を選抜できているかどうかの評価】	【CP の適切性及び CP に則って学修が進められているかどうかの評価】	【DP を満たす人材になったかどうかの評価】
全学	・各種入学試験 ・プレースメントテスト ・アチーブメントテスト ・入学時（PROG）アンケート ・成績評価（GPA） ・単位修得状況 ・退学率（退学要因） ・休学率（休学要因） ・留年率 ・外部アセスメントテスト(PROG 等) ・卒業率 ・就職率	・成績評価（GPA） ・単位修得状況 ・退学率（退学要因） ・休学率（休学要因） ・留年率 ・学修ポートフォリオ ・外部アセスメントテスト(PROG 等) ・学生意向調査(PROG アンケート) ・共通学生調査 ・文部科学省全国学生調査	・成績評価（GPA） ・単位修得状況 ・卒業率 ・就職率 ・資格取得状況 ・課外活動等成績 ・学修ポートフォリオ ・外部アセスメントテスト(PROG 等) ・学生意向調査(PROG アンケート) ・卒業時（４年生）調査 ・卒業生（既卒者）調査 ・企業調査
教育課程 （学位）		（別に定める）	（別に定める）
授業科目	【科目毎の学修成果の達成状況の評価】		
	・「東北工業大学成績評価のガイドライン」に基づく成績評価 ・各科目シラバスに基づく成績評価（出席率・小テスト・レポート等提出物・成果発表・期末試験） ・授業評価アンケート（授業に対する学生から評価および学修理解度等に関する学生の自己評価）		

【別表２】アセスメント・チェックリスト

No.	項目	質問項目・内容等	対象	時期	周期	手法	評価者
1	学生意向調査 （PROG アンケートとして、No.2 の PROG テストと同時に実施） （1 年生は入学時アンケートとして実施）	入学満足度・学修意欲 課外活動意欲 進路意向・各種意向	1～3 年 4 年	4 月 12～1 月	毎年	WEB	学生
2	外部アセスメントテスト （PROG テストを利用）	リテラシー（思考） コンピテンシー（態度）	1～3 年 4 年	4 月 9 ～10 月	毎年	WEB ﾏｰｸｼｰﾄ	学生
3	成績評価	各科目の目標達成度	全学年	7 月・1 月	毎年	試験等	教員
4	授業評価アンケート	授業満足度・学修時間 授業理解度	全学年	7 月・1 月	毎年	WEB	学生
5	共通学生調査 （大学 IR コンソーシアム設問利用） （4 年生は卒業時調査として実施）	大学満足度 授業経験・学習態度 週活動時間・能力変化 上記＋各種評価 カリキュラム満足度等	1～3 年 4 年	12～1 月	毎年 卒業時	WEB	学生
6	卒業生調査（既卒者） （大学 IR コンソーシアム設問利用）	大学満足度・自己評価 就職満足度・各種評価	既卒者 （3 年度分）	12～1 月	毎年	WEB	卒業生
7	企業調査（就職先）	採用卒業生の満足度 各種評価	卒業生の 就職先企業	12～1 月	毎年	WEB	企業等

【別表３】ディプロマサプリメント記載項目

1．基本情報	氏名・学籍番号・入学年度・学部・学科
2．総合学修成果	修得単位数・GPA・成績順位・卒業研修テーマ・共通学士力到達度・専門学士力到達度等
3．正課学修成果	修得単位数推移・教養教育科目 GPA・通算 GPA 推移・MR アセスメント結果等
4．ジェネリックスキル・アセスメントスコア	リテラシー・コンピテンシー（中区分）の入学時・卒業時のスコア
5．正課外活動	学内所属サークル・正課外活動実績・表彰等

【別紙】「４．アセスメントの方法」の例示

専門学士力のアセスメント方法（例１）

	コア科目 （★：アセスメント対象）	アセスメントの方法	実施時期と方法
専門学士力①	専門科目１	―	―
専門学士力②	★専門科目２ 専門科目３	単元〇～〇の内容で 定着度確認テスト	３年後期研修
専門学士力③	専門科目４	―	―
専門学士力④	専門科目５	―	―
専門学士力⑤	★卒業研修	ルーブリック	卒業研修（４年次）

専門学士力のアセスメント方法（例２）

	コア科目 （★：アセスメント対象）	アセスメントの方法	実施時期と方法
専門学士力①	★専門科目１	―	―
専門学士力②	★専門科目２ ★専門科目３	資格試験過去問から 専門学士力②～③の 定着度確認テスト	３年後期研修
専門学士力③	★専門科目４	―	―
専門学士力④	★専門科目５	ルーブリック	コア科目授業内
専門学士力⑤	★卒業研修	ルーブリック	卒業研修（４年次）

分野横断プログラム（タイプⅠ：課程横断型）

	プログラム名	概要	構成科目					総単位数
			課程	科目名	学年	開講期	単位	
P1	生体医工学プログラム	超高齢化社会を迎えたわが国では、健康長寿社会の実現が強く求められています。健康・福祉の増進・充実のためには、工学の幅広い分野の先端技術を結集した、医療・福祉機器やセンサ、健康管理システム、および薬効などの評価技術の開発が不可欠です。本プログラムでは、それぞれの専門分野の基礎となる学問を学びます。	E	電子回路I	3	前期	2	12
				センサ工学	3	前期	2	
				バイオ・光エレクトロニクス	4	前期	2	
			K	熱力学	2	後期	2	
				電気化学	3	前期	2	
				生化学	3	後期	2	
P2	電気通信プログラム	発電や送配電などの電力事業、および、インターネットや放送を含む通信事業は、私たちの生活や産業を支える社会基盤となっています。本プログラムでは、電気通信事業の技術者として必要な知識を得ることを目的とし、電力事業の歴史や送変電の仕組みと基本的な法規に加えて、企業における品質管理方法や発明などの知的財産権について学びます。	E	電力工学概論	3	後期	2	12
				電気法規	4	後期	2	
				品質管理及び知的財産	4	後期	2	
			T	通信工学Ⅰ	3	前期	2	
				電気通信法規	4	後期	2	
				電力工学	4	後期	2	
P3	IoTシステムプログラム	コンピュータだけでなく、家電やセンサなどもインターネットにつなげるのが、IoT (Internet of Things)です。IoTの活用のためには、セキュリティに配慮したネットワークに関する知識が必要です。さらに、ハードウェアとソフトウェアを融合させる組込みシステムやマルチメディアシステム、ディジタル信号処理について学びます。	E	コンピュータネットワーク	2	後期	2	12
				マルチメディアシステム	3	前期	2	
				組込みシステム入門	3	前期	2	
			T	コンピュータネットワークI	1	後期	2	
				組込みシステム設計	3	後期	2	
				ディジタル信号処理	3	後期	2	
P4	材料デバイスプログラム	サイバー空間とフィジカル空間が融合する次世代情報化社会においては、より高速で省エネルギーな情報処理システムが不可欠であり、半導体に代表される電子デバイスの存在が欠かせません。本プログラムでは、半導体などに使用される従来の材料の基礎学問に加えて、ナノカーボン、磁性体、金属などの新規電子材料や構造物について学びます。	E	固体電子工学I	2	後期	2	12
				固体電子工学II	3	前期	2	
				電気電子材料	4	前期	2	
			K	固体・光化学	3	前期	2	
				機能材料	3	後期	2	
				有機・無機材料	3	後期	2	
P5	災害対応ロボティクスプログラム	ロボットには、医療、福祉、生産、災害対応などにおいて人々の生活をサポートすることが期待されています。そのためには、自ら認識、判断し行動する”知能”ロボットが必要であり、電子、機械、情報技術に加え、人間や生物の機能・特性を考慮したインタフェース、デザイン技術も重要となります。本プログラムでは、これらの基礎となる学問を学びます。	E	制御工学	3	前期	2	12
				組込みシステム入門	3	前期	2	
				ロボティクス	4	前期	2	
			C	環境・防災工学	1	前期	2	
				地震工学	1	後期	2	
				地盤防災工学	2	前期	2	
P6	災害情報プログラム	わが国をはじめとして世界中で毎年のように甚大な自然災害が相次いで発生しています。発生した災害に関する情報には、今後の防災に役立つものが多く含まれており、それらを適切に分析したり管理したりすることが求められます。また、災害時には様々な組織や社会が保有する情報を適切に守ることも必要です。災害と情報の両面からこれらを結びつける知識を身につけます。	T	情報リテラシーII	1	前期	2	12
				データベース	2	後期	2	
				情報セキュリティ	3	前期	2	
			C	環境・防災工学	1	前期	2	
				地震工学	1	後期	2	
				地盤防災工学	2	前期	2	
P7	環境アセスメントプログラム	環境アセスメントは、開発事業を行う場合に、事業者自らが環境へ与える影響を事前に予測・評価することで適切な事業手法を選択し、環境負荷軽減・自然共生へと導く制度です。本プログラムでは、対象分野の基礎や課題の理解、調査技術・評価手法の修得を目指します。建設・環境コンサルタント業務等には身につけておきたい内容です。	C	地震工学	1	後期	2	12
				環境・防災工学	1	前期	2	
				都市環境工学	3	後期	2	
			K	大気環境工学	2	前期	2	
				緑地環境工学	2	前期	2	
				資源循環とライフサイクルアセスメント	3	後期	2	
P8	プラス・セキュリティプログラム	水道や道路、橋、トンネルなど社会生活を支える都市施設も今はネットワークを利用して管理できる時代。本プログラムでは、そうした都市施設の維持管理と情報セキュリティ技術を学び、私たちのくらしの安全を支える技術を身につけます。	T	コンピュータネットワークII	2	前期	2	12
				情報セキュリティ	3	前期	2	
				電力工学	4	後期	2	
			C	環境・防災工学	1	前期	2	
				上下水道工学	3	前期	2	
				社会基盤マネジメント	3	後期	2	
P9	IoTテクノロジープログラム	様々なモノ同士がインターネットでつながり、私たちの生活を便利にしてくれるIoT。そこで必要なセンサー、エネルギー伝送、信号処理、情報通信などの技術を広く学び、IoT社会で活躍できる技術者としての知識を身につけます。	E	センサ工学	3	前期	2	12
				パワーエレクトロニクス	4	前期	2	
				エネルギー変換工学	4	後期	2	
			T	通信工学Ⅰ	3	前期	2	
				電波工学	3	後期	2	
				電気・電子計測	3	後期	2	

分野横断プログラム（タイプⅠ：課程横断型）

	プログラム名	概要	構成科目					総単位数
			課程	科目名	学年	開講期	単位	
PI0	建設DXプログラム	ビッグデータと、IoTやAI等のディジタル技術の応用により多くの分野で作業の自動化や効率化が図られることによって、社会では新たな価値の創出を通じた変革がもたらされています。これをディジタル・フォーメイション（DX）と呼びます。本プログラムでは建設分野に焦点を当て、社会で変革を起こす技術について学びます。	E	電力工学概論	3	後期	2	12
				電気機械工学	3	後期	2	
				電気法規	4	後期	2	
			C	道路工学	3	後期	2	
				空間測量Ⅱ	3	後期	2	
				社会基盤マネジメント	3	後期	2	
PI1	環境エネルギープログラム	持続可能な社会を築いていくためにはエネルギーと環境の知識を併せ持つバランスの良い技術者の育成が重要です。今後の技術者には創エネルギー技術、熱、電気及び電力を関連付け理解していくことが求められます。本プログラムでは発電に関連する物質と熱の関係の基礎から電力の変換の基礎まで幅広い知識の修得を目指します。	E	電力工学概論	3	後期	2	10
				エネルギー変換工学	4	後期	2	
			K	地球環境とエネルギー	2	前期	2	
				大気環境工学	2	前期	2	
				熱力学	2	後期	2	
PI2	光通信デバイスプログラム	光は、信号としてもエネルギーとしても利用できる優れた波として、通信から計測、環境問題対策に至るまで幅広く使われています。本プログラムでは、光の発生・変換・検出のための材料・デバイス技術からその応用技術までを分野横断的に学び、多様な専門分野の視点から光技術を扱うための知識を身に付けます。	T	電磁気学II	3	前期	2	12
				電気・電子計測	3	後期	2	
				光通信工学	4	前期	2	
			K	錯体化学	3	前期	2	
				固体・光化学	3	前期	2	
				機能材料	3	後期	2	
PI3	物質データサイエンスプログラム	有機合成、水素エネルギー、カーボンリサイクル等での使用が期待される触媒、電池材料、電極材料、吸着材料などの化学物質はカーボンニュートラルに貢献し持続可能な社会の形成に重要な役割を担っています。本プログラムでは効率の良い材料開発のために必要となるAIを用いた物質構造や化学反応の解析に結び付く基本知識が修得できます。	T	プログラミング実践	2	前期	2	12
				コンピュータ数値解析	2	後期	2	
				データ分析	4	前期	2	
			K	化学工学	2	後期	2	
				表面化学	2	後期	2	
				化学数学Ⅰ	3	前期	2	

【課程名】E：電気電子工学課程　　T：情報通信工学課程　　C：都市工学課程　　K：環境応用化学課程

分野横断プログラム（タイプⅡ：課程完結型）

	プログラム名	概要	構成科目					総単位数
			課程	科目名	学年	開講期	単位	
Q1	電気電子工学の魅力プログラム	電気電子工学の技術は、電気製品だけではなく、社会インフラからエンターテインメントまで現代社会のあらゆる分野で応用され、発展を続けています。専門知識を身につけた人材への産業界からの期待は大きく、需要も増え続けています。本プログラムでは、電気電子工学過程の主要3分野である、エネルギー、電子機械、医工学の魅力を学びます。	E	バイオ・光エレクトロニクス	4	前期	2	6
				ロボティクス	4	前期	2	
				パワーエレクトロニクス	4	後期	2	
Q2	基本情報技術プログラム	現代社会では情報通信技術が必要不可欠で、情報処理のスキルは広く求められています。基本情報技術プログラムは、国家試験である基本情報技術者試験の内容や関連分野を体系的に学ぶことを目的とします。また、本プログラムは情報処理推進機構の認定を受けており、修了試験に合格すると、基本情報技術者試験の一部が免除されます。	E/T	基本情報技術Ⅰ	2	前期	2	6
				基本情報技術Ⅱ	2	後期	2	
				基本情報技術Ⅲ	3	前期	2	
Q3	C言語プログラム	プログラミング言語として広く利用されているC言語を用いて、コンピュータ内のデータ構造や命令の組み合わせであるアルゴリズムの知識を修得し、情報通信システムを動作させるための情報処理技術の基礎を学びます。	T	プログラミング入門	I	前期	3	6
				アルゴリズムとデータ構造及び同演習	I	後期	3	
Q4	都市の計画とまちづくりプログラム	私たちが暮らす空間としての都市や、都市の活力を生み出す人や物の移動を支える都市交通。本プログラムでは、自然との調和を大切にしながら都市の健全な発展と秩序ある整備を図る計画と、都市の魅力向上に関する理論と実践を学びます。	C	都市と観光	I	後期	2	6
				都市計画	3	前期	2	
				都市交通計画	3	後期	2	
Q5	防災・減災プログラム	私たちの暮らしの基盤である都市において人と財産の安全を自然災害から守ることは何よりも大切なことです。本プログラムでは、地震をはじめとする自然災害に関する基礎知識および防災・減災に係る技術について理解を深めます。	C	環境・防災工学	I	前期	2	6
				地震工学	I	後期	2	
				地盤防災工学	3	前期	2	
Q6	危険物取扱者プログラム	化学製品・各種材料や半導体製造など、多業種の職場で活かせる危険物取扱者の基本知識を修得するプログラムです。条件を満たすことにより、危険物取扱者（甲種）の受験資格を得ることが出来ます。	K	有機化学I	I	後期	2	6
				有機化学II	2	前期	2	
				無機化学	2	前期	2	

電気電子工学課程の履修モデル

【養成する人材像】ハードウェア、ソフトウェア両技術に柔軟に対応し、幅広い知識・俯瞰的視野を有すると共に、地域や産業界が求める創造力を持つ電気技術者、電子技術者を育成する。

科目分野	1年次 前期	(必)	(選)	1年次 後期	(必)	(選)	2年次 前期	(必)	(選)	2年次 後期	(必)	(選)	3年次 前期	(必)	(選)	3年次 後期	(必)	(選)	4年次 前期	(必)	(選)	4年次 後期	(必)	(選)
教養教育科目群																								
地域・文化・社会				表象文化論		＊	東北文化史		2	市民と法		2	産業社会と心理学		＊	情報社会の経済		2	現代の哲学		＊			
				メディア文化史		＊	現代社会論		＊	暮らしと心理学		＊	産業社会と倫理		＊	フランスの文化と言葉		＊						
													ビジネスマナー		2	韓国の文化と言葉		＊						
													日本国憲法		2	中国の文化と言葉		＊						
													科学思想史		＊	異文化理解		＊						
言葉と表現	スタディスキル	1		英語ⅠB	1		英語ⅡA	1		英語ⅡB		＊	資格英語Ⅲ		＊									
	英語ⅠA	1		英会話Ⅱ		＊	英会話Ⅲ		＊	英会話Ⅳ		＊												
	英会話Ⅰ		＊				資格英語Ⅰ		＊	資格英語Ⅱ		＊												
心と体の健康	健康・運動科学実習Ⅰ		1	健康・運動科学実習Ⅱ		1	スポーツ科学実習		＊															
キャリアデザイン	キャリアデザインⅠ	1					キャリアデザインⅡ	1					キャリアデザインⅢ	1										
AI・データサイエンス	人工知能総論	1		人工知能入門		1							人工知能基礎		＊	人工知能応用		＊						
グリーンテクノロジー				グリーンテクノロジー	1		サステナビリティ入門		2	地球環境と諸問題		＊												
教職関連													職業指導（工業）		＊	情報と職業		＊						
													工業概論		＊									
													情報社会とモラル		＊									
専門教育科目群																								
工学基礎	フレッシュパーソンセミナー	1		工学概論	2		物理学Ⅱ		2															
	物理基礎	2		物理学Ⅰ	2		電気化学		＊															
	化学基礎	2		無機化学	2		統計基礎		2															
	数学基礎	2		線形代数	2		電気数学Ⅲ		2															
	電気数学Ⅰ及び同演習	3		電気数学Ⅱ及び同演習	3																			
	情報基礎		2																					
電気電子基礎				電気回路Ⅰ及び同演習	3		電気回路Ⅱ及び同演習	3		電気回路Ⅲ	2													
							電磁気学Ⅰ	2		電磁気学Ⅱ	2													
										固体電子工学Ⅰ	2													
										電気電子計測	2													
										ディジタル回路	2													
電気電子応用													電子回路Ⅰ	2		電子回路Ⅱ	2		電気電子材料		2	電気法規		＊
													電気回路Ⅳ		2	電気機械工学		2	バイオ・光エレクトロニクス		2	品質管理及び知的財産		＊
													固体電子工学Ⅱ		2	電力工学概論		2	ロボティクス		＊	エネルギー変換工学		2
													センサ工学		＊				パワーエレクトロニクス		2			
													制御工学		＊									
													CAD製図	1										
情報技術	プログラミングⅠ	2		プログラミングⅡ	2		基本情報技術Ⅰ	2		基本情報技術Ⅱ		2	基本情報技術Ⅲ		2	情報理論		＊						
							アルゴリズム基礎		2	コンピュータネットワーク		＊	マルチメディアシステム		＊									
										数値計算法		＊												
電気電子工学総合				工学基礎実験	2					電気電子工学実験Ⅰ	3		電気電子工学実験Ⅱ	3		電気電子工学実験Ⅲ	3		卒業研修Ⅱ	2		卒業研修Ⅲ	4	
													組込システム入門		2	卒業研修Ⅰ	1							
																創造開発		＊						
教養教育科目単位数		4	1		2	2		1	5		0	2		1	4		0	2		0	0		0	0
専門教育科目単位数		12	2		18	0		7	8		13	2		6	8		6	4		2	6		4	2
年次単位数計	41						38						31						14					

卒業条件									
	①教養教育科目：			②専門教育科目：			必修・選択別			③			①教養教育科目必修8単位を含む24単位以上
	教養必修単位数	8	単位	専門必修単位数	68	単位	必修単位数計	76	単位	合計単位数	124	単位	②専門教育科目必修68単位を含む100単位以上
	教養選択単位数	16	単位	専門選択単位数	32	単位	選択単位数計	48	単位				③教養教育科目必修8単位を含む24単位以上、専門教育科目必修68単位を含む100単位以上、合計124単位以上修得のこと。

注　開講科目（赤字）必修　　開講科目（青字）選択（選択例）　　開講科目（黒字）選択

教養教育科目選択：あくまで選択例を示すものである。CAP制上限の範囲内で教養科目（選択）を適宜履修する。

専門教育科目選択：選択科目の中からCAP制上限の範囲内で適宜履修する。

情報通信工学課程の履修モデル

【養成する人材像】ソフトウェアとハードウェアの両方の専門知識を有し、さらに幅広い知識・俯瞰的視野も有する、高い倫理観を持った情報処理技術者、通信技術者を育成する。

科目分野	1年次						2年次						3年次						4年次					
	前期	(必)	(選)	後期	(必)	(選)	前期	(必)	(選)	後期	(必)	(選)	前期	(必)	(選)	後期	(必)	(選)	前期	(必)	(選)	後期	(必)	(選)
教養教育科目群																								
地域・文化・社会				表象文化論		＊	東北文化史		2	市民と法		2	産業社会と心理学		＊	情報社会の経済		2	現代の哲学		＊			
				メディア文化史		＊	現代社会論		＊	暮らしと心理学		＊	産業社会と倫理		＊	フランスの文化と言葉		＊						
																ビジネスマナー		2						
																日本国憲法		2						
													科学思想史		＊	異文化理解		＊						
言葉と表現	スタディスキル	1		英語ⅠB	1		英語ⅡA		1	英語ⅡB		＊	資格英語Ⅲ		＊									
	英語ⅠA	1		英会話Ⅱ		＊	英会話Ⅲ		＊	英会話Ⅳ		＊												
	英会話Ⅰ		＊				資格英語Ⅰ		＊	資格英語Ⅱ		＊												
心と体の健康	健康・運動科学実習Ⅰ		1	健康・運動科学実習Ⅱ		1	スポーツ科学実習		＊															
キャリアデザイン	キャリアデザインⅠ	1					キャリアデザインⅡ	1					キャリアデザインⅢ	1										
AI・データサイエンス	人工知能総論	1		人工知能入門		1							人工知能基礎		＊	人工知能応用		＊						
グリーンテクノロジー				グリーンテクノロジー	1		サステナビリティ入門		2	地球環境と諸問題		＊												
教職関連													職業指導（工業）		＊	情報と職業		＊						
													工業概論		＊									
													情報社会とモラル		＊									
専門教育科目群																								
工学基礎	フレッシュパーソンセミナー	1		工学概論	2		統計基礎		＊	統計学		2												
	ベクトルと行列	2		物理学Ⅰ	2		物理学Ⅱ		2															
	数学基礎	2		線形代数		＊																		
	物理基礎	2																						
	化学基礎	2																						
	情報基礎		＊																					
情報ネットワーク	情報リテラシーⅠ	1		情報リテラシーⅡ	2		基本情報技術Ⅰ		＊	基本情報技術Ⅱ		＊	基本情報技術Ⅲ		＊	情報理論		＊						
				コンピュータネットワークⅠ	2		コンピュータネットワークⅡ		2	計算機工学Ⅰ	2		情報セキュリティ		2									
							論理回路	2					計算機工学Ⅱ		2									
情報プログラミング	プログラミング入門	3		アルゴリズムとデータ構造及び同演習	3		プログラミング実践		2	ソフトウェア設計		2	アプリケーション開発		2	ディジタル信号処理		＊	音響工学		＊			
										コンピュータ数値解析		2	コンピュータグラフィックス技術		2	組込みシステム設計		2	データ分析		＊			
										データベース		＊												
通信システム	情報通信工学入門	2		解析Ⅱ及び同演習	3		解析Ⅲ		2	電磁気学Ⅰ		2	通信工学Ⅰ	2		通信工学Ⅱ		2	光通信工学		＊	電気通信法規		＊
	解析Ⅰ	2					電気数学		2				電磁気学Ⅱ		2	電波工学		＊						
通信デバイス				電気回路入門	2		電気回路Ⅰ及び同演習	3		電気回路Ⅱ及び同演習		3	電気回路Ⅲ		2	電子回路Ⅱ		＊				電力工学		＊
										電子回路Ⅰ及び同演習	3		半導体デバイス		＊	電気・電子計測		＊						
情報通信工学総合							アカデミックスキル	1		情報通信工学実験Ⅰ	3		情報通信工学実験Ⅱ	3		情報通信工学実験Ⅲ		3	卒業研修Ⅱ	2		卒業研修Ⅲ	4	
													情報通信工学セミナー	1		卒業研修Ⅰ	1							
教養教育科目単位数		4	1		2	2		1	5		0	2		1	4		0	2		0	0		0	0
専門教育科目単位数		17	0		16	0		6	10		8	11		6	12		1	7		2	0		4	0
年次単位数計	42						43						33						6					

卒業条件	①教養教育科目：			②専門教育科目：			必修・選択別			③			①教養教育科目必修8単位を含む24単位以上
	教養必修単位数	8	単位	専門必修単位数	60	単位	必修単位数計	68	単位	合計単位数	124	単位	②専門教育科目必修60単位を含む100単位以上
	教養選択単位数	16	単位	専門選択単位数	40	単位	選択単位数計	56	単位				③教養教育科目必修8単位を含む24単位以上、専門教育科目必修60単位を含む100単位以上、合計124単位以上修得のこと。

注　開講科目（赤字）必修　　開講科目（青字）選択（選択例）　　開講科目（黒字）選択

教養教育科目選択：あくまで選択例を示すものである。CAP制上限の範囲内で教養科目（選択）を適宜履修する。

専門教育科目選択：選択科目の中からCAP制上限の範囲内で適宜履修する。

都市工学課程の履修モデル

【養成する人材像】建設技術に関する学術を広く教育・研究すると共に、社会の要請に十分対応できる専門的知識及び科学的知識を身に付け、かつ事業あるいは技術のマネジメント能力を有し、異分野との融合・学際領域も含む幅広い知識・俯瞰的視野及び良識と倫理観をもち、地域社会において実践的な課題を解決する能力を備えた土木・建設技術者を育成する。

科目分野	1年次						2年次						3年次						4年次					
	前期	(必)	(選)	後期	(必)	(選)	前期	(必)	(選)	後期	(必)	(選)	前期	(必)	(選)	後期	(必)	(選)	前期	(必)	(選)	後期	(必)	(選)
教養教育科目群																								
地域・文化・社会				表象文化論		＊	東北文化史		2	市民と法		2	産業社会と心理学		＊	情報社会の経済		2	現代の哲学		＊			
				メディア文化史		＊	現代社会論		＊	暮らしと心理学		＊	産業社会と倫理	2		フランスの文化と言葉		＊						
													ビジネスマナー		＊	韓国の文化と言葉		＊						
													日本国憲法		2	中国の文化と言葉		＊						
													科学思想史		＊	異文化理解		＊						
言葉と表現	スタディスキル	1		英語ⅠB	1		英語ⅡA	1		英語ⅡB	1		資格英語Ⅲ		＊									
	英語ⅠA	1		英会話Ⅱ		＊	英会話Ⅲ		＊	英会話Ⅳ		＊												
	英会話Ⅰ		＊				資格英語Ⅰ		＊	資格英語Ⅱ		＊												
心と体の健康	健康・運動科学実習Ⅰ		1	健康・運動科学実習Ⅱ		＊	スポーツ科学実習		＊															
キャリアデザイン	キャリアデザインⅠ	1					キャリアデザインⅡ	1					キャリアデザインⅢ	1										
AI・データサイエンス	人工知能総論	1		人工知能入門		1							人工知能基礎		＊	人工知能応用		＊						
グリーンテクノロジー				グリーンテクノロジー	1		サステナビリティ入門		2	地球環境と諸問題		＊												
教職関連													職業指導（工業）		＊	情報と職業		＊						
													工業概論		＊									
													情報社会とモラル		＊									
専門教育科目群																								
工学基礎	フレッシュパーソンセミナー	1		工学概論	2		統計基礎	2		応用数学	2		統計解析		2									
	数学基礎	2		線形代数	2		プログラミング演習		＊															
	物理基礎	2		微分積分	2																			
	化学基礎	2		物理学Ⅰ	2																			
	情報基礎	2		化学	2																			
				プログラミング入門	1																			
				ＣＡＤ	1																			
土木材料・構造工学				コンクリート	2		構造力学基礎Ⅰ	2		構造力学基礎Ⅱおよび同演習	3		構造力学応用		2	道路工学		＊	鋼構造学		＊			
							鉄筋コンクリートⅠ	2		鉄筋コンクリートⅡ		2												
地盤工学				地震工学	2		基礎地盤工学	2		応用地盤工学		2	地盤防災工学		＊									
水工学・土木環境システム	環境・防災工学	2					水理学基礎Ⅰ	2		水理学基礎Ⅱ	2		水理学応用Ⅰ		2	水理学応用Ⅱ		＊						
										環境システム		2	河川工学		＊	水文学		2						
													上下水道工学	2		都市環境工学		＊						
土木計画学・建設マネジメント	人間行動と心理		2	都市と観光		＊	社会的計画論	2		数理的計画論および同演習		3	都市計画		2	都市交通計画		2	プロジェクトマネジメント		2			
							都市政策入門		＊	経済学通論		2				社会基盤マネジメント	2							
都市工学総合	都市工学セミナーⅠ	1		都市工学セミナーⅡ	1		空間測量Ⅰ	2		都市工学セミナーⅣ	1		都市工学実験Ⅰ	2		空間測量Ⅱ	2		都市工学実験Ⅱ	2		卒業研修Ⅲ	4	
							空間測量実習	2					都市工学セミナーⅤ	1		地理情報システム		＊	卒業研修Ⅱ	2				
							都市工学セミナーⅢ	1								エンジニアリングデザイン	1							
																卒業研修Ⅰ	1							
教養教育科目単位数		4	1		2	1		2	4		1	2		3	2		0	2		0	0		0	0
専門教育科目単位数		12	2		17	0		17	0		8	11		5	8		6	4		4	2		4	0
年次単位数計	39						45						30						10					

卒業条件	①教養教育科目：			②専門教育科目：			必修・選択別			③			①教養教育科目必修12単位を含む24単位以上
	教養必修単位数	12	単位	専門必修単位数	73	単位	必修単位数計	85	単位	合計単位数	124	単位	②専門教育科目必修73単位を含む100単位以上
	教養選択単位数	12	単位	専門選択単位数	27	単位	選択単位数計	39	単位				③教養教育科目必修12単位を含む24単位以上、専門教育科目必修73単位を含む100単位以上、合計124単位以上修得のこと。

注　開講科目（赤字）必修　　開講科目（青字）選択（選択例）　　開講科目（黒字）選択

教養教育科目選択：あくまで選択例を示すものである。CAP制上限の範囲内で教養科目（選択）を適宜履修する。

専門教育科目選択：選択科目の中からCAP制上限の範囲内で適宜履修する。

環境応用化学課程の履修モデル

【養成する人材像】応用化学および環境学の体系的教育を基礎として、材料開発とその管理・製造技術と、環境影響評価と管理、エネルギーおよび 環境保全技術について学び、専門分野の知識・技術と幅広い知識・俯瞰的視野を修得し、もって持続可能な社会の実現および地域社会の発展をめざして創造的に活躍することのできる化学技術者・環境保全技術者を育成する。

科目分野	1年次 前期	(必)	(選)	後期	(必)	(選)	2年次 前期	(必)	(選)	後期	(必)	(選)	3年次 前期	(必)	(選)	後期	(必)	(選)	4年次 前期	(必)	(選)	後期	(必)	(選)
教養教育科目群																								
地域・文化・社会				表象文化論		＊	東北文化史		2	市民と法		2	産業社会と心理学		＊	情報社会の経済		2	現代の哲学		＊			
				メディア文化史		＊	現代社会論		＊	暮らしと心理学		＊	産業社会と倫理		＊	フランスの文化と言葉		＊						
													ビジネスマナー		2	韓国の文化と言葉		＊						
													日本国憲法		2	中国の文化と言葉		＊						
													科学思想史		＊	異文化理解		＊						
言葉と表現	スタディスキル	1		英語ⅠB	1		英語ⅡA		1	英語ⅡB		＊	資格英語Ⅲ		＊									
	英語ⅠA	1		英会話Ⅱ		＊	英会話Ⅲ		＊	英会話Ⅳ		＊												
	英会話Ⅰ		＊				資格英語Ⅰ		＊	資格英語Ⅱ		＊												
心と体の健康	健康・運動科学実習Ⅰ		＊	健康・運動科学実習Ⅱ		＊	スポーツ科学実習		＊															
キャリアデザイン	キャリアデザインⅠ	1					キャリアデザインⅡ	1					キャリアデザインⅢ	1										
AI・データサイエンス	人工知能総論	1		人工知能入門		1							人工知能基礎		＊	人工知能応用		＊						
グリーンテクノロジー				グリーンテクノロジー	1		サステナビリティ入門		2	地球環境と諸問題		2												
教職関連													職業指導（工業）		＊	情報と職業		＊						
													工業概論		＊									
													情報社会とモラル		＊									
専門教育科目群																								
工学基礎	フレッシュパーソンセミナー	1		工学概論	2		統計基礎	2		生化学基礎		2	応用数学		2									
	科学リテラシー	2		線形代数	2		微分積分学Ⅱ		2															
	数学基礎	2		微分積分学Ⅰ	2		物理学Ⅱ		2															
	物理基礎	2		物理学Ⅰ	2																			
	情報基礎	2																						
化学（基礎）	化学基礎	2		物理化学Ⅰ	2		物理化学Ⅱ		2	熱力学		2												
				有機化学Ⅰ	2		有機化学Ⅱ	2																
				分析化学	2		無機化学	2																
化学（応用）										環境化学		2	錯体化学		2	生化学		2	CAD技術入門		2			
										機器分析Ⅰ	2		機器分析Ⅱ		2	放射化学		2						
										表面化学		2	固体・光化学		2	機能材料		2						
										高分子化学		2	電気化学		2	触媒化学		2						
										化学工学	2		化学数学Ⅰ	2		有機・無機材料		2						
																化学数学Ⅱ及び同演習	3							
環境学	循環型社会形成論		2	環境マネジメント		2	緑地環境工学		＊	地域環境調査法及び同演習		3	地域環境調査実習		＊									
							大気環境工学		＊	水環境工学		＊	土壌環境工学		＊	資源循環とライフサイクルアセスメント		＊						
							地球環境とエネルギー		2															
環境応用化学総合							分析化学実験	2		物理化学実験	2		応用化学実験	2		卒業研修Ⅰ	1		卒業研修Ⅱ	2		卒業研修Ⅲ	4	
教養教育科目単位数		4	0		2	1		1	5		0	4		1	4		0	2		0	0		0	0
専門教育科目単位数		11	2		14	2		8	8		6	13		4	10		4	10		2	2		4	0
年次単位数計	36						45						35						8					

卒業条件	①教養教育科目：			②専門教育科目：			必修・選択別			③			①教養教育科目必修8単位を含む24単位以上
	教養必修単位数	8	単位	専門必修単位数	53	単位	必修単位数計	61	単位	合計単位数	124	単位	②専門教育科目必修53単位を含む100単位以上（選択必修科目16科目から、合計12単位以上修得すること。）
	教養選択単位数	16	単位	専門選択単位数	47	単位	選択単位数計	63	単位				③教養教育科目必修8単位を含む24単位以上、専門教育科目必修60単位を含む100単位以上、合計124単位以上修得のこと。

注　開講科目（赤字）必修　　開講科目（青字）選択（選択例）　　開講科目（黒字）選択

教養教育科目選択：あくまで選択例を示すものである。CAP制上限の範囲内で教養科目（選択）を適宜履修する。

専門教育科目選択：選択科目の中からCAP制上限の範囲内で適宜履修する。

2023 年度 東北工業大学 教職課程
教育実習実施要項

1.履修条件

教育実習は、次の要件を充足し、履修適格者と認定された者だけが対象となる。

（1） 3 年次終了時までに、教育の基礎的理解に関する科目等及びその他の関連科目、教科の指導法に関する科目を履修すること。

（2） 3 年生前期終了時の全履修科目の累積 GPA 値がおおむね 2.5 以上であること。

2.ねらい

教育実習は、教職に携わることを望む学生が、大学の授業を通しては容易に得ることのできない教職の専門性に関する能力、とりわけ教科授業に関する指導法を、直接教育の現場において、生徒に対する具体的な指導を通して理解し、集中的にみにつけ、教師になるための素地と自覚を養うことを目的として実施される科目である。

3.学習目標

実習校の教員による講話を受講し、学校の課題と生徒の実態、学校運営の在り方などについて理解する。授業参観と教材研究を通して、授業の在り方を学び、実践のための指導案を作成し、授業の準備をする。授業実践を行い、学習指導の実際について学ぶ。授業後の反省を担当教員の指導助言のもとに行い、授業力の向上に生かす。

4.授業の計画

・講話の受講（学校の教育目標、学校の課題、生徒の実態、学校運営の在り方など）
・授業参観（8 時間を目安とする）
・教材研究と指導案作成
・授業実践（8 時間を目安とする。うち 1 時間を研究授業とする。）
・授業後の反省、実習生活の日々の反省の記録
・ホームルーム経営・指導の実践
・特別活動の指導実践
・本学担当者による巡回指導（学生の授業参観後の指導、授業及び生活全般に関する指導）

5.成績評価

実習校からの成績評価、実習日誌の記載内容、実習校の指導教員のコメントを総合的に判断して評価する。

連絡先：東北工業大学 総合教育センター （教職課程分野）
加藤順一 教授 022-305-3704/ j-kato490@tohtech.ac.jp
中島夏子 准教授 022-305-3703/ n-nakajima@tohtech.ac.jp
教務学生課（教育実習担当） 022-305-3330/ kshoku@tohtech.ac.jp

学校法人東北工業大学教職員の定年に関する規程

第１条　本法人に勤務する教職員は満65歳に達したときは、その日の属する年度の末日をもって定年とする。

第２条　前条の規定により、定年に達した者のうち理事会において必要と認めた場合は、退職手続完了後更に嘱託することがある。

２　前項の嘱託する場合の処遇については、理事会の議決を経て別に定める。

附　則

１　本規程は、昭和40年４月１日より施行する。

２　本規程の施行により、昭和40年４月１日現在においてその適用を受ける者については、これが適用を昭和41年３月31日まで延期することができるものとする。

３　理事会において特に必要と認める場合は、当分の間第１条の適用について特例を設けることができる。

４　前２項および３項については、昭和45年３月末日をもってこれを廃止する。

５　この規程は、平成19年４月１日より改正施行する。

６　この規程は、平成21年４月１日から改正施行する。

ただし、大学の教授、准教授の定年については次の通り経過措置を設ける。

（１）　平成21年４月１日から平成22年３月３１日までに満67歳及び満66歳に達したときは、その日の属する年度の末日をもって定年とする。

（２）　平成22年４月１日から平成23年３月３１日までに満66歳及び満65歳に達したときは、その日の属する年度の末日をもって定年とする。

H21.4 改

学校法人東北工業大学嘱託職員任用規程

（趣旨）

第１条　学校法人東北工業大学における嘱託職員の任用については、この規程の定めるところによる。

（適用）

第２条　この規程は、嘱託職員（労働契約法に基づき無期雇用契約に転換した嘱託職員を含む。（第５条を除く。））に適用する。

（定義）

第３条　嘱託職員とは、期間を定めた教育職員又は事務職員として委嘱された者をいう。

（範囲）

第４条　嘱託職員の範囲は、次の各号に掲げる者とする。

（１）　平成21年４月１日現在、東北工業大学の教授、准教授の職にある者が、定年年齢満65歳で退職する場合で、本人が希望する者

（２）　教育、研究又は組織運営上特に必要とする者

（契約期間）

第５条　嘱託職員の契約期間は、１年以内とし、その期間が満了した日をもって退職とする。ただし、理事長が必要と認めた場合は、契約を更新することができる。

２　契約を更新する場合であっても、次の各号に掲げる年限をこえて委嘱できない。

（１）　第４条第１項第１号該当者

満67歳に達した日の属する年度の末日。

（２）　第４条第１項第２号該当者

満65歳に達した日の属する年度の末日。ただし、教育、研究又は組織運営上余人をもって代えがたいと認められるときは、満70歳に達した日の属する年度の末日。

（無期雇用契約への転換）

第６条　通算契約期間が５年を超える者は、学校法人東北工業大学非常勤職員就業規則第34条の２の規定により無期雇用契約に転換することができる。

（就業）

第７条　嘱託職員の服務及び勤務については、特に定めのあるほか学校法人東北工業大学就業規則及び他の関連規程を準用する。ただし、理事長が特に認めた者については、別に定めることができる。

２　前項以外の就業に関しては、別段の定めがない限り、学校法人東北工業大学非常勤職員就業規則を準用する。

（給与）

第８条　嘱託職員の給与については別に定める。

（退職餞別金）

第９条　嘱託職員として引続き10年以上勤務した者が退職した場合は、別に定めるところにより、退職餞別金を支給する。

（私学共済）

第10条　嘱託職員が私学共済制度の加入要件を有するときは、これに加入することができる。

附　則

１　この規程は、平成31年４月１日から施行する。

２　学校法人東北工業大学嘱託職員任免内規は廃止する。

３　学校法人東北工業大学教職員の定年に関する細則は廃止する。

H31.4 制

東北工業大学特命教員任用規程

（趣旨）

第１条　学校法人東北工業大学嘱託職員任用規程（以下「任用規程」という。）に基づき、東北工業大学特命教員（以下「特命教員」という。）の任用について、必要な事項を定めるものとする。

（対象と任務）

第２条　特命教員は、任用規程第４条各号に掲げる嘱託職員の範囲により、特命事項に専任するものとする。

（１）　任用規程第４条第１項第１号該当者のうち、教授及び准教授で継続勤務の意思表示をした場合は、本人の申し出に基づき学科長・学部長等が取りまとめ、人事委員会に報告するものとする。

（２）　任用規程第４条第１項第１号該当者で前号に該当する特命教員の嘱託期間の限度を超えたもののうち、入学者増、就職先開拓及び高校との連携などに関する事項、特に優れた社会貢献に関する事項、その他重要な任務と認められる事項において、本学の発展に寄与することができる学科等の定員の枠外の若干名を特命教員として、学長は副学長と協議の上、人事委員会承認後、教授会の　議を得て学長が決定する。

（３）　任用規程第４条第１項第１号及び第２号該当者で学科新設・改組などで生じる教員組織及び運営上、特にその必要があると学長が認めるときは人事委員会で審議し承認を得た場合は、人事委員会承認後、教授会の議を経て学長が決定する。

（４）　その他学長が特に必要と認めた特定の事業等に専ら従事する者については、人事委員会承認後、教授会の議を経て学長が決定する。

（呼称）

第３条　特命教員に任用された教授、准教授はそれぞれ特命教授、特命准教授と呼称する。

附　則

１　この規程は、平成31年４月１日から施行する。

２　東北工業大学特任教員取扱要綱は、廃止する。

H31.4 制

東北工業大学研究支援センター運営規程

（趣旨）

第１条　この規程は、東北工業大学研究支援センター（以下「センター」という。）の運営について定めるものとする。

（目的）

第２条　センターは、本学における研究活動の活性化及び高度化により研究のブランディング化を推進することを目的とする。

（業務）

第３条　センターは、前条の目的を達成するため、次の業務を行う。

（１）　研究支援の総合窓口及び推進に関すること。

（２）　学内における共同研究の支援に関すること。

（３）　企業及び各種団体等との共同研究や受託研究等の支援に関すること。

（４）　科学研究費及び国、自治体、各種研究助成団体等からの外部資金導入支援に関すること。

（５）　研究シーズ集の発行及び研究実績の評価に関すること。

（６）　知的財産権に係る支援に関すること。

（７）　研究倫理に関すること。

（８）　公正な研究活動の推進に関すること。（研究不正行為及び研究費不正使用への対応に関するものを含む。）

（９）　安全保障輸出管理への対応に関すること。

(10)　利益相反マネジメントに関すること。

(11)　その他センターの目的を達成するための必要な業務に関すること。

（部門）

第４条　センターの業務を円滑に推進するため、次の部門を置く。

（１）　研究支援部門

（２）　知財支援部門

２　センターの事務を処理するため、事務室を置く。

（センター長及び副センター長）

第５条　センターに、センター長を置く。

２　センター長は、センターの目的を遂行するため、これを統括し、その管理運営にあたる。

３　センターに、副センター長を置くことができる。

４　副センター長は、センター長を補佐する。

（コーディネーター）

第６条　センターにコーディネーターを置くことができる。

２　コーディネーターは、本学における共同研究及び受託研究等の支援、並びに外部資金導入の推進を行う。

（リサーチ・アドミニストレーター）

第７条　センターにリサーチ・アドミニストレーター（以下「ＵＲＡ」という。）を置くことができる。

２　ＵＲＡは、研究活動の分析、推進、管理、支援及び利活用等の業務を行う。

（部門長）

第８条　部門に部門長を置くことができる。

（運用）

第９条　共同研究若しくは受託研究、又は知的財産管理に関すること、並びにこの規程の運用について必要な事項は、別に定める。

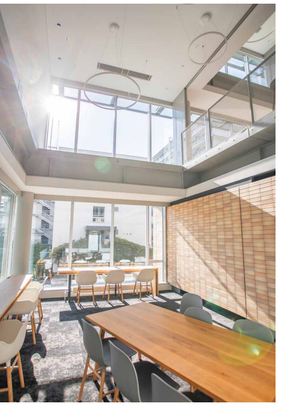
R4.9 制

附　則

この規程は、平成30年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、令和４年９月１日から改正施行する。



新しい学びの場の誕生

2022年9月、東北工業大学八木山キャンパスに「ひろく学び、知をつなぐ」新たな学びの場が誕生しました。キャンパス内に分散していた工学部・建築学部各学科の実験設備（装置・機器）を、新設した実験・教育棟（Tech-Lab）に集約しました。学問分野を超えた知識と人の交流を促す最先端の設備と環境を備えた施設です。見て触れて学ぶことができる生きた教材となるように工夫された建物全体、見える実験室など自由で開放的な空間構成と学生の新しい滞在の形と交流を生み出すための居場所。ここからInnovative & Imaginativeな未来が創り出されます。

Tech-Lab

愛称について

学生、教職員、卒業生を対象に建物の愛称を募集し、応募総数100点の中から「Tech-Lab（読み：てくらぼ）」に決定しました。
愛称の由来：Tech は technology や technique を表し、Lab は laboratory を表します。学生の実験・教育を通して工学的な技術（technology, technique）を身につける場であり、専門研究の入り口にもなることを期待して研究室（laboratory）としました。さらに「てくてくと…」気軽に立ち寄れる実験・教育施設をイメージしました。

愛 称 考 案：技術支援センター事務室
　　教育支援系技術職員
　　有田 康一さん
ロゴデザイン：ライフデザイン学部
　　産業デザイン学科
　　戸田 遥さん

建築概要

設計・監理：株式会社佐藤総合計画
施　　工：清水建設・仙建工業・阿部和工務店
　　建設工事共同企業体
構 造 種 別：鉄骨造 地上4階
建 築 面 積：2,195.13㎡
延 床 面 積：6,370.33㎡
工　　期：2021年4月～2022年9月

お問合せ／入試広報課
TEL.022-305-3111
〒982-8577 宮城県仙台市太白区八木山香澄町35-1
E-mail nyushi@tohtech.ac.jp https://www.tohtech.ac.jp

東北工業大学
TOHOKU INSTITUTE OF TECHNOLOGY

最先端の設備と環境を備えた
全学共用の実験・教育棟

Tech-Lab てくらぼ

Innovative & Imaginative

L104
水理系実験室

L103
材料・構造系実験室

L105
土質系実験室

L201・202
多目的教室

L314・315
電気電子・情報通信・物理系実験室

L307
プロセス室

L313
ITシステムラボラトリー

L318
電気電子・情報通信・物理系実験室

L415・416・417
水質・化学系実験室

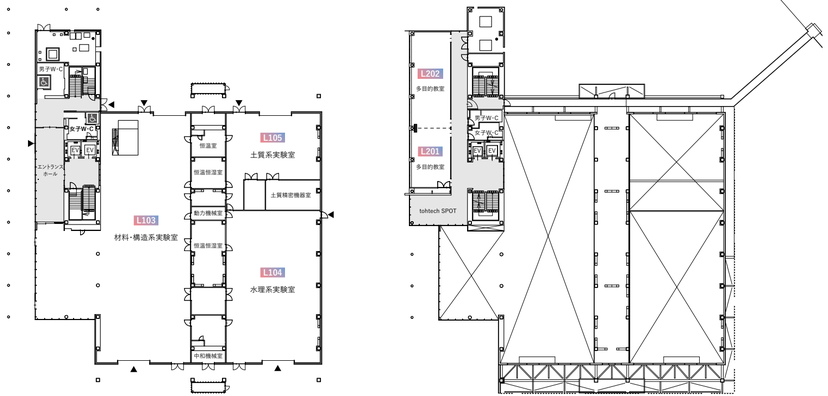
L404
技術支援センター

L406
水質・化学系実験室（ドラフト室）

L410
機器分析室（水質系分析室）

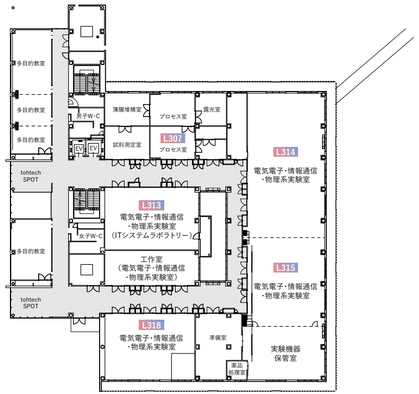
1-2F 建築・土木系実験室を中心としたフロア

1〜2層吹き抜けの大空間はガラス張りで、大型設備を使用した実験の様子が廊下や外部から「見える実験室」となっています。構造躯体や設備配管も現しになっていて、建物そのものが教材となります。建築学科の「材料実験」や、都市マネジメント学科の「水理実験」等、大型機器を使用する実験が行われます。



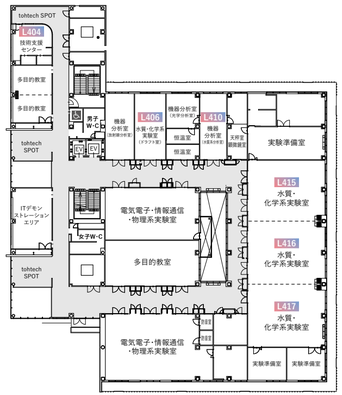
3F 電気電子・情報通信・物理系実験室を中心としたフロア

3〜4名のチームを組み楽しくディスカッションしながら、最大で150名程度が一斉に電気電子・情報通信系の学生実験を行える実習室や、クリーンルームで半導体を実際に製作し評価する施設、最新のIP情報通信ネットワーク技術と光通信技術を学習・検証できる場など、実践的な知識・技術を修得できる設備を設置しています。



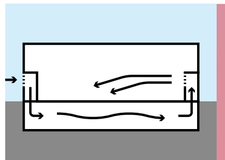
4F 水質・化学系実験室を中心としたフロア

アーム式局所排気装置や天井排気フードを備えた実験台と広い作業スペースを確保できる実験台が整備された水質・化学系実験室は、作業ごとのエリア使い分けや分野横断的な実験・研究の実施、パーティションにより3つの実験室としての使用も可能です。主に環境応用化学科、都市マネジメント学科、電気電子工学科の3学科が使用します。



設備配管の見える化

一般的には隠されて設置される設備配管（上水・雑用水、汚水・雑排水及びその通気の配管）を「見える化」しています。

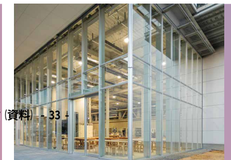


cool & warm pit

1階の実験室は空調設備の代わりに地中空間で冷やされた（冬は温められた）空気を循環させて室内の空調と換気に利用しています。

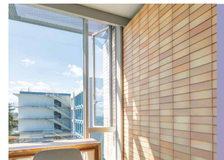
建築構造や素材の見える化

耐震のための構造ブレースの「見える化」やさまざまな建築素材に触れられる内外装によ



ガラスカーテンウォール

1階はガラスカーテンウォールにより屋内外から活動の様子が感じられる「見える実験室」となっていて学生の興味を引き出します。



wind catch wall

tohtech SPOT から連続して外壁化したタイル壁が自然の風をキャッチして、室内に通風を促す地形を生かした工夫があります。

tohtech SPOT

tohtech SPOT は各階に連続的に設けられた吹き抜け空間で、学生同士や学生と教員の交流を促進する「居場所」となります。

工学部　電気電子工学課程　　１年次時間割（前期）

※教室の収容人数は【資料１５】を参照

曜日	組	1講時		2講時		3講時		4講時		5講時	
		科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室
月	1			電気数学Ⅰ及び同演習	923 924 925						
	2										
火	1			健康・運動科学実習Ⅰ	長町C 体育館他	スタディスキル【X】 スタディスキル【Y】 スタディスキル【Z】	R132 R136 R137	キャリアデザインⅠ	R121		
	2										
水	1	フレッシュパーソンセミナー	各研究室	電気数学Ⅰ及び同演習	913 914 915	物理基礎【X組】 物理基礎【Y組】 物理基礎【Z組】	913 914 915				
	2										
木	1	情報基礎	131	プログラミングⅠ	811	英会話Ⅰ	935				
	2					プログラミングⅠ	811	英会話Ⅰ	935		
金	1	数学基礎【1組X】 数学基礎【1組Y】	924 925	化学基礎【1組X】 化学基礎【1組Y】	922 923	英語ⅠA【R組】	912	英語ⅠA【P組】	913		
	2	化学基礎【2組X】 化学基礎【2組Y】	922 923	数学基礎【2組X】 数学基礎【2組Y】	924 925			英語ⅠA【Q組】	914		
土	1	人工知能総論	メディア								
	2										

注）使用教室等は（案）であり、今後他学科の講義との調整等により変更する場合が有り得る。

工学部　電気電子工学課程　　２年次時間割（前期）

※教室の収容人数は【資料１５】を参照

曜日	組	1講時		2講時		3講時		4講時		5講時	
		科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室
月	1	英会話Ⅲ	921	物理学Ⅱ	922	電気回路Ⅱ及び同演習	132				
	2			電気回路Ⅱ及び同演習	132	物理学Ⅱ	922				
火	1	英語ⅡA	911			電磁気学Ⅰ	132	電気数学Ⅲ	913		
	2			英語ⅡA	911	電気数学Ⅲ	913	電磁気学Ⅰ	132		
水	1			電気回路Ⅱ及び同演習	132	アルゴリズム基礎	811	基本情報技術Ⅰ	131	資格英語Ⅰ	122
	2			アルゴリズム基礎	811	電気回路Ⅱ及び同演習	132	基本情報技術Ⅰ	132		
木	1					スポーツ科学実習	長町C 体育館他	キャリアデザインⅡ	R131		
	2										
金	1	統計基礎	131	電気化学	131	東北文化史 現代社会論	937 122				
	2										
土	1	サステナビリティ入門	メディア								
	2										

注）使用教室等は（案）であり、今後他学科の講義との調整等により変更する場合が有り得る。

工学部　電気電子工学課程　　３年次時間割（前期）

※教室の収容人数は【資料１５】を参照

曜日	組	1講時		2講時		3講時		4講時		5講時	
		科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室
月	1	マルチメディアシステム	915 916	電気回路Ⅳ	914	日本国憲法 産業社会と心理学	4B31 122	ビジネスマナー 科学思想史	923 924	情報社会の経済	611
	2	電気回路Ⅳ	914	マルチメディアシステム	915 916						
火	1	職業指導（工業）	934								
	2			センサ工学	914	電気電子工学実験Ⅱ					L315 L316
水	1	産業社会と倫理	121	センサ工学	912	電気電子工学実験Ⅱ					L315 L316
	2										
木	1	基本情報技術Ⅱ	121	情報社会とモラル	937	電子回路Ⅰ	915	組込システム入門	916	キャリアデザインⅢ	4B31
	2	基本情報技術Ⅱ	122			組込システム入門	916	電子回路Ⅰ	915		
金	1	固体電子工学Ⅱ	912	制御工学	913	工業概論	936	資格英語Ⅲ	912		
	2	制御工学	913	固体電子工学Ⅱ	912						
土	1	人工知能基礎	メディア								
	2										

注）　使用教室等は（案）であり、今後他学科の講義との調整等により変更する場合が有り得る。

工学部　電気電子工学課程　　４年次時間割（前期）

※教室の収容人数は【資料１５】を参照

曜日	組	1講時		2講時		3講時		4講時		5講時	
		科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室
月	1					バイオ・光エレクトロニクス	121	ロボティクス	122		
	2										
火	1							パワーエレクトロニクス	121	現代の哲学	122
	2										
水	1			電気電子材料	121	電気電子工学研修Ⅱ		各研究室			
	2										
木	1										
	2										
金	1					電気電子工学研修Ⅱ		各研究室			
	2										
土	1										
	2										

注）　使用教室等は（案）であり、今後他学科の講義との調整等により変更する場合が有り得る。

工学部　電気電子工学課程　　１年次時間割（後期）

※教室の収容人数は【資料１５】を参照

曜日	組	1講時		2講時		3講時		4講時		5講時	
		科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室
月	1	電気回路Ⅰ及び同演習	122	物理学Ⅰ【X組】 物理学Ⅰ【Y組】 物理学Ⅰ【Z組】	922 923 924	電気数学Ⅱ及び同演習			922 923 924		
	2	電気回路Ⅰ及び同演習	132								
火	1			健康・運動科学実習Ⅱ	長町C 体育館他	英語ⅠB【P組】	R126	英語ⅠB【Q組】	R129		
	2					英語ⅠB【R組】	R128				
水	1			英会話Ⅱ	4B42	工学概論	132	表象文化論 メディア文化史	131 121		
	2										
木	1	工学基礎実験			L415・L416 L422	電気回路Ⅰ及び同演習	122	プログラミングⅡ	812		
	2	電気回路Ⅰ及び同演習	132	プログラミングⅡ	811	工学基礎実験			L415・L416 L422		
金	1	線形代数	921	無機化学	915						
	2	無機化学	915	線形代数	921						
土	1	人工知能入門	メディア	グリーンテクノロジー	メディア						
	2										

注）使用教室等は（案）であり、今後他学科の講義との調整等により変更する場合が有り得る。

工学部　電気電子工学課程　　２年次時間割（後期）

※教室の収容人数は【資料１５】を参照

曜日	組	1講時		2講時		3講時		4講時		5講時	
		科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室
月	1			数値計算法	916	コンピュータネットワーク	121				
	2										
火	1			市民と法 暮らしと心理学	121 4B41	英語ⅡB	912	電気回路Ⅲ	913		
	2					電気回路Ⅲ	913	英語ⅡB	912		
水	1	英会話Ⅳ	4B42			電気電子計測	4B41				
	2			電気電子計測	4B41	電気電子工学実験Ⅰ					L304・L315 L316
木	1			固体電子工学Ⅰ	913	ディジタル回路	914	基本情報技術Ⅱ	914	資格英語Ⅱ	913
	2			ディジタル回路	914	固体電子工学Ⅰ	913	基本情報技術Ⅱ	913		
金	1	電磁気学Ⅱ	4B41	電気電子工学実験Ⅰ					L304・L315・ L316		
	2			電磁気学Ⅱ	4B41						
土	1	地球環境と諸問題	メディア								
	2										

注）使用教室等は（案）であり、今後他学科の講義との調整等により変更する場合が有り得る。

工学部　電気電子工学課程　　３年次時間割（後期）

※教室の収容人数は【資料１５】を参照

曜日	組	1講時		2講時		3講時		4講時		5講時	
		科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室
月	1			中国の文化と言葉 韓国の文化と言葉	913 914					フランスの文化と言葉 異文化理解	132 121
	2										
火	1			卒業研修Ⅰ	各研究室	電気電子工学実験Ⅲ					L315･L316
	2										
水	1	情報理論	121	電力工学概論	121					情報と職業	912
	2										
木	1			電子回路Ⅱ	131						
	2					電気電子工学実験Ⅲ					L315･L316
金	1	情報社会の経済	122	創造開発	132	電気機械工学	131			人工知能応用	メディア 812 916
	2										
土	1										
	2										

注）使用教室等は（案）であり、今後他学科の講義との調整等により変更する場合が有り得る。

工学部　電気電子工学課程　　４年次時間割（後期）

※教室の収容人数は【資料１５】を参照

曜日	組	1講時		2講時		3講時		4講時		5講時	
		科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室
月	1										
	2										
火	1										
	2										
水	1					電気電子工学研修Ⅲ	各研究室				
	2										
木	1					電気法規	132	品質管理及び知的財産	132		
	2										
金	1			エネルギー変換工学	122	電気電子工学研修Ⅱ	各研究室				
	2										
土	1										
	2										

注）使用教室等は（案）であり、今後他学科の講義との調整等により変更する場合が有り得る。

工学部　情報通信工学課程　　１年次時間割（前期）

※教室の収容人数は【資料１５】を参照

曜日	組	1講時		2講時		3講時		4講時		5講時	
		科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室
月	1	フレッシュパーソンセミナー	131 各研究室	解析Ⅰ	937	プログラミング入門	812				
	2										
火	1	化学基礎【X組】 化学基礎【Y組】 化学基礎【Z組】	923 924 925	プログラミング入門	131	英語ⅠA【P組】	912	英語ⅠA【Q組】	914		
	2							英語ⅠA【R組】	915		
水	1	情報通信工学入門	L314 L315 131・132	スタディスキル【X】 スタディスキル【Y】 スタディスキル【Z】	923 924 925	ベクトルと行列	937	情報工基礎	937		
	2										
木	1	情報リテラシーⅠ	812	数学基礎	132	物理基礎【X組】 物理基礎【Y組】 物理基礎【Z組】	923 924 925				
	2										
金	1			健康・運動科学実習Ⅰ	長町C 体育館他	キャリアデザインⅠ	R121	英会話Ⅰ	R136		
	2										
土	1	人工知能総論	メディア								
	2										

注）　使用教室等は（案）であり、今後他学科の講義との調整等により変更する場合が有り得る。

工学部　情報通信工学課程　　２年次時間割（前期）

※教室の収容人数は【資料１５】を参照

曜日	組	1講時		2講時		3講時		4講時		5講時	
		科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室
月	1	英会話Ⅲ	921	アカデミックスキル	L314 L315	物理学Ⅱ	131	電気回路Ⅰ及び同演習	131		
	2										
火	1	統計基礎	121	論理回路	4B41	コンピュータネットワークⅡ	131	電気数学	131		
	2										
水	1			電気回路Ⅰ及び同演習	131	基本情報技術Ⅰ	4B41	プログラミング実践	812	資格英語Ⅰ	122
	2	プログラミング実践	812								
木	1			スポーツ科学実習	長町C 体育館他	英語ⅡA	R122				
	2							英語ⅡA	R122		
金	1	解析Ⅲ	937	キャリアデザインⅡ	4B31	東北文化史 現代社会論	937 122				
	2										
土	1	サステナビリティ入門	メディア								
	2										

注）　使用教室等は（案）であり、今後他学科の講義との調整等により変更する場合が有り得る。

工学部　情報通信工学課程　　３年次時間割（前期）

※教室の収容人数は【資料１５】を参照

曜日	組	1講時		2講時		3講時		4講時		5講時	
		科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室
月	1			電気回路Ⅲ	121	日本国憲法 産業社会と心理学	4B31 122	ビジネスマナー 科学思想史	923 924		
	2										
火	1	職業指導(工業)	934	通信工学Ⅰ	4B31	電磁気学Ⅱ	4B31	コンピュータグラフィックス 技術	937 812		
	2										
水	1	産業社会と倫理	121	基本情報技術Ⅲ	4B31	情報セキュリティ	4B42	計算機工学Ⅱ	4B42	キャリアデザインⅢ	4B42
	2										
木	1	アプリケーション開発	916	情報社会とモラル	937	情報通信工学実験Ⅱ					L314 L315
	2	情報社会とモラル	937	アプリケーション開発	916						
金	1	半導体デバイス	132	情報通信工学セミナー	4B41	工業概論	936	資格英語Ⅲ	912		
	2										
土	1	人工知能基礎	メディア								
	2										

注）　使用教室等は（案）であり、今後他学科の講義との調整等により変更する場合が有り得る。

工学部　情報通信工学課程　　４年次時間割（前期）

※教室の収容人数は【資料１５】を参照

曜日	組	1講時		2講時		3講時		4講時		5講時	
		科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室
月	1										
	2										
火	1							光通信工学	921	現代の哲学	122
	2										
水	1										
	2										
木	1					データ分析	921	音響工学	921		
	2										
金	1					情報通信工学研修Ⅱ			各研究室		
	2										
土	1										
	2										

注）　使用教室等は（案）であり、今後他学科の講義との調整等により変更する場合が有り得る。

工学部　情報通信工学課程　　１年次時間割（後期）

※教室の収容人数は【資料１５】を参照

曜日	組	1講時		2講時		3講時		4講時		5講時	
		科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室
月	1	コンピュータネットワークⅠ	121 L314 L315	解析Ⅱ及び同演習	937	アルゴリズムとデータ構造 及び同演習	122 812				
	2			アルゴリズムとデータ構造 及び同演習	915 811	解析Ⅱ及び同演習	937				
火	1			電気回路入門	131	物理学Ⅰ	131				
	2										
水	1	情報リテラシーⅡ	131	英会話Ⅱ	4B42	表象文化論 メディア文化史	131 121				
	2										
木	1	解析Ⅱ及び同演習	937	アルゴリズムとデータ構造 及び同演習	122 812	工学概論	132	線形代数	911		
	2	アルゴリズムとデータ構造 及び同演習	122 812	解析Ⅱ及び同演習	937			線形代数	122		
金	1			健康・運動科学実習Ⅱ	長町C 体育館他	英語ⅠB【P組】	R127	英語ⅠB【Q組】	R136		
	2							英語ⅠB【R組】	R127		
土	1	人工知能入門	メディア	グリーンテクノロジー	メディア						
	2										

注）　使用教室等は（案）であり、今後他学科の講義との調整等により変更する場合が有り得る。

工学部　情報通信工学課程　　２年次時間割（後期）

※教室の収容人数は【資料１５】を参照

曜日	組	1講時		2講時		3講時		4講時		5講時	
		科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室
月	1			ソフトウェア設計	122 812	情報通信工学実験Ⅰ					L314・L315
	2										
火	1	電子回路Ⅰ及び同演習	L314 L315			市民と法 暮らしと心理学	121 4B41	データベース	937 811		
	2									データベース	937 811
水	1	英会話Ⅳ	4B42	計算機工学Ⅰ	131	英語ⅡB	914	基本情報技術Ⅱ	937		
	2										
木	1			電気回路Ⅱ及び同演習	4B31	電磁気学Ⅰ	4B31	統計学	4B31	資格英語Ⅱ	913
	2										
金	1	電気回路Ⅱ及び同演習	132	コンピュータ数値解析	937 811 812						
	2										
土	1	地球環境と諸問題	メディア								
	2										

注）　使用教室等は（案）であり、今後他学科の講義との調整等により変更する場合が有り得る。

工学部　情報通信工学課程　　３年次時間割（後期）

※教室の収容人数は【資料１５】を参照

曜日	組	1講時		2講時		3講時		4講時		5講時	
		科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室
月	1	卒業研修Ⅰ	131 各研究室	中国の文化と言葉 韓国の文化と言葉	913 914					フランスの文化と言葉 異文化理解	132 121
	2										
火	1	ディジタル信号処理	937 812	電子回路Ⅱ	937	情報通信工学実験Ⅲ【G組】					L313・L314 L401・L412
	2										
水	1	情報理論	121	通信工学Ⅱ	937	電波工学	937			情報と職業	912
	2										
木	1	組込みシステム設計	L314 L315			情報通信工学実験Ⅲ【H組】					L313・L314 L401・L412
	2			組込みシステム設計	L314 L315						
金	1	情報社会の経済	122	電気・電子計測	121					人工知能応用	メディア 812 916
	2										
土	1										
	2										

注）　使用教室等は（案）であり、今後他学科の講義との調整等により変更する場合が有り得る。

工学部　情報通信工学課程　　４年次時間割（後期）

※教室の収容人数は【資料１５】を参照

曜日	組	1講時		2講時		3講時		4講時		5講時	
		科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室
月	1										
	2										
火	1										
	2										
水	1			電力工学	4B31	情報通信工学研修Ⅲ	各研究室				
	2										
木	1										
	2										
金	1			電気通信法規	914	情報通信工学研修Ⅲ	各研究室				
	2										
土	1										
	2										

注）　使用教室等は（案）であり、今後他学科の講義との調整等により変更する場合が有り得る。

工学部　都市工学課程　　1年次時間割（前期）

※教室の収容人数は【資料１５】を参照

曜日	組	1講時		2講時		3講時		4講時		5講時	
		科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室
月	1			フレッシュパーソンセミナー	122						
火	1			都市工学セミナーⅠ	121	物理基礎 化学基礎	924 925	人間行動と心理	912		
水	1			物理基礎 化学基礎	911 921	環境・防災工学	922	スタディスキル	913		
木	1	数学基礎	924			英語ⅠA	922	情報基礎	811 812		
金	1	英会話Ⅰ	R136	キャリアデザインⅠ	R129	健康・運動科学実習Ⅰ	長町C 体育館 他				
土	1	人工知能総論	メディア								

注）使用教室等は（案）であり、今後他学科の講義との調整等により変更する場合が有り得る。

工学部　都市工学課程　　2年次時間割（前期）

※教室の収容人数は【資料１５】を参照

曜日	組	1講時		2講時		3講時		4講時		5講時	
		科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室
月	1	英会話Ⅲ	921	空間測量Ⅰ	913	基礎地盤工学	923	都市工学セミナーⅢ	937	構造力学基礎Ⅰ	937
火	1			統計基礎	4B32	空間測量実習			4B32		
水	1			スポーツ科学実習	長町C 体育館 他	東北文化史 現代社会論	R121 R129			資格英語Ⅰ	121
木	1	プログラミング演習	811	鉄筋コンクリートⅠ	4B31	水理学基礎Ⅰ	934	キャリアデザインⅡ	4B32		
金	1	社会的計画論	921	英語ⅡA	921	都市政策入門	921				
土	1	サステナビリティ入門	メディア								

注）使用教室等は（案）であり、今後他学科の講義との調整等により変更する場合が有り得る。

工学部　都市工学課程　　3年次時間割（前期）

※教室の収容人数は【資料１５】を参照

曜日	組	1講時		2講時		3講時		4講時		5講時	
		科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室
月	1					統計解析	913	水理学応用Ⅰ	911	日本国憲法 産業社会と心理学	131 132
火	1	職業指導(工業)	934	都市計画	122	構造力学応用	937	上下水道工学	122		
水	1	産業社会と倫理	121	都市工学セミナーⅤ	937 各研究室	河川工学	912	地盤防災工学	912	キャリアデザインⅢ	132
木	1	情報社会とモラル	937			都市工学実験Ⅰ			L103 L105 L202 L304		
金	1			ビジネスマナー 科学思想史	121 122	工業概論	936	資格英語Ⅲ	912		
土	1	人工知能基礎	メディア								

注）使用教室等は（案）であり、今後他学科の講義との調整等により変更する場合が有り得る。

工学部　都市工学課程　　4年次時間割（前期）

※教室の収容人数は【資料１５】を参照

曜日	組	1講時		2講時		3講時		4講時		5講時	
		科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室
月	1										
火	1							鋼構造学	934	現代の哲学	122
水	1							都市工学実験Ⅱ			L104 L202 L417 L423
木	1					プロジェクトマネジメント	913				
金	1					都市工学研修Ⅱ			各研究室		
土	1										

注）使用教室等は（案）であり、今後他学科の講義との調整等により変更する場合が有り得る。

工学部　都市工学課程　　1年次時間割（後期）

※教室の収容人数は【資料１５】を参照

曜日	組	1講時		2講時		3講時		4講時		5講時	
		科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室
月	1			都市工学セミナーⅡ	4B41	都市と観光	934	工学概論	913	地震工学	913
火	1			プログラミング入門	916	微分積分	915	物理学Ⅰ【X組】 物理学Ⅰ【Y組】	914 915		
水	1			英会話Ⅱ	4B42	コンクリート	4B21	メディア文化史 表象文化論	131 121		
木	1			化学 CAD	924 916	CAD 化学	916 924	線形代数	921		
金	1					健康・運動科学実習Ⅱ	長町C 体育館 他	英語ⅠB	R132		
土	1	人工知能入門　メディア		グリーンテクノロジー　メディア							

注）使用教室等は（案）であり、今後他学科の講義との調整等により変更する場合が有り得る。

工学部　都市工学課程　　2年次時間割（後期）

※教室の収容人数は【資料１５】を参照

曜日	組	1講時		2講時		3講時		4講時		5講時	
		科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室
月	1					水理学基礎Ⅱ	132	数理的計画論 および同演習	915		
火	1			数理的計画論 および同演習	915	市民と法 暮らしと心理学	121 4B41	構造力学基礎Ⅱおよび同演習	4B41	応用数学	4B41
水	1	英会話Ⅳ	4B42	都市工学セミナーⅣ	132	経済学通論	912	応用地盤工学	912	環境システム	934
木	1					鉄筋コンクリートⅡ	937			資格英語Ⅱ	913
金	1			英語ⅡB	935	構造力学基礎Ⅱおよび同演習	937				
土	1	地球環境と諸問題　メディア									

注）使用教室等は（案）であり、今後他学科の講義との調整等により変更する場合が有り得る。

工学部　都市工学課程　　3年次時間割（後期）

※教室の収容人数は【資料１５】を参照

曜日	組	1講時		2講時		3講時		4講時		5講時	
		科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室
月	1			中国の文化と言葉 韓国の文化と言葉	913 914	都市交通計画	936	エンジニアリング・デザイン	121・912 911・934 811	フランスの文化と言葉	132
火	1			社会基盤マネジメント	912	都市工学研修Ⅰ	937				
水	1			水文学	122	地理情報システム	916	道路工学	913	情報と職業	912
木	1	空間測量Ⅱ	912	都市環境工学	132	水理学応用Ⅱ	912				
金	1	情報社会の経済 異文化理解	122 121							人工知能応用	メディア 812 916
土	1										

注）使用教室等は（案）であり、今後他学科の講義との調整等により変更する場合が有り得る。

工学部　都市工学課程　　4年次時間割（後期）

※教室の収容人数は【資料１５】を参照

曜日	組	1講時		2講時		3講時		4講時		5講時	
		科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室
月	1										
火	1										
水	1							都市工学研修Ⅲ			各研究室
木	1										
金	1							都市工学研修Ⅲ			各研究室
土	1										

注）使用教室等は（案）であり、今後他学科の講義との調整等により変更する場合が有り得る。

工学部　環境応用化学課程　　1年次時間割（前期）

※教室の収容人数は【資料１５】を参照

曜日	組	1講時		2講時		3講時		4講時		5講時	
		科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室
月	1			物理基礎【X組】 物理基礎【Y組】	934 935			科学リテラシー	916		
火	1			数学基礎【X組】 化学基礎【Y組】	4B21 4B42	化学基礎【X組】 数学基礎【Y組】	4B42 4B21	キャリアデザインⅠ	4B42		
水	1			情報基礎	916	循環型社会形成論	122	英語ⅠA【X組】 英語ⅠA【Y組】	922 923		
木	1					フレッシュパーソンセミナー	914				
金	1	英会話Ⅰ	R136	健康・運動科学実習Ⅰ	長町C 体育館 他	スタディスキル	R129				
土	1	人工知能総論	メディア								

注）使用教室等は（案）であり、今後他学科の講義との調整等により変更する場合が有り得る。

工学部　環境応用化学課程　　2年次時間割（前期）

※教室の収容人数は【資料１５】を参照

曜日	組	1講時		2講時		3講時		4講時		5講時	
		科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室
月	1	英会話Ⅲ	921	統計基礎	921	物理学Ⅱ	914	英語ⅡA	912		
火	1	無機化学	913	大気環境工学	913	分析化学実験			L415 L416		
水	1					スポーツ科学実習	長町C 体育館 他			資格英語Ⅰ	122
木	1	微分積分学Ⅱ	912	機器分析Ⅰ	911	東北文化史 現代社会論	121 122	キャリアデザインⅡ	4B32		
金	1	物理化学Ⅱ	911	有機化学Ⅱ	911	地球環境とエネルギー	911	緑地環境工学	921		
土	1	サステナビリティ入門	メディア								

注）使用教室等は（案）であり、今後他学科の講義との調整等により変更する場合が有り得る。

工学部　環境応用化学課程　　3年次時間割（前期）

※教室の収容人数は【資料１５】を参照

曜日	組	1講時		2講時		3講時		4講時		5講時	
		科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室
月	1			応用数学	912	応用化学実験	L415 L416			日本国憲法 産業社会と心理学	131 132
火	1	職業指導（工業）	934	機器分析Ⅱ	921	化学数学Ⅰ	812				
水	1	産業社会と倫理	121	錯体化学	922	ビジネスマナー 科学思想史	121 131				
木	1	情報社会とモラル	937	電気化学	122	固体・光化学	132	土壌環境工学	132	キャリアデザインⅢ	4B32
金	1	地域環境調査実習	L417			工業概論	936	資格英語Ⅲ	912		
土	1	人工知能基礎　メディア									

注）使用教室等は（案）であり、今後他学科の講義との調整等により変更する場合が有り得る。

工学部　環境応用化学課程　　4年次時間割（前期）

※教室の収容人数は【資料１５】を参照

曜日	組	1講時		2講時		3講時		4講時		5講時	
		科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室
月	1										
火	1					CAD技術入門	916			現代の哲学	122
水	1					環境応用化学研修Ⅱ	全教員				
木	1										
金	1					環境応用化学研修Ⅱ	全教員				
土	1										

注）使用教室等は（案）であり、今後他学科の講義との調整等により変更する場合が有り得る。

工学部　環境応用化学課程　　1年次時間割（後期）

※教室の収容人数は【資料１５】を参照

曜日	組	1講時		2講時		3講時		4講時		5講時	
		科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室
月	1			有機化学Ⅰ	911			メディア文化史 表象文化論	122 132		
火	1	環境マネジメント	913	物理化学Ⅰ	913	分析化学	911	微分積分学Ⅰ	923		
水	1			英会話Ⅱ	4B42			英語ⅠB【X組】 英語ⅠB【Y組】	935 936		
木	1			工学概論	936	物理学Ⅰ	915	線形代数	915		
金	1			健康・運動科学実習Ⅱ	長町C 体育館 他						
土	1	人工知能入門　メディア		グリーンテクノロジー　メディア							

注）使用教室等は（案）であり、今後他学科の講義との調整等により変更する場合が有り得る。

工学部　環境応用化学課程　　2年次時間割（後期）

※教室の収容人数は【資料１５】を参照

曜日	組	1講時		2講時		3講時		4講時		5講時	
		科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室
月	1			熱力学	132	地域環境調査法及び同演習			916		
火	1			市民と法 暮らしと心理学	121 4B41	物理化学実験			L415 L416 L422		
水	1	英会話Ⅳ	4B42	環境化学	911	表面化学	915	化学工学	914		
木	1			生化学基礎	121	高分子化学	811	英語ⅡB	912	資格英語Ⅱ	913
金	1	水環境工学	914								
土	1	地球環境と諸問題　メディア									

注）使用教室等は（案）であり、今後他学科の講義との調整等により変更する場合が有り得る。

工学部　環境応用化学課程　　3年次時間割（後期）

※教室の収容人数は【資料１５】を参照

曜日	組	1講時		2講時		3講時		4講時		5講時	
		科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室
月	1			中国の文化と言葉 韓国の文化と言葉	913 914			有機・無機材料	914	フランスの文化と言葉	132
火	1			異文化理解	914	化学数学Ⅱ及び同演習			132		
水	1	資源循環とライフサイクル アセスメント	915	放射化学	914					情報と職業	912
木	1					機能材料	934	環境応用化学研修Ⅰ	各研究室		
金	1	情報社会の経済 異文化理解	122 121	生化学	936	触媒化学	936			人工知能応用	メディア 812 916
土	1										

注）　使用教室等は（案）であり、今後他学科の講義との調整等により変更する場合が有り得る。

工学部　環境応用化学課程　　4年次時間割（後期）

※教室の収容人数は【資料１５】を参照

曜日	組	1講時		2講時		3講時		4講時		5講時	
		科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室	科目名	教室
月	1										
火	1										
水	1					環境応用化学研修Ⅲ	各研究室				
木	1										
金	1					環境応用化学研修Ⅲ	各研究室				
土	1										

注）　使用教室等は（案）であり、今後他学科の講義との調整等により変更する場合が有り得る。

《 教室（講義室）の収容定員一覧 》

● 八木山キャンパス

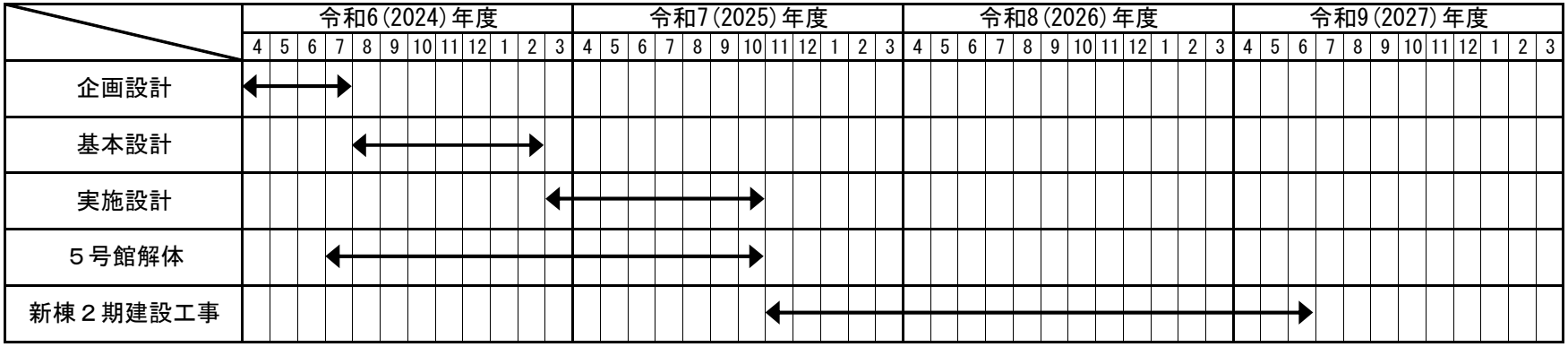
号館	教室名	収容定員
1	121	236人
	122	142人
	131	231人
	132	147人
	133	142人
4	4B21	168人 （ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ対応可能）
	4B31	252人 （ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ対応可能）
	4B32	120人 （ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ対応可能）
	4B33	73人 （ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ対応可能）
	4B41	189人 （ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ対応可能）
	4B42	189人 （ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ対応可能）
6	631	175人
	632	175人
9	911	112人
	912	112人
	913	112人
	914	112人
	915	112人
	921	96人 （ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ対応可能）
	922	96人 （ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ対応可能）
	923	96人 （ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ対応可能）
	924	96人 （ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ対応可能）
	925	96人 （ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ対応可能）
	934	96人 （ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ対応可能）
	935	96人 （ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ対応可能）
	936	96人 （ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ対応可能）
	937	234人

● 長町キャンパス

号館	教室名	収容定員
1	R121	240人
	R122	120人
	R123	120人
	R124	83人
	R125	88人
	R126	120人
	R127	120人
	R128	120人
	R129	240人
	R131	240人
	R132	100人 （ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ対応可能）
	R133	100人 （ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ対応可能）
	R136	100人 （ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ対応可能）
	R137	100人 （ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ対応可能）
	R138	240人
4	R421	210人 （ｱｸﾃｨﾌﾞﾗｰﾆﾝｸﾞ対応可

※ 両キャンパスとも、大学院専用の講義室および演習室等は除く

【八木山キャンパス整備計画　５号館解体及び新棟２期棟建設スケジュール】



東北工業大学の大学評価に関する規程

（趣旨）

第１条　この規程は、東北工業大学学則並びに東北工業大学内部質保証方針に基づき、東北工業大学（以下「本学」という。大学、大学院及び法人部門を含む。）における大学評価の実施に関し必要な事項について定める。

（目的）

第２条　本学における大学評価は、本学の教育・研究水準の不断の向上並びに法人運営全般の継続的改善を図ることを目的とする。

（評価総括）

第３条　本学における大学評価全般に関する事項を掌理するため、理事会の下に大学評価総括委員会（以下「総括委員会」という。）を置く。

２　総括委員会の運営については、別に定める。

（自己点検・評価）

第４条　本学は、第２条に掲げる目的を達成するため、自己点検・評価を行う。

２　前項に定める自己点検・評価は、原則として毎年実施する。

３　第１項の自己点検・評価を行うため、総括委員会の下に、大学自己評価委員会（以下「自己評価委員会」という。）を置く。

４　自己評価委員会の運営については、別に定める。

（外部評価）

第５条　前条の自己点検・評価について、社会的評価を検証し、客観性及び妥当性を得るため、外部有識者等による評価（以下「外部評価」という。）を行う。

２　前項の外部評価を行うため、総括委員会の下に、外部評価委員会を置く。

３　外部評価委員会の運営については、別に定める。

（認証評価）

第６条　本学は、学校教育法の定めに基づき、本学の教育研究等の総合的な状況について、文部科学大臣の認証を受けた評価機関による評価（以下「認証評価」という。）を受けるものとする。

２　前項の認証評価は、学校教育法施行令で定める期間内に受けるものとする。

３　認証評価に係る対応は、総括委員会が行う。

（事務局）

第７条　この規程に関する事務は、大学企画室が行う。

（改廃）

第８条　この規程の改廃は、常勤理事会が行う。

附　則

この規程は、平成17年４月１日から施行する。

附　則

この規程は、平成31年４月１日から改正施行する。

附　則

この規程は、令和２年４月１日から改正施行する。

大学自己評価委員会規程

（目的）

第１条　この規程は、東北工業大学（以下「本学」という。）の大学評価に関する規程に基づき、大学自己評価委員会（以下「委員会」という。）の運営等について必要な事項を定める。

（任務）

第２条　委員会は、文部科学大臣が認証した評価機関が示す点検・評価項目の中から、年度毎に大学評価総括委員会（以下「総括委員会」という。）が指定する項目に沿って全学レベルの自己点検・評価を行うとともに、各部局レベルの自己点検・評価（総括）の結果を取りまとめる。

２　委員長は、前項の自己点検・評価の結果及び改善を要する事項を、総括委員会に報告する。

（組織）

第３条　委員会は、次に掲げる者をもって構成する。

（１）　学長
（２）　副学長
（３）　学部長
（４）　研究科長
（５）　総合教育センター長
（６）　ＡＩ教育推進室長
（７）　入試委員長
（８）　教務委員長
（９）　学生委員長
（10）　就職委員長
（11）　広報委員長
（12）　附属図書館長
（13）　ウェルネス委員長
（14）　地域連携センター長
（15）　研究支援センター長
（16）　情報サービスセンター長
（17）　学修支援センター長
（18）　法人本部事務局長
（19）　大学事務局長
（20）　法人本部事務局次長
（21）　大学事務局次長
（22）　その他、学長が必要と認めた者

２　委員の任期は２年とする。ただし、重任を妨げない。

（運営）

第４条　委員会に委員長を置き、学長があたる。

２　委員長は、必要の都度委員会を招集し、その議長となる。

３　委員長に事故あるときは、委員長が予め指名する委員が代理する。

（部門）

第５条　委員長は、委員会の下に次の部門を置くことができる。

（１）　大学評価部門
（２）　大学院評価部門
（３）　法人評価部門

第５条の２　前項に定める部門を設置する場合は、部門ごとに主査を置き、第３条第１項各号に掲げる委員の中から、委員長が指名する。

（事務局）

第６条　委員会の事務は、大学企画室が行う。

（改廃）

第７条　この規程の改廃は、代議員幹事会の議を経て大学評価総括委員会がこれを決定する。

附　則

１　この規程は、平成17年４月１日から施行する。

２　この規程の制定に伴い、東北工業大学自己評価委員会規程、東北工業大学大学院自己評価委員会規程及び学校法人東北工業大学法人本部自己評価委員会規程は、廃止する。これに伴い、東北工業大学自己評価要綱、東北工業大学大学院自己評価要綱及び学校法人東北工業大学法人本部自己評価要綱は、廃止する。

附　則

この規程は、平成22年10月１日から改正施行する。

附　則

この規程は、平成26年４月１日から改正施行する。

附　則

この規程は、平成27年４月１日から改正施行する。

附　則

この規程は、平成28年４月１日から改正施行する。

附　則

この規程は、平成30年４月１日から改正施行する。

附　則

この規程は、平成31年４月１日から改正施行する。

附　則

この規程は、令和２年４月１日から改正施行する。

附　則

この規程は、令和３年４月１日から改正施行する。

1	キャリアデザインⅠ	FGE-CCS-101	必修 1単位 1年前期
	Career Design Ⅰ		

授業形態		該当科目		SDGs の取り組み
○	単独(１人が全回担当)		教職科目（工業）	
	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)		教職科目（情報）	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目（商業）	
	クラス分け(クラス分けで担当する)		地域志向科目	
		○	実務経験のある教員担当	
		○	アクティブラーニング	
			メディア授業	

クラス・担当教員

全組
高橋　秀太郎

授業の達成目標

受講者が以下の能力を身に付けること（またはできるようになること）を、本授業の達成目標とします。
●キャリアデザイン力の養成
・自分自身のキャリアをデザインすることの意義や必要性を理解し、自身の将来の展望を広い視野で考えることができる。
・自身のこれまでの経験について、客観的に自己評価することができる。
・自己評価の結果と将来の展望を踏まえて、短期的な目標やアクションプランを立てることができる。
●ベーシックスキルの向上
・チームで働くために必要な基本的コミュニケーションスキルを身に付けている
●共通学士力の理解
・本学学士力を身に付けるための具体的な取り組み方法を理解しており、大学生活で実践する姿をイメージできる。

授業の概要

本講義は、座学と実践の2つの形式で行われ、自己分析の方法を学ぶとともに、将来的な展望を自身で構築する（＝キャリアをデザインする）ための基本的な力を養います。
座学では、在学中に身につけるべき「共通学士力」の内容、キャリアデザインとは何か、本学の先輩たちの就職活動や進路状況はどのようなものかなどを理解してもらいます。実践ではPROGテストの受検・総括も含めて自己分析を丁寧に行い、その結果について学生同士で話し合ったり、チームを組んで課題に取り組み、プレゼンテーションを行ったりします。
話を聞くだけ、あるいは実践だけでは大きな成長は望めません。座学で事実や理論、ノウハウに関して理解し、そこで身に付けた知識・方法をもとに実際に動いてみることでキャリアデザインのための基本的なスキルが身につくように講義を構成しています。「課題提出」は、次の講義の予習、準備であると同時に、自らをスキルアップさせるための機会としてとらえ、積極的に取り組んでください。（各回の細かな内容は下記授業計画を参照のこと）

実務経験を活かした教育について

「キャリア」という言葉の先行イメージにとらわれず、地に足のついた「振り返り」を丹念にしていくことで、本質的な意味でのキャリア形成を目指します。 そのために講義デザインは、個々人の「思考力」を鍛える「思考訓練」を施し、自身について論理的かつ魅力的な「キャリア」を表現できるようにしています。

メディア授業の実施形態

教科書等

講義ごとにレジュメ、講義資料を適宜配布する。

参考書等

成績評価方法・基準

①講義ごとの取り組みへの評価（PROG テストを受検する、結果のフィードバックを受ける、毎回のワークシート提出とその内容）50%
②期末課題結果への評価（提出とその内容）50% 以上の①②を総合的に評価し、合わせて 60% 以上に達した者に単位を認定する。

課題や試験等に対するフィードバック方法

各課題については、授業時に全体に対しフィードバックを行う。

備考

教養

1	キャリアデザインⅠ	FGE-CCS-101	必修 1単位 1年前期
	Career Design Ⅰ		

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	時間(時)
第1回	ガイダンス・キャリア概論① キャリアとは？キャリアデザインとは？本学での学びと	自身のキャリアについて考えてみる	0.5
		求められる共通学士力を確認する	0.5
第2回	自己理解と能力測定 アセスメントテスト(PROGテスト)の受検	自身のこれまでの経験を振り返る	0.5
		設問に対しての自身の経験を振り返る	0.5
第3回	キャリア概論② これまでの経験の振り返りと現状の自己評価	これまでの経験について振り返りを行う	0.5
		グループワークを通じて得た自己評価と他者評価を振り返る	0.5
第4回	キャリア概論③ 大学入学動機の整理とアクションプランの整理	大学入学動機について振り返る	0.5
		アクションプランを実行に移すための調整をする	0.5
第5回	キャリア概論④ グループワークレクチャー&課題発見トレーニング	グループワークに必要なコミュニケーションについて考える	0.5
		自身に足りないグループワークにおけるコミュニケーション能力を整理する	0.5
第6回	社会人基礎力プログラム① テーマ提供企業のPBL：導入・目標設定/グループ活動	ニュースを見ておく	0.5
		テーマ分析の手法について振り返り行い、再実施をする	0.5
第7回	社会人基礎力プログラム② テーマ提供企業のPBL：企画書作成レクチャー&グルー	グループ内で出た課題について整理する	0.5
		課題発見トレーニングで学んだ手法をもとに、再度課題を分析する	0.5
第8回	社会人基礎力プログラム③ テーマ提供企業のPBL：グループワーク	企業課題を纏める	0.5
		資料作成の手順を踏まえ、現状の企画進捗の状況を確認する	0.5
第9回	社会人基礎力プログラム④ テーマ提供企業のPBL：グループワーク	グループ内へ発信するアイディアを考える	0.5
		アイディアの妥当性を検証する	0.5
第10回	社会とのつながり 企業/インターンシップの理解とアクションプランへの	自身の社会・企業理解について整理する	0.5
		インターンシップ情報について調べてみる	0.5
第11回	将来の進路と活躍のフィールド 大学院進学の勧めと4年生の経験談を聞く	大学院への進学における考え方をまとめる	0.5
		経験談を聞いて改めて自身のアクションプランについて整理する	0.5
第12回	アセスメントツールを活用して自身の特性を理解する PROGテスト結果のフィードバックと解説	第4回授業の内容を確認する	0.5
		今後のアクションプランを再考する	0.5
第13回	社会人基礎力プログラム⑤ テーマ提供企業のPBL：発表&振り返り	発表の準備を行う	0.5
		他グループの発表を聞いて自身のプレゼンテーションを振り返る	0.5
第14回	全体の振り返り（振り返りワークシートの作成） 卒業までの目標とアクションプランの設定	全体授業で印象に残っている授業をピックアップ	0.5
		今後のアクションプランの見直しと実践	0.5

2 キャリアデザインⅡ

FGE-CCS-302 必修 1単位 2年前期

Career Design Ⅱ

授業形態		該当科目		SDGs の取り組み
○	単独(1人が全回担当)		教職科目（工業）	
	複数(1回の授業を2人以上が一緒に担当)		教職科目（情報）	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目（商業）	
	クラス分け(クラス分けで担当する)		地域志向科目	
		○	実務経験のある教員担当	
		○	アクティブラーニング	
			メディア授業	

クラス・担当教員

全組
力丸　萠樹

授業の達成目標

受講者が以下の能力を身に付けること（またはできるようになること）を、本授業の達成目標とします。
●キャリアデザイン力の養成
・1年間の大学生活を踏まえ、より具体的なイメージをもって、自分自身のキャリアをデザインすることができる。
・自身の現状と将来の展望について、客観的に自己評価することができる。
・自己評価の結果を踏まえて、目標やアクションプランの修正案または具体的な改善策を考えることができる
●ベーシックスキルの向上
・チームの活動および成果に対して、主体的に貢献することができる。
・与えられた課題の本質的解決策を考え抜くことができる。
・相手に対して効果的に伝わるプレゼンテーションを行うことができる。
●共通学士力の理解
・学修成果可視化システムを活用して、自分自身の学士力到達度（現在のレベル）を把握することができる。

授業の概要

本講義は、座学と実践の2つの形式で行います。まずは座学で「キャリアデザインⅠ」で学んだ基本的な知識の再確認、社会で必要とされる力や先輩たちのキャリアデザインの最新状況の把握をします。座学でキャリアデザインのために必要な知識についての理解を深めていくと同時に、実践としては、1年次と同様PROGテストの受検・総括もふまえた自己の現状分析、グループワークでの経験もふまえた客観的な自己評価を行い、将来社会に出て活躍するために在学中にどのような力を身に付けるべきかを考えていきます。
具体的には、授業前半で、大学1年次の取り組みについてアセスメントツールを活用して自己評価をしたり、自己分析についての他者評価をもらったりしながら自己理解を深めます。その際には自身が学んでいる専門科目と社会のつながりを意識することが必要になります。
授業後半では、企業課題を解決する PBL（Project Based Learning：課題解決型学習）を通じて、チームに主体的に貢献する力、本質的解決策を考え抜く力、プレゼンテーション力を養います。状況に応じて課外でのグループ活動が必要となる場合もあります。グループの状況や期日までの期間を鑑み判断し取り組んでください。最終的には、「社会（想定されるキャリア）で求められる力」と「現状の自身の力（ 自己認識 ）」を前提に、卒業時までの目標設定・行動計画の立案を行います。（各回の細かな内容は下記授業計画を参照のこと）

実務経験を活かした教育について

キャリア形成の支援経験を活かし、一人ひとりが自らの働き方や生き方を主体的に捉え、社会人基礎力の向上と合わせ、納得感を持ちキャリアを形成するための仕組みを構築する。

メディア授業の実施形態

教科書等

講義時にプリントや冊子、講義資料を適宜配布する。

参考書等

成績評価方法・基準

①「PROGテストを受検する・結果のフィードバックを受ける」(50%)
②「２回分（第8回、第11回、第12回）のグループプレゼンテーション結果」(50%)
以上①②を総合的に判断し、得点60%以上に達した者に単位を認定する。

課題や試験等に対するフィードバック方法

各課題については、授業時に全体に対しフィードバックを行う。

備考

教養

2 キャリアデザインⅡ FGE-CCS-302 必修 1単位 2年前期
Career Design Ⅱ

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	時間(時)
第1回	ガイダンス・キャリア概論① キャリアデザインⅠの振り返り・キャリアデザインⅡの	共通学士力、社会人基礎力について確認しておく	0.5
		キャリアデザインⅠで作成した『自分企画書』の内容を確認する	0.5
第2回	キャリア概論② ワークシートを記載し、グループワークでプレゼンテー	『自分企画書』の修正、改良案を立てる	0.5
		グループプレゼンテーションの結果から、ワークシートに記載した内容を再度自己吟味し、加筆修正してみる	0.5
第3回	進路研究①（ゲストプレゼン含） 大学院進学　『院』に進むということ	大学院への進学における考え方をまとめる	0.5
		自身の進路について、大学院に入るという選択肢をシミュレーションしてみる	0.5
第4回	進路研究②（ゲストプレゼン含） 就職することとはなにか	学科の就職先について調べる	0.5
		自身の進路について、就職という選択肢をシミュレーションしてみる	0.5
第5回	自己理解と能力測定アセスメントテスト（PROG テスト）の受検	自身のこれまでの経験を振り返る	0.5
		設問に対しての自身の経験を振り返る	0.5
第6回	進路研究③（ゲストプレゼン含） インターンシップ最前線	企業インターンシップについての理解を深めておく	0.5
		インターン先についての最新情報を調べる	0.5
第7回	PBL実習プラクティス①（課題発見プロセス） ゲストから提供された課題発見シミュレーション（グル	ゲストから提供された課題映像を視聴しておく。グループワークに関するノウハウを過去のレジュメなどにて振り返っておく	0.5
		グループワークで発見した課題についての解決策を構築する	0.5
第8回	PBL実習プラクティス②（課題解決プロセス） ゲストから提供された課題解決シミュレーション（プレ	第7回でのグループワークを踏まえ、課題解決のための方策をプレゼンテーション資料にまとめ発表準備をしておく	0.5
		プレゼン後、グループにて結果検証をする	0.5
第9回	PBL実習①（課題発見プロセス） ゲストから提供された課題発見（グループワーク）	実習プラクティス同様、ゲストからの課題映像を視聴し、新規グループにて課題解決をする準備をしておく	0.5
		グループにて課題解決のためのプランを練る	0.5
第10回	PBL実習②（課題解決プロセス） ゲストから提供された課題解決（グループワーク）	練ったプランをよく検証し、本プランの構築準備をする	0.5
		資料やプレゼンテーションの準備をしておく	0.5
第11回	PBL実習③（課題解決プレゼンテーション予選） ゲストから提供された課題に対する解決策のプレゼンテ	資料作成・発表準備	0.5
		プレゼン後、グループにて結果検証をする	0.5
第12回	課題プレゼンテーション大会（選抜グループ） 同じ課題を与えられた各クラスの代表チームによるプレ	与条件（テーマ）の確認をしておく	0.5
		自グループと他グループのプレゼンテーション内容の差異を分析し、何が評価につながったのかつながらなかったのかを把握する	0.5
第13回	アセスメントツールを活用して自身の特性を理解する PROG テスト結果のフィードバックと解説	第5回授業の内容を確認する復習	0.5
		今後のアクションプランを再考する	0.5
第14回	全体の振り返り（第2回作成ワークシートをもとにして改良） 卒業までの目標とアクションプランの確認・修正（上記ワークシートをもとにプランを新たなシートに作成する）	第2回作成ワークシートの内容を確認しておく	0.5
		新たに設定したアクションプランの実践	0.5

3	キャリアデザインⅢ	FGE-CCS-503	必修 1単位 3年前期
	Career Design Ⅲ		

授業形態		該当科目		SDGs の取り組み
○	単独(１人が全回担当)		教職科目（工業）	
	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)		教職科目（情報）	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目（商業）	
	クラス分け(クラス分けで担当する)		地域志向科目	
		○	実務経験のある教員担当	
		○	アクティブラーニング	
			メディア授業	

クラス・担当教員

全組
高橋　秀太郎

授業の達成目標

受講者が以下の能力を身に付けること（またはできるようになること）を、本授業の達成目標とします。
●キャリアデザイン力の養成
・これまでの大学生活を振り返り、自分自身の特性や社会の状況などを踏まえて、卒業後の進路を意識した現実的なキャリアをデザインすることができる。
・目指すキャリアの実現のために必要なことを整理し、中長期の目標と計画を立て、在学中に実行に移すことができる。
●ベーシックスキルの向上
・進路選択の活動を円滑に進めるために必要な基礎スキルを身に付けている。
・業界研究や企業研究等、進路選択に関する研究を自分の力で行うことができる。
●共通学士力の理解
・より高いレベルの学士力を身に付けるために必要な方法を考え、実行に移すことができる。

授業の概要

「キャリアデザインⅠ・Ⅱ」で身につけた知識を再確認するとともに、在学中に講義内外で行ってきた実践の成果や3回目となるPROGテストの受検・総括を通して自己を客観的に分析・評価し、自身の特性を把握します。さらに社会に出るための本格的な準備作業、具体的は進路選択や、業界研究も含めた就職活動に関わる座学・実践を行います。
最新の社会・企業状況、就活状況、先輩たちのキャリアデザインの現状についての理解をふまえつつ、本講義を通してより明瞭になるはの卒業後の進路にむけて、残りの大学生活で何をすべきかを考え、実践に移してもらいます。（各回の細かな内容は下記授業計画を参照こと）

実務経験を活かした教育について

キャリア形成の支援経験を活かし、一人ひとりが自らの働き方や生き方を主体的に捉え、社会人基礎力の向上と合わせ、納得感を持ちキャリアを形成するための仕組みを構築する。

メディア授業の実施形態

教科書等

講義時にプリントや冊子、講義資料を適宜配布する。

参考書等

成績評価方法・基準

①「PROG テストを受検する・結果のフィードバックを受ける・振り返りワークシートを提出する」(50%)②「２回分のレポート提出とその内容」(50%) 以上の①②を総合的に評価し、合わせて 60% 以上に達した者に単位を認定する。

課題や試験等に対するフィードバック方法

各課題については、授業時に全体に対しフィードバックを行う。

備考

教養

3	キャリアデザインⅢ	FGE-CCS-503	必修 1単位 3年前期
	Career Design Ⅲ		

授業計画（各回の学習内容等）

	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	時間(時)
第1回	ガイダンス・キャリア概論① キャリアデザインⅢの目的・これからの準備について	キャリアデザインⅠ、Ⅱの学びを整理する	0.5
		自身のキャリアについて再考する	0.5
第2回	就活基礎力プログラム① インターンシップの傾向を知り、対策をする	インターンシップ参加の目的を整理する	0.5
		夏のインターンシップ参加に向けて候補企業を3社リストアップする	0.5
第3回	学内インターンシップについて 大学院のすすめ	大学院への進学における考え方をまとめる	0.5
		学内インターンシップ応募方法について整理する	0.5
第4回	就活基礎力プログラム② 自己分析と仕事研究	キャリアデザインⅠ、Ⅱで使用したワークシートを整理する	0.5
		自身の特徴、把握している企業情報について整理する	0.5
第5回	自己理解と能力測定 アセスメントテスト(PROGテスト)の受検	自身のこれまでの経験を振り返る	0.5
		設問に対しての自身の経験を振り返る	0.5
第6回	ガイダンス・キャリア概論② 人事担当者によるパネルディスカッション①	登壇企業について調べ、質問を考える	0.5
		登壇企業の特徴について纏める	0.5
第7回	ガイダンス・キャリア概論② 人事担当者によるパネルディスカッション②	登壇企業について調べ、質問を考える	0.5
		登壇企業の特徴について纏める	0.5
第8回	ガイダンス・キャリア概論③ 内定者によるパネルディスカッション	登壇内定者への質問を考える	0.5
		登壇内定者の話を聞いて参考になったポイントを整理する	0.5
第9回	就活基礎力プログラム④ 履歴書の作成	大学指定履歴書を確認しておく。	0.5
		第12回の講義に向けて履歴書の作成を進める	0.5
第10回	就活基礎力プログラム⑤ 面接対策・マナー	自身の履歴書の内容を発言する際のポイントを整理する	0.5
		第12回、13回の講義に向けて学びを整理する	0.5
第11回	アセスメントツールを活用して自身の特性を理解する PROGテスト結果のフィードバックと解説	第4回授業の内容を確認する	0.5
		今後のアクションプランを再考する	0.5
第12回	就活基礎力プログラム⑥ アウトプットトレーニング①	企業レポートを纏める	0.5
		アウトプットのポイントを振り返る	0.5
第13回	就活基礎力プログラム⑦ アウトプットトレーニング②	自己PR、ガクチカ、学業について纏める	0.5
		アウトプットトレーニングを経て良かった点、反省点を整理する	0.5
第14回	全体の振り返り（振り返りワークシートの作成） 卒業までの目標とアクションプランの確認・修正	全体授業で印象に残っている授業をピックアップ	0.5
		今後のアクションプランの見直しと実践	0.5

26	ビジネスマナー	EAGE-CCS-642	選択 2単位 3 年後期
	Business Manners		

授業形態		該当科目		SDGs の取り組み
○	単独(１人が全回担当)		教職科目（工業）	
	複数(１回の授業を２人以上が一緒に担当)		教職科目（情報）	
	オムニバス(各回の担当教員が異なる場合)		教職科目（商業）	
	クラス分け(クラス分けで担当する)		地域志向科目	
		○	実務経験のある教員担当	
			アクティブラーニング	
			メディア授業	

クラス・担当教員

全組
浅野　純子

授業の達成目標

人間力を磨き、社会で活躍するための基礎を学習します。社会人として活躍する上で重要な基本マナーやコミュニケーション力、考え方などを身につけます。ビジネスマナーと並行し、将来を決める就職活動の必勝法も学びます。自分の能力を活かし、将来安定した人生を送るために必要な基礎知識を実践的な授業で習得します。

授業の概要

自分自身を見つめ、社会性をもつ人間としての基本を学ぶ。また、仕事への取り組み方やより良い人間関係など、社会人として生きる上で大切な事を学習する。

実務経験を活かした教育について

担当講師は、企業での秘書業務や各種企業・団体での講演と研修講師を数多く歴任した長年にわたる指導実績を基に講義に取り入れている。

メディア授業の実施形態

教科書等

役立つビジネスマナー　浅野 純子

参考書等

成績評価方法・基準

ビジネスマナーの試験問題 70%・面接実践 30%

課題や試験等に対するフィードバック方法

試験の評価等については授業時に全体に対しフィードバックを行う。

備考

26	ビジネスマナー	EAGE-CCS-642	選択 2単位 3 年後期
	Business Manners		

授業計画（各回の学習内容等）

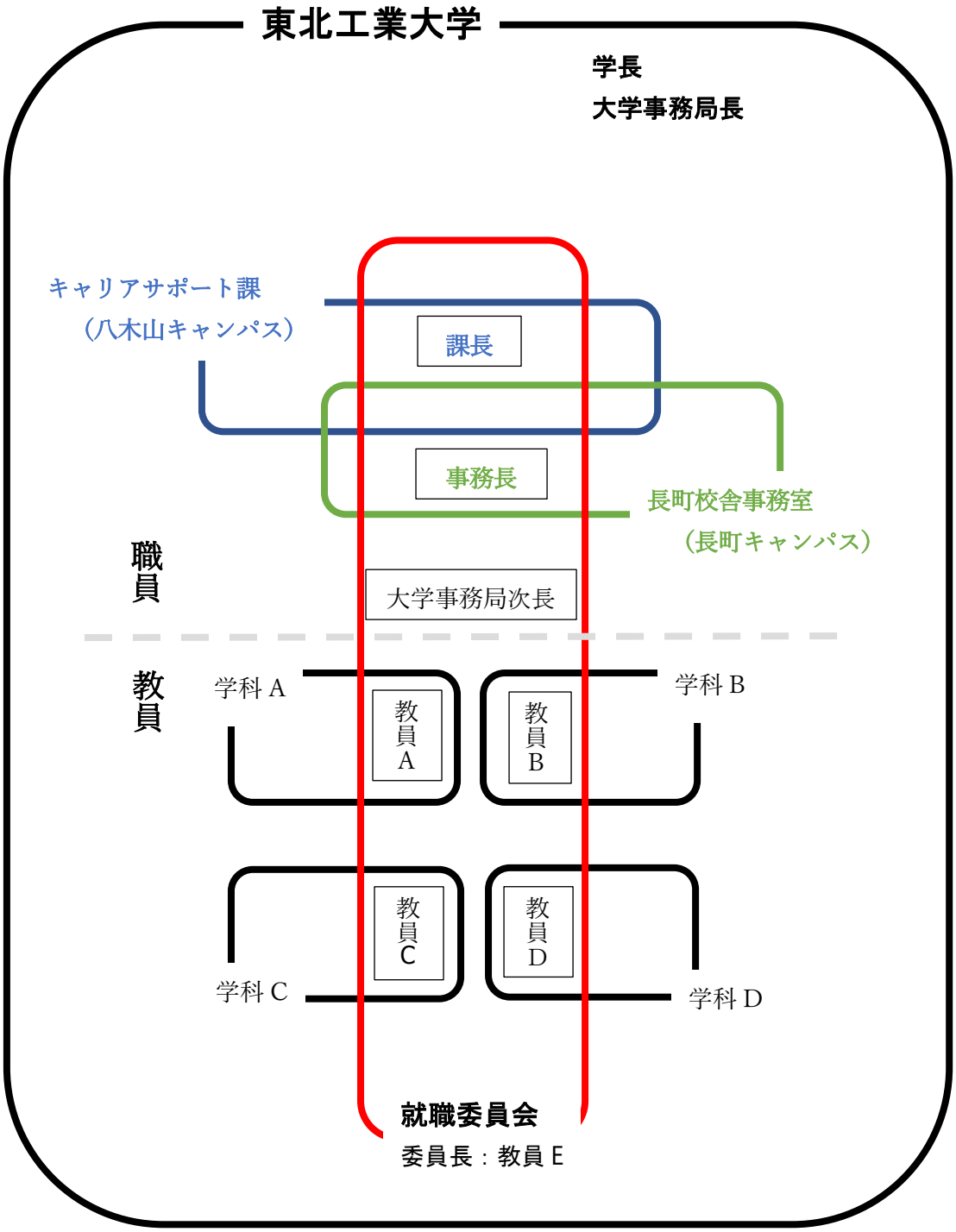
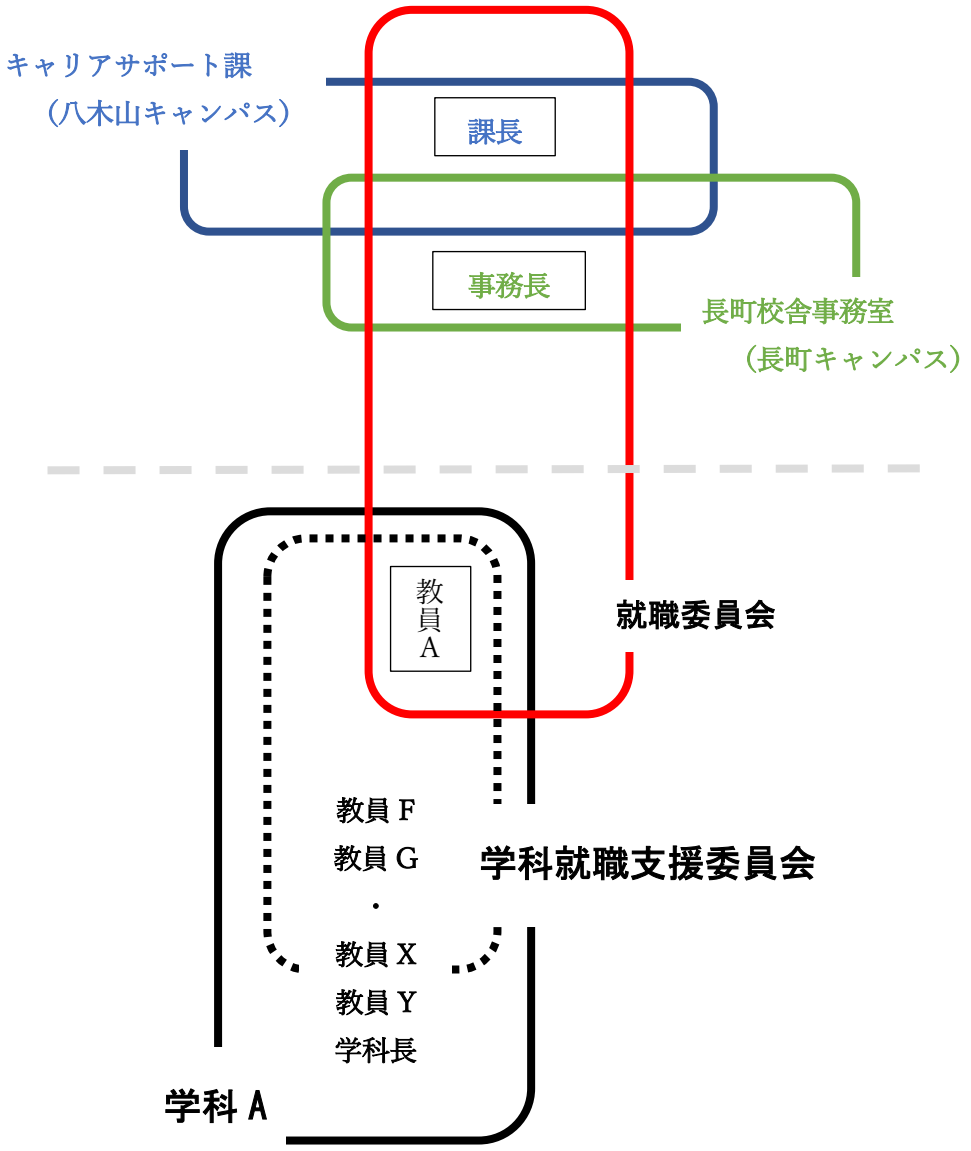
	学習内容（授業方法）	学習課題（上段予習・下段復習）	時間(時)
第1回	能力を出すコツ・健康管理・正しい姿勢・重心・立ち方 お辞儀・挨拶・立ち居振る舞い・歩き方・名刺交換	挨拶・立ち居振る舞いに大切なポイントを考え実践	0.5
		お辞儀・挨拶・歩き方など学んだことを体得する	0.5
第2回	笑顔・目力・滑舌・成功するための 7 つの習慣身だしなみ・リクルートスーツ・カラーと洋服のマナー	自分のイメージアップに必要な事と持ち物リスト作成	0.5
		目力・笑顔・滑舌・成功のための 7 つの習慣を体得する	0.5
第3回	自分に似合う色の見つけ方・言葉遣いの習得による効果 敬語・職場用語・ビジネス会話・言葉遣いテスト	自分の話し方や言葉遣いのクセを書き出す	0.5
		敬語・職場用語・接遇用語を繰り返し音読し習得する	0.5
第4回	間違いやすい言葉遣い・言葉の使い方・クッション言葉 接遇用語とご案内・接遇での正しい敬語表現	敬語の資料を繰り返し音読をする	0.5
		正しい言葉遣い・クッション言葉・接遇用語を音読	0.5
第5回	電話の特性・電話応対の基本・求人応募時の電話応対電話の基本応対とケース別応対・ロールプレイング	笑顔で話す習慣・敬語と正しい言葉遣いの習得	0.5
		電話応対の基本・ケース別応対の資料を音読	0.5
第6回	就職活動必勝法・面接合格ポイント・基本の挨拶の習得 シーン別挨拶言葉の習得・面接質問例の答え方	自分の強み・自分が好きな事・関心がある事の分析	0.5
		笑顔でハキハキと自分の考えを分かりやすく話す練習	0.5
第7回	就職率が高い秘訣・コミュニケーション成功のポイント 面接の流れ・面接の実践練習・履歴書の準備	面接質問に答えられるよう自己分析をし準備	0.5
		面接での答え方を練習し自信をつける	0.5
第8回	東北工業大学の履歴書・履歴書の書き方書類選考合格の秘訣・面接実践練習・合格への道	履歴書を作成できるように準備をする	0.5
		書類選考で通る履歴書を完成させる	0.5
第9回	想定外の質問への対応・価値観・会社選びの優先順位自己ライフサイクルシート・ブラック企業の見極め	一番大切だと思う事・仕事選びの優先順位を書	0.5
		自分の人生の計画・価値観・仕事選びをまとめる	0.5
第10回	ビジネスマナー問題・ビジネスマナー問題の解答・解説 ビジネスマナーポイント・試験の目的と説明	自分が習慣にしたいマナー・改善したいマナーを書く	0.5
		ビジネスマナーのポイントをしっかり覚える	0.5
第11回	人間力・社会人の心構えとプロ意識・職場のマナー報告 連絡相談の仕方・会社の役職と組織・役割	普段から連絡や報告を習慣にする	0.5
		社会人としての心構えやマナーを習慣にし身につける	0.5
第12回	選択と決断力・クレーム対応と実例・ビジネス文書 添え状とお礼状・メールの書き方・敬称・押印・呼称	決断と実行を早くする実践を行う	0.5
		添え状とお礼状の下書きを書く	0.5
第13回	心のマネジメント・魅力的なパーソナリティ・席次より良い人間関係を築くために・訪問・お茶の接遇	人間関係を良くするために実践していることを書く	0.5
		心のマネジメントと魅力的なパーソナリティの音読習慣	0.5
第14回	評価方法の説明・ビジネスでの査定・冠婚葬祭のマナー 食事のマナー・乾杯とお祝いの挨拶・万歳と締めの作	冠婚葬祭や食事のマナーについて不明な点を書き出す	0.5
		冠婚葬祭・食事のマナーなどについて習得をする	0.5

令和５（2023）年度就職支援事業計画

赤文字：新規施策　緑文字：基本対面だが WEB 可能性あり　青文字：WEB 対応　紫文字：WEB 併用対応

	１年	２年	３年	４年・研究生	大学院Ｍ１年	大学院Ｍ２年	就職委員会・各学科・課
４月	・「PROG テスト」（キャリアデザインⅠ授業内） ・インターンシップ説明会（夏期）	・インターンシップ説明会（夏期）	・就職ガイダンス（各学科） ・インターンシップ説明会（夏期）		・就職ガイダンス（各学科） ・インターンシップ説明会（夏期）		・就職委員会（11 日） ・教員向け就職指導研修会（21 日） ・「SHUKATSU Guidebook2025」発行（3 日） ・FSD 研修会「本学におけるインターンシップ等の推進について」（25 日）
５月		・「PROG テスト」（キャリアデザインⅡ授業内）	・「PROG テスト」（キャリアデザインⅢ授業内）				・就職委員会（16 日） ・保護者向けリーフレット、Q&A 発行、発送
６月	・公務員試験説明会（9・16 日） ・民間就職試験対策講座「就活・業界研究・成長産業の見分け方」（17 日）	・公務員試験説明会（9・16 日） ・民間就職試験対策講座「就活・業界研究・成長産業の見分け方」（17 日） ・民間就職試験対策講座「インターンシップ対策講座」（24 日）	・「PROG テスト」解説会（キャリアデザインⅢ授業内） ・公務員試験説明会（9・16 日） ・民間就職試験対策講座「就活・業界研究・成長産業の見分け方」（17 日） ・民間就職試験対策講座「インターンシップ対策講座」（24 日）		・公務員試験説明会（9・16 日） ・民間就職試験対策講座「インターンシップ対策講座」（24 日）		・就職委員会（13 日）
７月	・「PROG テスト」解説会（キャリアデザインⅠ授業内） ・インターンシップ事前研修会（夏期）（21 日）	・「PROG テスト」解説会（キャリアデザインⅡ授業内） ・インターンシップ事前研修会（夏期）（21 日）	・インターンシップ事前研修会（夏期）（21 日） ・民間就職試験対策講座「自己分析講座（1 日）		・インターンシップ事前研修会（夏期）（21 日） ・民間就職試験対策講座「自己分析講座」（1 日）		・就職委員会（7 日） ・保護者向けセミナー（22 日）※有料
８月	・インターンシップ事業実施（夏期） ・企業見学会（7～9 日） ・民間就職試験対策講座「就職活動の基本と自己分析」（19 日）	・インターンシップ事業実施（夏期） ・企業見学会（7～9 日） ・民間就職試験対策講座「就職活動の基本と自己分析」（19 日）	・インターンシップ事業実施（夏期） ・企業見学会（7～9 日） ・民間就職試験対策講座「エントリーシート＆面接実践講座」（5 日） ・民間就職試験対策講座「就活筆記試験攻略セミナー」（26 日）		・インターンシップ事業実施（夏期） ・企業見学会（7～9 日） ・民間就職試験対策講座「エントリーシート＆面接実践講座」（5 日） ・民間就職試験対策講座「就活筆記試験攻略セミナー」（26 日）		・企業見学会（7～9 日）
９月	・インターンシップ事業実施（夏期） ・企業見学会（13～15 日） ・公務員教養試験対策講座（有料）	・インターンシップ事業実施（夏期） ・企業見学会（13～15 日） ・公務員教養試験対策講座（有料）	・インターンシップ事業実施（夏期） ・企業見学会（13～15 日） ・就職ガイダンス（各学科） ・公務員教養試験対策講座（有料） ・就活支援講座	・「PROG テスト」	・インターンシップ事業実施（夏期） ・企業見学会（13～15 日） ・就職ガイダンス（各学科） ・公務員教養試験対策講座（有料） ・就活支援講座		・就職委員会（8 日） ・企業見学会（13～15 日） ・求人依頼のための大学パンフレット納品（27 日）
１０月	・公務員教養試験対策講座（有料）	・公務員教養試験対策講座（有料）	・就活支援講座 ・履歴書(模擬面接用)提出締切 ・模擬面接	・学内合同企業説明会（30 日） ・「PROG テスト」	・就活支援講座 ・公務員教養試験対策講座（有料） ・模擬面接	・学内合同企業説明会（30 日）	・就職委員会（11 日）
１１月	・インターンシップ報告会（夏期）（17 日） ・インターンシップ説明会（冬期）（17 日） ・公務員教養試験対策講座（有料）	・インターンシップ報告会（夏期）（17 日） ・インターンシップ説明会（冬期）（17 日） ・公務員教養試験対策講座（有料） ・民間就職試験対策講座「就活筆記試験攻略セミナー」（11 日）	・就活支援講座 ・履歴書(模擬面接用)提出締切 ・模擬面接 ・インターンシップ報告会（夏期）（17 日） ・インターンシップ説明会（冬期）（17 日） ・公務員教養試験対策講座（有料） ・民間就職試験対策講座「就活筆記試験攻略セミナー」（11 日）		・就活支援講座 ・履歴書(模擬面接用)提出締切 ・模擬面接 ・インターンシップ報告会（夏期）（17 日） ・インターンシップ説明会（冬期）（17 日） ・公務員教養試験対策講座（有料） ・民間就職試験対策講座「就活筆記試験攻略セミナー」（11 日）		・就職委員会（10 日） ・2025.3 卒向け求人依頼発送（27 日）
１２月			・就活支援講座 ・民間就職試験対策講座「本番直前！エントリーシート＆面接実践講座」（2 日）		・就活支援講座 ・民間就職試験対策講座「本番直前！エントリーシート＆面接実践講座」（2 日）		・就職委員会（8 日） ・仕事に関する出前講義（高校生対象）
１月	・インターンシップ事前研修会（12 日）	・インターンシップ事前研修会（12 日）	・インターンシップ事前研修会（12 日） ・合同企業研究セミナー事前オリエンテーション（19 日）		・インターンシップ事前研修会（12 日） ・合同企業研究セミナー事前オリエンテーション（19 日）		・就職委員会（12 日） ・合同企業研究セミナー事前オリエンテーション（19 日）
２月	・インターンシップ事業実施（冬期）	・インターンシップ事業実施（冬期）	・インターンシップ事業実施（冬期） ・合同企業研究セミナー（8.9 日）		・インターンシップ事業実施（冬期） ・合同企業研究セミナー（8.9 日）		・就職委員会（9 日） ・合同企業研究セミナー（8.9 日）
３月	・就職活動早期準備講座（無料）（7.8 日）	・就職活動早期準備講座（無料）（7.8 日）	・就職活動早期準備講座（無料）（7.8 日）		・就職活動早期準備講座（無料）（7.8 日）		・就職委員会（11 日）
通年	・インターンシップ(公務員含む)、業界研究会、セミナーイベント周知	・インターンシップ(公務員含む)、業界研究会、セミナーイベント周知	・就職活動なんでも相談 ・インターンシップ(公務員含む)、業界研究会、セミナーイベント周知	・就職活動なんでも相談 ・学内企業説明会 ・企業説明会(公務員含む)、採用試験日程、情報会社ｲﾍﾞﾝﾄ周知	・就職活動なんでも相談 ・インターンシップ(公務員含む)、業界研究会、セミナーイベント周知	・就職活動なんでも相談 ・学内企業説明会 ・企業説明会(公務員含む)、採用試験日程、情報会社ｲﾍﾞﾝﾄ周知	・内定状況等の統計調査（月末〆，月初報告・集計） ・OB・OG 訪問支援（学生・学科） ・業界研究会企業紹介支援（学科）

本学の就職支援体制の仕組み（大枠）



各学科内での就職支援体制の仕組み